



BOSCH

Access Professional Edition

Access PE - Configuration Manual

ja

APE-Configuration

目次

1	概要	5
1.1	モジュール式设计	5
1.2	サーバーおよびクライアントモジュール	5
2	全般	6
2.1	概要	6
2.2	ユーザーログイン	7
2.3	Configurator のツールバー	10
2.4	一般システム設定	13
3	設定	16
3.1	新しい設定の作成	16
3.2	設定を開く	18
3.3	新しい設定の有効化	19
3.4	コントローラに設定を適用する	19
4	コントローラ	22
4.1	新しいコントローラの定義と変更	22
4.2	コントローラの設定	25
5	信号	27
5.1	入力信号	27
5.2	出力信号	29
5.3	出力信号の条件の定義	33
5.3.1	カードから制御機能を有効化	36
5.4	拡張ボードの作成	38
6	入口	40
6.1	ドアモデルの作成と変更	40
6.2	ディスプレイとパラメータ化	44
6.3	オフィスモード	50
6.4	特定の設定のドアモデル	50
6.5	入口にビデオ機器を割り当てる	51
7	エリア	53
8	人事グループ	57
8.1	キーボードリーダーでのグループアクセス	59
8.2	グループアクセスの制限	59
9	アクセス承認	61
9.1	作成と割り当て	61
9.2	特別な権限	63
10	特別な日	67
10.1	作成と変更	67
11	日付モデル	69
11.1	作成と変更	69
12	時刻モデル	71
12.1	作成と変更	73
13	テキスト	75
13.1	表示テキスト	75
13.2	イベントログのメッセージ	75
14	追加の人事データ	79
15	ビデオ機器	82
15.1	表示と処理	85
16	マップの構成	87

17	マップへの機器の追加	89
18	カード定義	91
19	付録	94
19.1	信号	94
19.2	デフォルトのドアモデル	95
19.3	ドアモデル 01	96
19.4	ドアモデル 03	97
19.5	ドアモデル 06c	97
19.6	ドアモデル 07	98
19.7	ドアモデル 10	100
19.8	ドアモデル 14	101
19.9	侵入防止ドアの設定の例	103
19.10	入口モデル 07 の設定	105
19.11	作動/作動解除の表示	106
19.12	アクセス制御の手順	107
19.13	Access PE ポート	111
20	PIN タイプ	112
21	UL 294 要件	114

1 概要

1.1 モジュール式設計

Access Professional Edition System (以下、「**Access PE**」) は、中小企業向けに自己完結型のアクセスコントロールを提供し、以下の幾つかのモジュールで構成されます。

- LAC Service : LAC (ローカルアクセスコントローラ - 以下、「コントローラ」) と常にコミュニケーションを取るプロセス。AMC (Access Modular Controllers) がコントローラとして使用されます。
- Configurator
- Personnel Management
- Logviewer
- Alarm Management
- Video Verification

1.2 サーバーおよびクライアントモジュール

これらのモジュールは、サーバーおよびクライアントモジュールに分けられます。

LAC サービスは常にコントローラと接続を保つ必要があります。その理由として、まずカード所有者の動き、存在、不在に関するメッセージを常に受け取るから、また新しいカードの割り当てなどのデータの変更をコントローラに送信するから、しかし主にはメタレベルのチェックを行うからです (アクセスシーケンスチェック、アンチパスバックチェック、ランダムスクリーニング)。

Configurator はサーバーでも実行される必要がありますが、クライアントワークステーションにインストールして、そこから実行することもできます。

Personnel Management および Logviewer の各モジュールは Client コンポーネントに属し、Server でも実行でき、サーバーにネットワーク接続のある異なる PC でも実行可能です。

以下のコントローラを使用できます。

- AMC2 4W (4 つの Wiegand リーダーインターフェイス) - AMC2 4W-EXT で拡張可能
- AMC2 4R4 (4 つの RS485 リーダーインターフェイス)

2 全般

2.1 概要

Access PE はアクセスコントロールシステムで、小規模および中規模の設置環境で最高度のセキュリティと柔軟性を提供するように設計されています。

Access PE の安定性と更新可能性は 3 層の設計により実現されています。**第 1 層**は管理レベルで、制御サービスが含まれます。新しいカードの登録やアクセス権限の割り当てなど、すべての管理タスクはここで実行されます。

第 2 層はローカルアクセスコントローラ (LAC) で構成され、ドアまたは入口の各グループを統制します。システムがオフラインでも、LAC は独自に b アクセスコントロールの決定を行えます。LAC は入口の統制、ドアの開閉時間の管理、または重要なアクセスポイントで PIN コードを要求する責任を持ちます。

第 3 層はカードリーダーによって構成されます。

クライアント、サーバー、カード所有者との間の通信は AES によって暗号化されています。

Access PE マルチユーザーバージョンでは、複数のワークステーションがシステムを統制できます。カスタマイズ可能なユーザー権限レベルで、アクセスを管理し、セキュリティを確保します。これにより、1 つのワークステーションでカードデータを保持しながら、別のワークステーションで従業員が建物内にいるかどうかを確認できます。

Access PE は、アクセス権限、タイムモデル、入口パラメータに対して優れた柔軟性を持つ構成を提供します。次のリストは重要な機能の概要を示しています。

迅速で簡単なカードの割り当て

カード (最大 3 枚) は、手動で、またはシリアル接続経由で PC に接続されたダイアログリーダーを使って割り当てることができます。割り当てられたすべてのカードは有効です。カードをアップグレードする場合、古いカードは自動で上書きされて無効になります。そのため、担当者がキャンセルするのを忘れて、できなかつたりした場合でも、古いカードでのアクセスを防げます。

アクセス権限 (グループ権限を含む)

各人は、グループ権限を引き継ぐことも、個別の権限を割り当てられることも可能です。権限は場所で制限することも、1 分単位の時間で制限することもできます。グループ権限は、任意またはすべてのカード所有者に対して同時にアクセス権限を付与または制限するために使用できます。グループ権限は、時刻モデルに依存する、つまり 1 日の特定の時間にアクセスを制限することができます。

アクセスの追跡

場所を定義することにより、アクセスの適切なシーケンスを追跡および強制することができます。この構成では、監視することなく、カード所有者の場所を表示することができます。

アンチパスバック

カードを読み取ると、同じアクセスポイントから入るのを一定期間ブロックすることができます。これにより、ユーザーが自分のカードを後ろに戻して未承認の人にアクセスを提供する「パスバック」を防ぐことができます。

有効期限切れのカードの自動キャンセル

訪問者や臨時スタッフの場合、限定的な期間のみアクセスが必要なことがよくあります。

カードは特定の期間のみ登録することが可能で、その期間が経過すると自動的に有効性が失われます。

時刻モデルと日付モデル

カード所有者には特定の時刻モデルを割り当てることができ、該当者がアクセスできる時間を管理できます。時刻モデルは日付モデルを使って柔軟に定義でき、特定の平日、週末、祝祭日、特別な日が、通常の仕事日とどのように異なるかを識別できます。

PIN コードによる識別

カードではなく特定の PIN コードを使って入場することもできます。

PIN コードによる確認

特に機密性の高い場所では、追加の PIN コードを求めるようプログラムすることもできます。また、この保護は時刻モデルに依存するようにも構成でき、たとえば祝祭日や定義された仕事時間外でのみ PIN コードが求められるように設定できます。

柔軟なドア管理

個別のドアモデルの柔軟なパラメータ化により、セキュリティと使い勝手の良さの絶妙なバランスを保つことができます。「シャント」つまりアラーム抑制期間を個別に指定することにより、ドアが開いている時間を制御できます。アラームシステムとの組み合わせにより、アクセスポイントをオプションでロックすることもできます。

定期的なドアのリリース

アクセスを容易にするために、ドアアラームを抑制することで、特定の期間だけドアを開けたままにすることができます。ドアリリース期間は、手動で定義することも、時刻モデルで自動で定義することもできます。

出退勤管理

アクセスポイントは、パラメータ化して出退勤管理の目的で入場および退場を管理できます。

カードの設計

Access Control システムにはグラフィカルアドインモジュール **Card Personalization** (CP) が完全装備されており、オペレーターはアプリケーションを切り替えることなくカードを作成できます。

写真の割り当て

アドインモジュール **Card Personalization** (CP) が有効でない場合でも、写真 ID をインポートしてカード所有者に関連付けることができます。

オフラインロックシステム

何らかの理由で、可用性の高いオンラインアクセスコントロールシステムが適用されていない場所でも、オフラインでロックすることができます。

ビデオデバイスの管理

入口には追加でカメラを設置して、人の出入りを識別および追跡することができます。

2.2 ユーザーログイン

次のアプリケーションが利用可能です。詳細については、該当するユーザーマニュアルを参照してください。



Personnel Management



Configurator



Logviewer



Map and Alarm Management



Video Verification

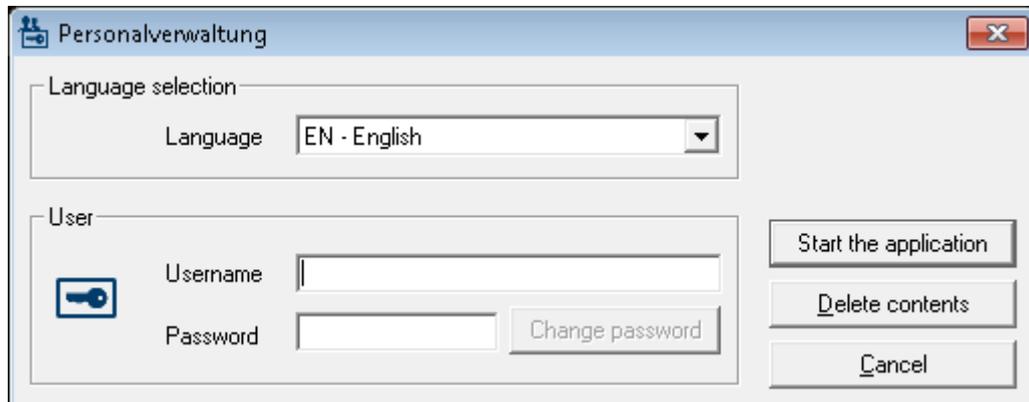
**注記!**

クライアントからのログインは、サーバーで LAC サービスが実行されている場合のみ可能です。

クライアントのログイン

システムのアプリケーションは不正な使用から保護されています。最初の使用におけるデフォルトのパスワードは次のとおりです。

- ユーザー名 : **bosch**
- パスワード : **bosch**



ユーザー名とパスワードを入力すると、**【パスワードの変更】** ボタンが有効になります。

誤った入力を 3 回すると、その後、しばらくしてからでないで次のログオンが行えません。これは、**【アプリケーションの起動】** ボタンと **【パスワードの変更】** ボタンに適用されます。

上部のドロップダウンリストを使って、希望するインタラクションの**言語**を選択できます。デフォルトは、アプリケーションをインストールするのに使われた言語です。アプリケーションを再起動せずにユーザーを変更した場合、以前の言語が維持されます。そのため、ダイアログボックスが希望する言語で表示されない可能性があります。これを避けるには、Access PE に再度ログインします。

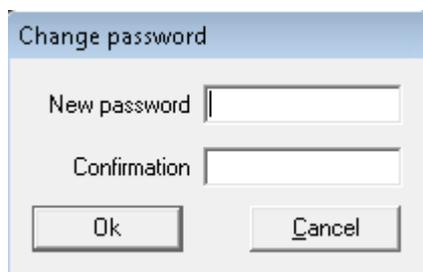
Access PE は次の言語で実行できます。

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 日本語
- ロシア語
- ポーランド語
- 中国語 (中国)
- オランダ語
- スペイン語
- ポルトガル語 (ブラジル)

**注記!**

機器名、ラベル、モデル、ユーザー権限スキーマなどのすべてのファシリティは、入力された言語で表示されます。同様に、オペレーティングシステムが制御するボタンやラベルは、オペレーティングシステムの言語で表示されます。

【パスワードの変更】 ボタンをクリックしたら、次のダイアログでユーザー名とパスワードを入力します。



A dialog box titled "Change password" with a blue header. It contains two text input fields: "New password" and "Confirmation". Below the fields are two buttons: "Ok" and "Cancel".

**注記!**

パスワードは必ず変更してください。

[アプリケーションの起動] ボタンはユーザーの権限を確認し、それに基づいてアプリケーションを起動します。システムがログインを認証できない場合、次のエラーメッセージが表示されます：「ユーザー名またはパスワードが間違っています!」

2.3 Configurator のツールバー

次の機能は、メニュー、ツールバーにあるアイコン、またはショートカットキーで呼び出すことができます。

機能	アイコン/ ショート カット	説明
メニューファイル		
新規	 Ctrl + N	新しい設定を定義するために、すべての設定ダイアログボックスをクリアします（デフォルト設定以外）。
開く...	 Ctrl + O	異なる設定を読み込むためのダイアログボックスを開きます。
保存	 Ctrl + S	変更を現在の設定ファイルに保存します。
名前を付けて保存		現在の設定を新しいファイルに保存します。
設定の有効化		読み込まれた設定を有効化して、現在まで有効だった設定を保存します。
LAC への設定の送信		保存した設定の変更を LAC サービスに送ります。
最近有効な設定を一覧表示		設定を直接開き、【開く】機能の選択ダイアログを迂回します。
終了		Access PE Configurator をシャットダウンします。
メニュービュー		
ツールバー		ツールバーの表示を切り替えます（デフォルト = オン）。
ステータスバー		ウィンドウ下部の端にあるステータスバーの表示を切り替えます（デフォルト = オン）。
メニュー設定		

全般		[全般設定] ダイアログが開き、コントローラおよび全般的なシステムパラメータを設定することができます。
入力信号		入力 信号をパラメータ化するためのダイアログボックスが開きます。
出力信号		出力 信号をパラメータ化するためのダイアログボックスが開きます。
入口		ドアおよびカードリーダーをパラメータ化するための 入口 ダイアログが開きます。
エリア		保護された施設を仮想エリアに分割するための エリア設定 ダイアログが開きます。
休日		休日や特別な日を定義するための 休日 ダイアログが開きます。
日付モデル		アクセス機能の有効化の期間を日単位で定義するための 日付モデル ダイアログボックスが開きます。
時刻モデル		曜日やカレンダーに依存するタイムゾーンを定義するための 時刻モデル ダイアログが開きます。
人事グループ		従業員を論理グループに分けるための 人事グループ ダイアログボックスが開きます。
アクセス承認グループ		入口に対する承認のグループ化を定義するための アクセス承認グループ ダイアログボックスが開きます。
オフラインロックシステム		施設の特別な要素（入口、時刻モデル、承認グループ）を設定するための オフラインロックシステム ダイアログが開きます。
表示テキスト		カードリーダーで表示するテキストを編集するための 表示テキスト ダイアログボックスが開きます。
ログメッセージ		ログメッセージを編集および分類するための ログメッセージ ダイアログボックスが開きます。

追加の人事フィールド		人事のデータフィールドを定義するための 追加の人事フィールド ダイアログボックスが開きます。
Wiegand - カード		カードデータの構造を定義するための Wiegand - カード ダイアログボックスが開きます。
ビデオ機器の管理		ビデオ確認で使用するカメラを設定するための ビデオ機器 ダイアログが開きます。
マップビューアーとアラーム管理		マップと制御デバイスの空中ビューおよびアラーム処理用のアラームリストのための マップビューアー が開きます。

メニュー設定		
ライセンスの有効化		ライセンスの選択または選択解除ができるメニューを開きます。
メッセージとリーダーのテキストをリセット		ログブックとリーダーのテキストを更新する必要がある場合に要求を開きます。

メニュー ? (ヘルプ)		
ヘルプトピック		このヘルプテキストを開きます。
Access Professional Edition - Configurator について		Access Professional Edition - Configurator の全般情報を表示します

2.4 一般システム設定

一般システム設定は、コントローラ設定のリストの下に表示されます。これらはすべてのインストールで有効です。

Default card data Country code <input type="text" value="00"/> Customer code <input type="text" value="056720"/>	PIN code Number of digits <input type="text" value="4"/> Number of retries before blocking <input type="text" value="3"/> <input type="checkbox"/> use separate IDS pin
LAC subsystem process Poll interval on serial connected LAC in ms <input type="text" value="200"/> Read-timeout on serial connected LAC in ms <input type="text" value="500"/> Create TA-data at <input type="text" value="00:01"/> <input type="checkbox"/> Export personnel and TA data	Logbook parameter Number of files <input type="text" value="366"/> (one logfile per day, 0 = unlimited)
<input type="checkbox"/> Show welcome/leaving message <input type="checkbox"/> Show cardholder name in display	Directories Database <input type="text" value="C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\#D"/> Event log <input type="text" value="C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\#V"/> Import files <input type="text" value="C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\#I"/> ... Export files <input type="text" value="C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\#E"/> ... DLL-files <input type="text" value="C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\#D"/> Pictures <input type="text" value="C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\#P"/> ... Test logs <input type="text" value="C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\#L"/>

パラメータ	デフォルト	説明
国コード	00	一部のカードデータは、手動で入力されたカード番号に追加されます。
顧客コード	056720	
シリアル接続 LAC でのポーリング間隔 (ミリ秒)	200	コントローラに対する接続が正常に確立されていることを確認するために LAC-Service が行うポーリングの間隔 (ミリ秒単位) です。
シリアル接続の LAC での読み取りタイムアウト (ミリ秒)	500	ポーリング間隔の値の範囲: 1 ~ 500 読み取りタイムアウトで可能な値: 1 ~ 3000
TA データの作成	00:01	出退勤管理データファイルを作成する時間を指定します。
人事データおよび TA データのエキスポート	無効化済み	このオプションを有効化すると、出退勤管理データが継続的にエキスポートファイルに書き込まれます。 有効化されていない場合、データファイルは TA データの作成 パラメータで指定された時間に作成されます。
出勤タイムスタンプが含まれるファイルは次のディレクトリにあります。 C:\Program Files\Bosch\Access Professional Edition\PE\Data\Export ファイル名: TA_<Current date YYYYMMDD>.dat		

パラメータ	デフォルト	説明
ようこそ/終了メッセージの表示	有効化済み	適切なリーダータイプと設定（入口ダイアログでの 到着 、 出発 、または チェックOK ）を提供すると、リーダーはカード所有者のために Personnel Management アプリケーションの人事データダイアログに保存されている「ようこそ/終了」テキストを表示します。 Wiegand リーダーには適用されません。
カード所有者名をディスプレイに表示	有効化済み	表示付きのリーダーでは、カード所有者の人事データで保存されている 表示名 が表示されます。 Wiegand リーダーには適用されません。
桁数	4	確認 PIN または作動 PIN に必要な桁数が指定されます。 この設定は、入口の構成で設定するドア PIN にも適用されます。 利用可能な値：4 ~ 8
個別の IDS PIN を使用する		個別の IDS PIN が設定されていない場合、IDS を作動させるために確認 PIN を使用することができます。 チェックボックスがオンの場合にのみ、作動 PIN の入力フィールドが人事ダイアログ画面で有効になります。この場合、確認 PIN は IDS を作動するためには使えなくなります。
ブロックするまでの試行回数	3	PIN の入力で失敗可能な回数です。カード所有者が PIN の入力をこの回数分だけ間違えると、システム全体でブロックされ、承認されたシステムユーザーが Personnel Management でのみ解除できます。 利用可能な値：1 ~ 9
ログブックパラメータ	366	1 日あたりのログファイル数 利用可能な値：180 ~ 9999。 注：180 未満の値を入力すると、自動的に最小値の 180 に変更されます。

パラメータ	デフォルト	説明
次へのディレクトリパス： データベース ログファイル インポートファイル エクスポートファイル DLL ファイル 画像データ テストログ	C:\¥Program Files¥BOSCH ¥Access Professional Edition¥PE ¥Data... ¥Db ¥MsgLog ¥Import ¥Export ¥Dll ¥Pictures ¥Log	これらはデフォルトのパスです。インポート、エクスポート、および画像ファイルのディレクトリは変更できます。

**注記!**

Wiegand コントローラおよびリーダーを使用する場合は、識別 PIN、アーミング PIN、またはドア PIN を使用するには、Wiegand カード定義 [**PIN またはカード**] を有効にする必要があります。

3 設定

システムの構成（どこにどの入口があるか、リーダーの数とタイプ、アクセス承認のセットアップ方法など）は、特別なファイルに保存されます。複数の設定ファイル (*.cfg) が存在する可能性があります。*active.cfg という名前のファイルしか現在のシステムに適用できません。これにより、新しいシナリオをテストし、テスト稼働を実行し、システム変更を迅速に行えます。

3.1 新しい設定の作成

すべての Access PE 設定はフォルダー `C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\Cfg` に格納されています（インストール時にデフォルト以外のパスとフォルダー名が選択されていない場合）。インストール時には、**Active.acf** と **Default.acf** の 2 つの設定ファイルが作成されます。

Active.acf にはユーザーに役立つ可能性のあるサンプルデータが含まれますが、Default.acf には事前定義されたシステムデータしか含まれません。

システムデータには次が含まれます。

- エリア **外部**。
- サンプルの休日と特別な日
- 人事グループである**従業員と訪問者**
- リーダー用の表示テキスト。
- ログブックのテキスト

起動時に、Access PE は必ず **Active.acf** の設定を使います。

設定は異なる状態になっている場合がありますが、それぞれを識別する必要があります。

- **アクティブ**な設定は、定義、設定などが稼働中のシステムで使用されています。
- **オープン**（読み込み済み）の設定は、システムユーザーによって現在編集されているものです。後に個別の .acf ファイルに保存されるか、有効化される可能性があります。有効化されるまでは稼働中のシステムには影響を与えません。

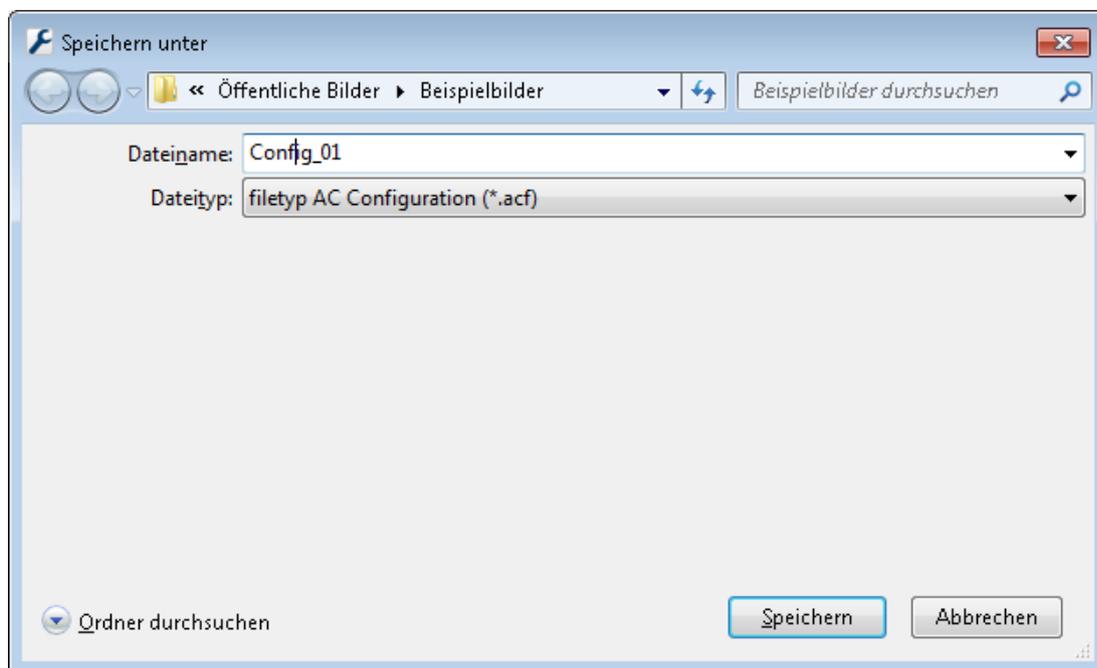
複数の設定を定義して Access PE に保存することができます。新しい設定は稼働中のシステムとは独立して作成および変更できるため、たとえば監視施設に後日追加される新しいエリアを定義することも可能です。



ツールバーにある  ボタンを使用すると、デフォルト設定である **Untitled.acf** とその基本設定を開く（読み込む）ことができます。新しい設定を作成するために変更された場合、別の適切な名前で保存する必要があります。



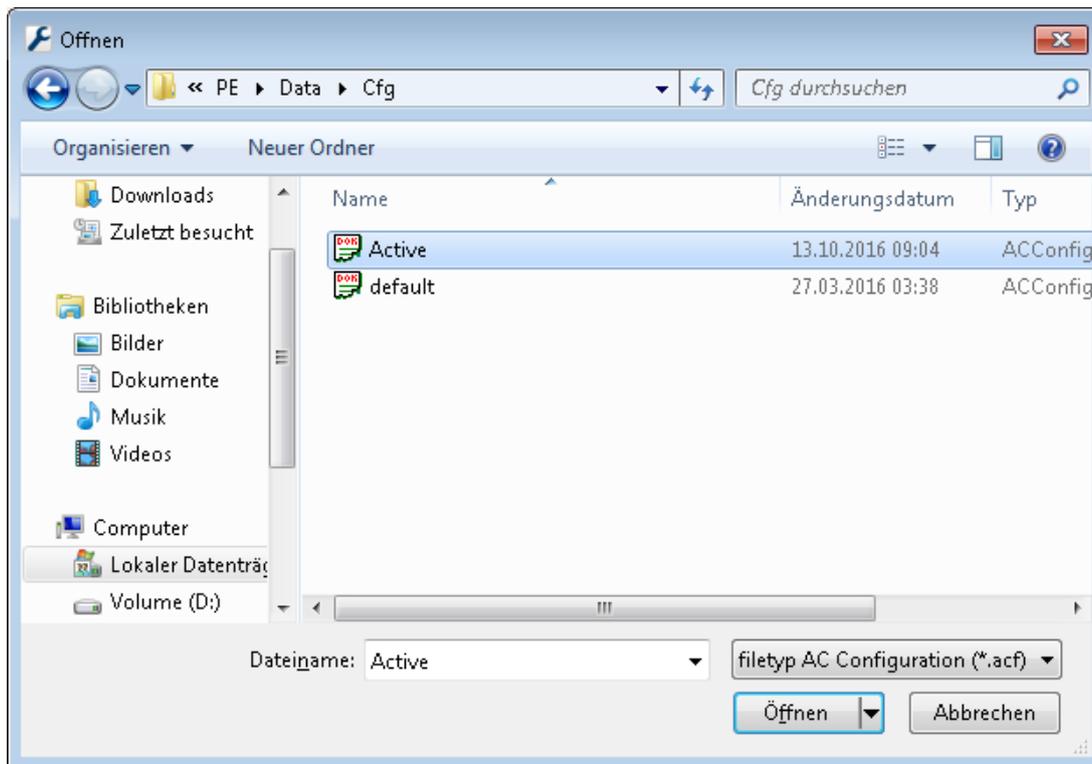
 ボタンは、Cfg ディレクトリでファイルを保存するダイアログを開始します。デフォルトのファイル名 **untitled.acf** は、適した内容のファイル名に置き換える必要があります。



3.2 設定を開く



Configurator は必ず **Active.acf** で開始されます。異なる設定を使用する場合、 ボタンを使うと、フォルダー **C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\Cfg** (デフォルト) から既存の設定を読み込むことができます。



後日に有効化するために既存の設定を変更または拡張する場合、基本設定を開き、変更して、別の名前で保存します。これにより、以前の設定を再利用または拡張ことができ、**default.acf** にある基本設定から毎回始める必要がなくなります。



注記!

有効な設定も新しい名前で作業用コピーとして保存でき、後日に読み込んで作業することができます。

3.3 新しい設定の有効化

Configurator では、複数の .acf ファイルで複数の設定を維持することができます。有効な設定は必ず **Active.acf** ファイルに保存されます。



注意!

新しい設定を有効化すると **active.acf** が上書きされるため、有効な設定のバックアップコピーを新しいファイル名ですぐに作成することが強く勧められています。

設定ファイルは、有効化する前に開く必要があります。ですから、以前に変更して保存した設定を開きます。

開いた設定を有効化するには、次の手順を実行します。

- メニュー: [ファイル] > [設定の有効化] または



- ツールバーの  ボタンを使用します。

その後、有効化はステージごとに進みます。

- 最初に、安全チェックを確認します。

現在の設定を新しい設定に置き換えますか?

- これまで有効だった設定は次の名前形式のファイルでバックアップされます: **\$yyyyMMddhhmmss-Active.acf** (y = 年、M = 月、d = 日、h = 時間、m = 分、s = 秒)。
- その後、現在開かれている設定がファイル名 **Active.acf** で保存されます。つまり、以前に有効だった設定は上書きされます。

情報ボックスには保存されたファイルの名前が表示されます。**新しい設定が <ファイル名>** として保存されました。

3.4 コントローラに設定を適用する

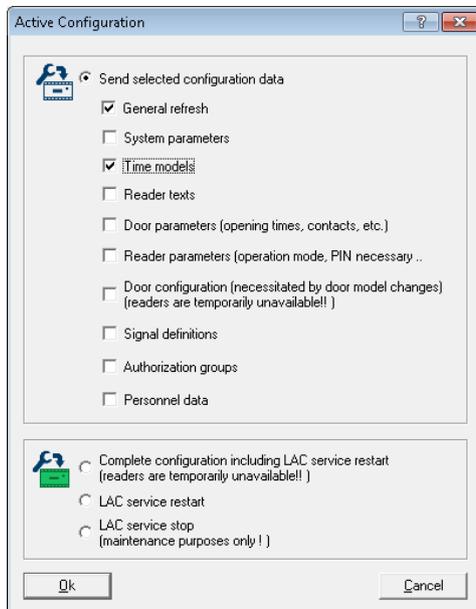
有効な設定 **Active.acf** で変更を行った後、それらの変更をコントローラにまで適用する必要があります。これには 2 つの方法があります。

- メニュー [ファイル] > [LAC サービスへの設定の送信]



- ツールバーの  ボタンを使用

次のダイアログが開き、コントローラに適用する設定データを選択できます。



変更および保存されたデータが事前に設定されています。別のアイテムを選択するか、既に選択されているアイテムを選択解除できます。

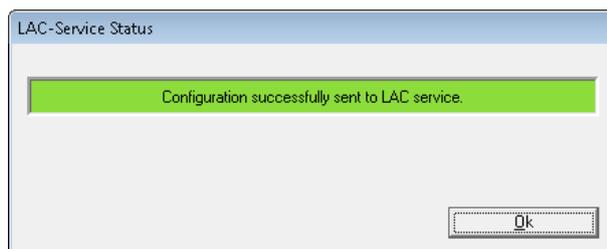
コントローラに適用するデータを選択した後、**[OK]** をクリックします。

設定データ	LAC への適用は次の場合に必要です...
全体的なリフレッシュ	... ログメッセージ、追加のフィールド、またはカード定義が変更された場合。
システムパラメータ	... LAC ハードウェアが変更された場合。
時刻モデル	... 休日、日付、または時刻モデルが変更された場合
リーダーのテキスト	... ディスプレイテキストが変更された場合。
ドアパラメータ	... 入口で次の 1 つ以上が変更された場合 <ul style="list-style-type: none"> - 開く時間 (1/10 秒単位) - ドアコンタクト - ドア制御に関連したデータ (開く時間、コンタクト、時刻プロファイルなど)
リーダーパラメータ	... 入口で次の 1 つ以上が変更された場合 <ul style="list-style-type: none"> - 入場または退場リーダーのデータ - アラーム抑止時間 (1/10 秒単位) - 入口でのアンチパスマック行動 - ドアを開くためのボタン
ドア設定	... 入口でドアモデルが変更された場合。 注意: アドレス (シリアル番号、リーダータイプ) の再入力と変更は、入力マスクの入口の定義でしか実行できません。
信号定義	... 入力または出力信号のパラメータ化が変更された場合

設定データ	LAC への適用は次の場合に必要です...
承認グループ	... 時刻モデルのない承認グループが変更された場合、または新しい時刻モデルが追加または削除された場合。
人事データ	... 人事データが追加または変更された場合、またはアクセス承認グループまたは時刻モデルが変更された場合。
LAC サービスの再開を含む完全な設定	.. Access PE の初期設定が完了した場合。コントローラのリセットでも完全な設定がコントローラにダウンロードされます。
LAC サービスの再開	... 全般設定で、ポーリング間隔または TA データファイルの保存時間が変更された場合。
LAC サービスの停止	このオプションは特殊な状況でのみ使用します。たとえば、アンインストールでコンピュータの再起動を避ける場合など。

Configurator は **LAC サービス** にコマンドを送信し、設定データをコントローラに適用します。LAC サービスはコントローラ間の通信を担います。このプログラムは、Windows サービスとしてインストール時にセットアップされ、起動時に自動で開始されます。

LAC サービスに正常に適用されると、次のように報告されます。



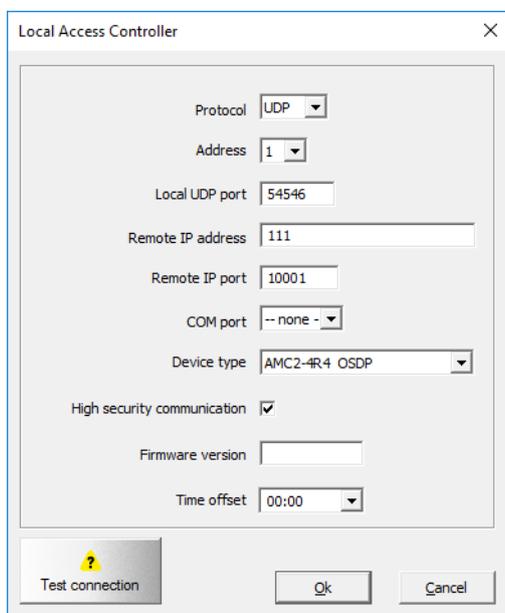
4 コントローラ

ローカルアクセスコントローラ（LAC）は、Access PE においてアクセスコントロール関連のほとんどの決定が行われるポイントです。アクセスシーケンスチェックなどシステム全体のコントロール機能を除き、コントローラはだれにアクセスを許可するかに関する決定を独自に行えます。そのため、アクセス関連のすべてのデータがメモリに保存されており、限定または制限されたオフライン操作も可能です。

Access PE では、AMC2（Access Modular Controller）コントローラが使用されます。

4.1 新しいコントローラの定義と変更

 ボタン（追加）および  ボタン（選択したリスト要素の変更）を使うと、Access PE Server とコントローラとの間のインターフェイスを設定するためのダイアログボックスを呼び出すことができます。



注記!

 [高セキュリティ通信] というチェックボックスが [機器タイプ] で表示されます。別の機器タイプに変更する前に、必ずこのチェックボックスをオフにします。

どのコントローラにも必ずプロトコルが割り当てられている必要があります。次の設定が利用可能です。

- | | |
|------------|--|
| COM | COM インターフェイス番号（COMx）が必要なシリアル（COM）インターフェイス経由の接続 |
| CIP | COM インターフェイス番号（COMx）が必要な TCP/IP over COM 経由の接続。IP/シリアルトランスデューサーのある LACi でのみ利用可能。 |
| UDP | ローカル UDP ポートおよび IP アドレス（または DHCP でのネットワーク名）が必要な UDP 経由の接続。 |

**注記!**

CIP または UDP インターフェイスを使用する場合、コントローラの位置 **5** にある DIL アドレススイッチが**オン**になっていることを確認します。

選択されるプロトコルに応じて、次の表が示すように、異なる追加の設定が必要になります。

パラメータ	COM	CIP	UDP	注記
アドレス	1 ~ 8	1 ~ 8	常に 1	COM または CIP を使用する場合、コントローラの DIL スイッチは同じアドレス設定を使用する必要があります。
ローカル UDP ポート	無効化済み	無効化済み	連続	Access PE サーバーがコントローラからデータを受信するポート。新しいコントローラはその位置に応じて次の空いているポートを受け取りますが、このエントリは上書き可能です。
リモート IP アドレス	無効化済み	無効化済み	IP アドレス またはネットワーク名	DHCP を使用するネットワークでは、ネットワーク名を使用し、それができない場合はコントローラの IP アドレスを使用する必要があります。
リモート IP ポート	無効化済み	無効化済み	変更できない 値 10001	サーバーからデータを受け取るコントローラのポート。
COM ポート	COM ポートのプルダウンリスト	COM ポートのプルダウンリスト	<なし>	コントローラの接続先となっている Access PE サーバーの COM ポートの数。

パラメータ	COM	CIP	UDP	注記
LAC タイプ	コントローラのプルダウンリスト	コントローラのプルダウンリスト	コントローラのプルダウンリスト	次のコントローラタイプが利用可能です。
	AMC-Wiegand			Wiegand リーダーインターフェイス
	AMC-4R4-BG900			RS485 リーダーインターフェイス
	AMC-4R4-L-BUS			RS485 リーダーインターフェイス
	AMC-4R4-OSDP			RS485 リーダーインターフェイス
	LACi-BG900			RS485 リーダーインターフェイス
	LACi-L-Bus			RS485 リーダーインターフェイス
高セキュリティ通信	ホストとコントローラとの間で、コントローラ固有かつセッションベースの AES 128 を使った暗号化を選択するためのチェックボックス。			
ファームウェアバージョン (プロジェクト)	なし	なし	なし	ソフトウェアバージョンを指定するために使用可能
時刻オフセット	AMC が異なるタイムゾーンにある場合にサーバーからの時刻オフセットを指定するコンボボックス。 使用可能な値は -12:00 から +12:00 (30 分間隔)。 サーバーから AMC (その逆も該当) に送信されるすべての時刻はこのオフセットによって調整されます。イベントメッセージではローカル AMC 時刻が使用され、イベントログに表示されます。			

コントローラ (LAC) テスト

設定を行った後、それぞれのコントローラを保存する前に到達可能性をテストできます。これにより、正しくない設定をすぐに見つけ、修正または完了できます。

ダイアログの下部にある **[LAC のテスト]** ボタンでは、現在の設定を使ってコントローラへの接続を試みます。コントローラを定義してからこのテストを実行するには、リストボックスで選択し、 ボタンをクリックします。

テストでは、4 つの結果のいずれかを下記のアイコンで表示し、リストの最初の列にも表示されます。



コントローラはまだテストされていないか無効にされています。



テストが正常に完了しました。接続が確立されました。



テストが失敗しました。



ステータスは保留中です。



注記!

これらのアイコンは現在のステータスを示すものであり、自動的に更新されます。再接続を試みると、ステータスの更新表示が遅れる可能性があります。

コントローラテストには各種のフェーズがあり、その一部はスキップすることができます。

- LAC サービスのスタートアップ。
- LAC プログラムのダウンロード
- 待機状態：
 - コントローラからの構成データの読み込み。
 - コントローラからのステージメッセージの受信
- 接続の試みの結果表示。

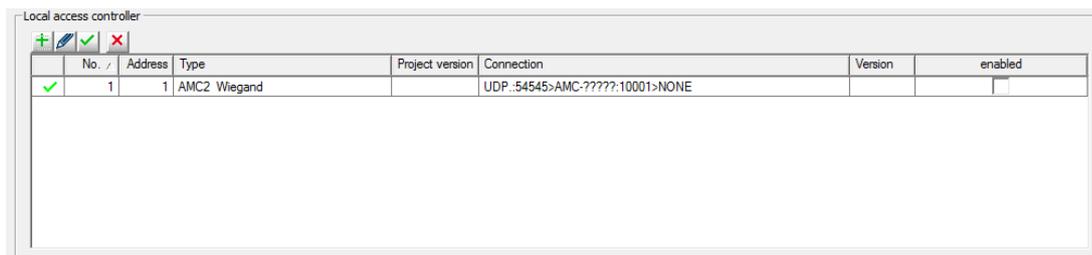
結果に応じて、[LAC サービスのステータス] ダイアログが表示されます。[OK] をクリックすると、テスト結果がリストに表示されます。

4.2

コントローラの設定



ボタンによって呼び出される [全般設定] ダイアログボックスでは、ローカルアクセスコントローラ (LAC) が定義および構成されます。



次の機能のボタンがリストの上部に表示されます。



新しいコントローラの追加。



選択したコントローラの変更。



選択したコントローラのテスト。



選択したコントローラの削除。

リストフィールドには作成されたすべてのコントローラが含まれ、次の情報が表示されます。

列	内容	説明
	、、、または	LAC テストの結果：問題あり、未テスト、または成功
番号	1 ~ 128	コントローラの数

列	内容	説明
アドレス	1 ~ 8	DIL スイッチによって設定されるコントローラの設定済みアドレス。UDP プロトコルの場合、これは必ず 1 です。
タイプ	AMC-Wiegand AMC-4R4 BG900 AMC-4R4 L-Bus AMC-4R4 OSDP LACi BG900 LACi L-Bus	選択したコントローラのタイプ。
プロジェクトバージョン	例 : 37.50	コントローラによって読み込まれる特別なプロジェクトプログラムバージョンです。
接続	例 : UDP : 54545>AMC- DEMO : 10001>NONE	インターフェイスパラメータ : プロトコル : ローカル UDP ポート > ネットワーク名または IP アドレス : リモート IP ポート > COM ポート
バージョン	例 : 37.02	コントローラによって読み込まれるプログラムバージョンです。
Enabled (有効)	有効化または無効化	このチェックボックスが無効化されている場合、LAC サービスでは AMC2 への接続が設定されません。AMC2 はスタンドアロンで機能します。

ダイアログボックスの下部には、Access PE インストールにあるすべての機器とアプリケーションの全般設定が含まれます。



注記!

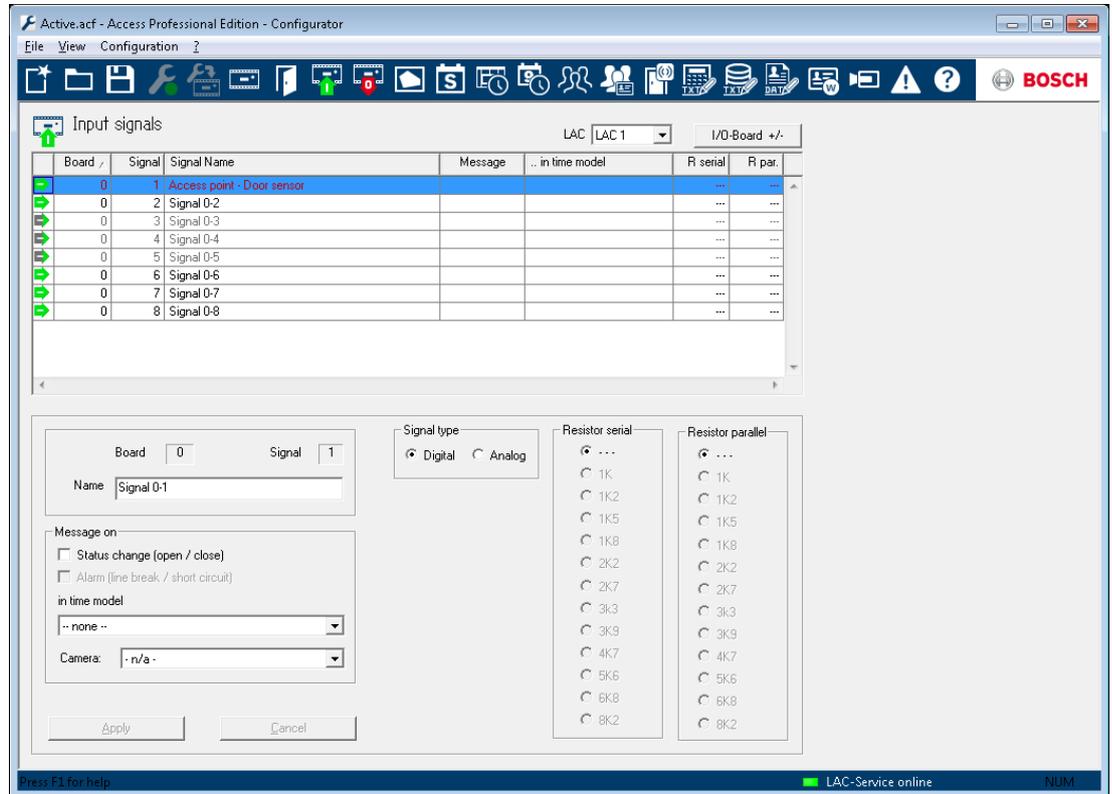
インストールや更新の後は、**[Enabled (有効)]** チェックボックスをクリックし、選択した AMC2 を有効化する必要があります。

5 信号

コントローラの入力および出力信号は、たとえばドアの状態を識別するため、またはドアを制御するために使用できます。さらに、これらの信号は追加の制御機能とアクセスリクエストを関連付けるためにも使用できます。これにより、カメラ、光学または音響信号機器、およびアラームシステムの制御および有効化が可能になります。

5.1 入力信号

ドア制御や他の制御信号、およびステータスメッセージは **[入口]** で設定されますが、**[入力信号]** ダイアログは信号タイプとそのモニタリングの詳細な定義に関係します。



このダイアログが呼び出されると、最初のコントローラが必ず表示されます。**[LAC]** コンボボックスおよび連続番号化スキーマを使って希望するコントローラを選択します。標準的なコントローラ定義プロセスは 8 つの入力と 8 つの出力信号を作成します。コントローラがこれ以上の信号を処理できる場合、**[I/O ボード +/-]** ボタンを使ってさらに信号を作成できます。定義されたすべての信号がリストに表示されます。各信号の設定はリストのさまざまな列およびリスト下部にある選択された信号のパラメータ制御に表示されます。すべての設定は、次の表に示すように、リストとリスト下部にあるパラメータ制御の両方で実行できます。

列	パラメータ	説明
1 (ラベルなし)	-	信号の状態を説明します：  = 有効化された信号  = 無効化された信号 アイコンをダブルクリックすると、ステータスを切り替えることができます。
ボード	ボード	信号があるボードの番号。 0 = ベースボード 1 = 拡張ボード このパラメータは変更できません
信号	信号	ボードにある信号の番号 (1 ~ 16)。 このパラメータは変更できません
信号名	名前	信号の名前。標準設定では、各信号に名前が付けられます。 信号 <ボード番号>-<信号番号> この列でダブルクリックすると、ユーザーは名前を編集できます。
メッセージ	メッセージ内容... 状態の変更 (開く/閉じる) : アラーム :	リストにあるパラメータ設定のグラフィック表示：  (信号タイプアナログでのみ可能) この列でダブルクリックすると、メッセージアイコンを順番に表示できます。
	カメラ	選択リストにあるカメラは、特定の入力信号に割り当てることができます。該当する信号が有効化されると、ログブックメッセージが作成され、このメッセージを使ってカメラの画像を取得することができます。
- 時刻モデルの み...	時刻モデル中	選択した時刻モデルを表示します。 この列でダブルクリックすると、ユーザーは時刻モデルのリストから選択できます。
<なし>	信号タイプ デジタル アナログ	[アナログ] オプションでは、抵抗値を選択するためのラジオボタンが有効化されます。

列	パラメータ	説明
R 直列	直列抵抗	この列でダブルクリックすると、抵抗値のリストが開きます。直列または並列抵抗値を選択すると、信号タイプは自動的にアナログにリセットされます。
R 並列	並列抵抗	



注記!

リストのすべての値を他のものに組み合わせることができないというわけではありません。適切な抵抗ペアの使用に関する説明については、AMC2 機器のインストールマニュアルを参照してください。

5.2

出力信号

このダイアログボックスは出力信号をパラメータ化するために使用され、必要な場合には、追加の信号ボードを定義できます。

The screenshot shows the 'Output signals' dialog box in the 'Active.acf - Access Professional Edition' software. The window title bar includes 'File View Configuration ?' and the Bosch logo. The main area is titled 'Output signals' and contains a table with columns: Board, Signal, Signal Name, Message, in time model, Type, Delay, Duration, Pulse, Pulse duration, and Pulse count. The table lists signals 1 through 8, with Signal 1 named 'Access point - Door opener'. Below the table, there are configuration options for a selected signal (Board 0, Signal 1). These include a 'Name' field (Signal 0-1), an 'Action' section with 'Action type' set to 'State tracing', and 'Delay' and 'Duration' fields. There is also a 'Signal' section with 'Pulsating' checked, 'Duration' set to 1/10 s, and 'Num. of pulses' field. A 'Message on' section has 'Status change' checked and 'in time model' set to '-- none --'. A 'Signal activation conditions' section shows a list of conditions: 'Event (signal)', 'Signal activated per time model', and 'Output signal will be set'. The dialog has 'Apply' and 'Cancel' buttons at the bottom.

このダイアログが呼び出されると、最初のコントローラが必ず表示されます。[LAC] コンボボックスおよび連続番号化スキーマを使って希望するコントローラを選択します。標準的なコントローラ定義プロセスは 8 つの入力と 8 つの出力信号を作成します。コントローラがこれ以上の信号を処理できる場合、[I/O ボード +/-] ボタンを使ってさらに信号を作成できます。

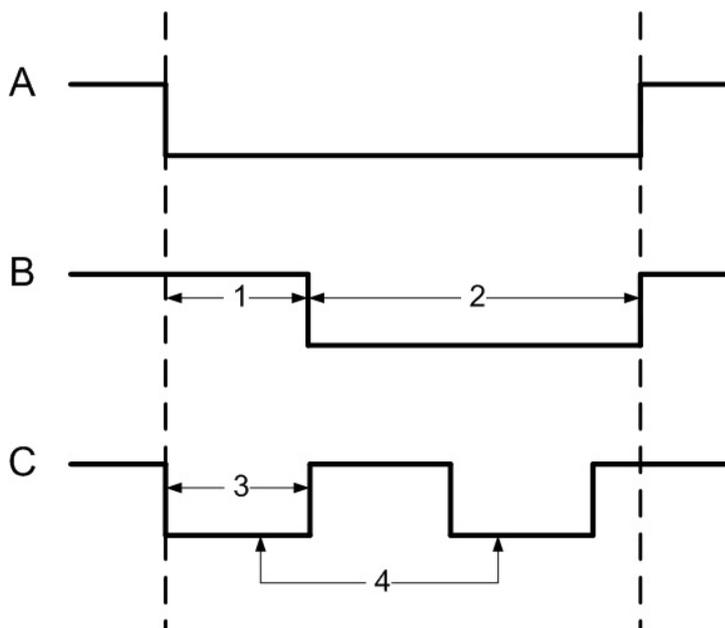
定義されたすべての信号がリストに表示されます。各信号の設定はリストのさまざまな列およびリスト下部にある選択された信号のパラメータ制御に表示されます。すべての設定は、次の表に示すように、リストとリスト下部にあるパラメータ制御の両方で実行できます。

ここに説明した設定に加えて、出力信号を有効化するために必要な追加の条件を定義することもできます。

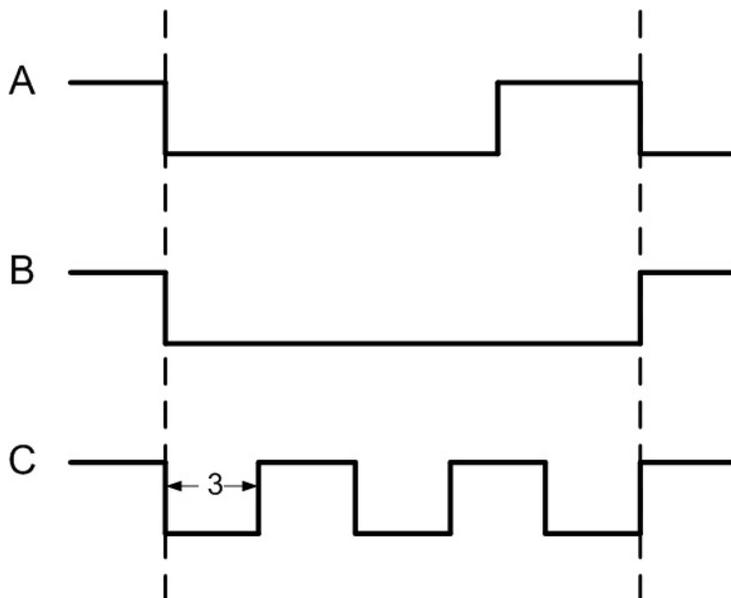
列	パラメータ	説明
1 (名前なし)	-	信号の状態を説明します：  = 有効化された信号  = 無効化された信号 アイコンをダブルクリックすると、ステータスを切り替えることができます。
ボード	接続	信号があるボードの番号。 0 = ベースボード 1 = 拡張ボード このパラメータは変更できません。
信号		ボードにある信号の番号 (1 ~ 16)。 このパラメータは変更できません。
信号名	名前	信号の名前。標準設定では、各信号に名前が付けられます。 信号 <ボード番号>-<信号番号> [入口の定義] ダイアログで定義および有効化された信号は、入口名と信号の説明と共にここに表示されます。 この列でダブルクリックすると、ユーザーは名前を編集できます。
メッセージ	メッセージ内容... 状態の変更	リストにあるパラメータ設定のグラフィック表示：  この列でダブルクリックすると、設定のオンとオフが切り替わります。
- 時刻モデルのみ...	時刻モデル中	時刻モデルの表示と選択。
タイプ	アクションタイプ： 一時的 状態の追従 トグル	3 つのアクションタイプが利用可能です。    この列でダブルクリックすると、ここで表示されている順序でアクションタイプを順番に表示します。
遅延	遅延	信号が送信されるまでの遅延 (秒単位) [0 ~ 9999]。

列	パラメータ	説明
期間	期間	信号が送信されるまでの遅延（秒単位） [0 ~ 9999、0 = 常に、またはキャンセルメッセージによって停止されるまで]。
パルス	パルス化	パルス送信を有効化し、それ以外の場合に信号は一定のレートで送信されます。 ダブルクリックによりこのオプションが有効になりますが、間隔とパルスの数が定義されるまで  アイコンによって未定義とマークされます。その後、  でマークされます。
パルス間隔	期間	パルス間隔
パルスカウント	パルス数	1 秒あたりのパルスの数。

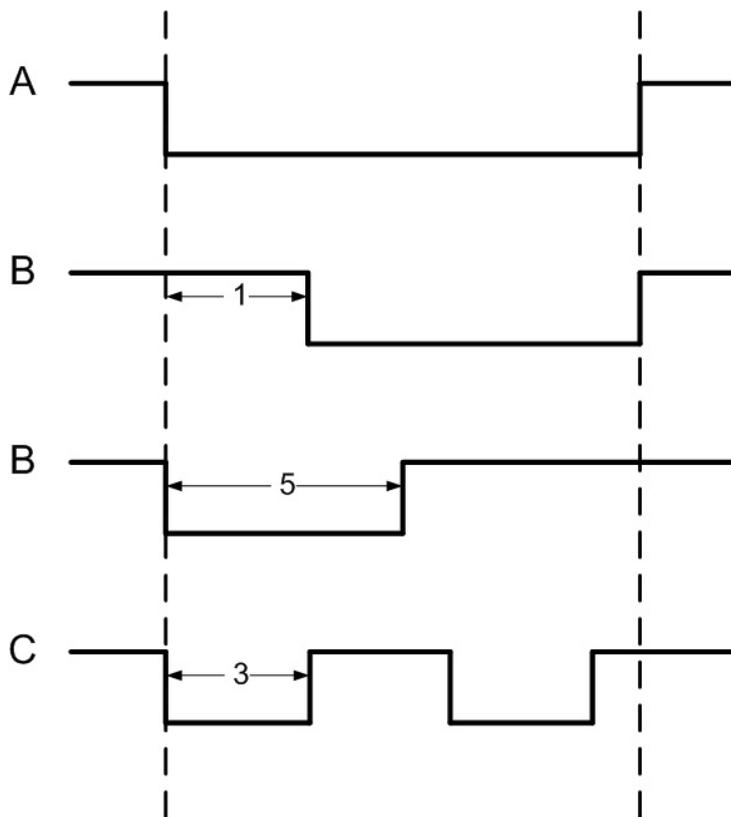
アクションタイプ：一時的



アクションタイプ：トグル



アクションタイプ：状態の追従



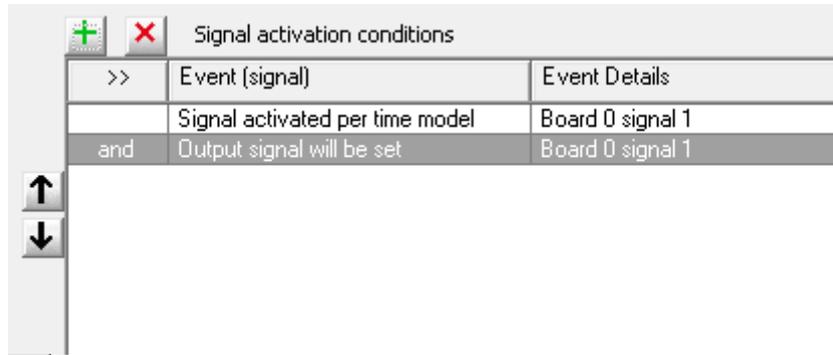
A =	ポーリングされた状態
B =	一定
C =	パルス
1 =	遅延時間
2 =	アクション期間

3 =	パルスの幅
4 =	パルスカウント (= 2)
5 =	最大アクティベーション時間

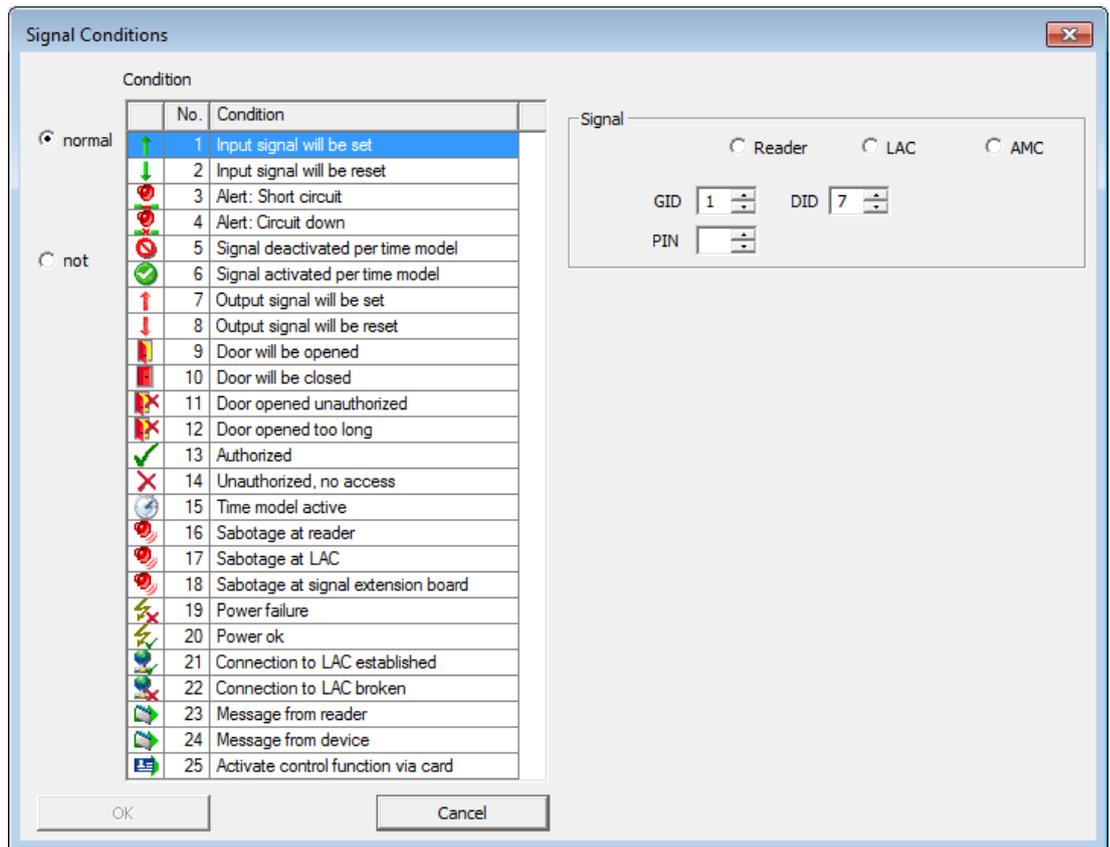
5.3 出力信号の条件の定義

【出力信号】ダイアログボックスは、設定以外にも、追加の条件を定義する方法を提供しており、特定の条件下でのみ出力信号を送信することを可能にします。

これらの特別な条件は、メインリストで選択された信号に関しては右下のダイアログエリアで定義できます。



ボタンを押すと下のダイアログが開きます。このダイアログを使って関連する条件を設定できます。



選択された有効化の条件に応じて、ドアリーダの名前など追加の情報を入力する必要がある場合があります。それを行ってから [OK] をクリックしてダイアログを確定できます。

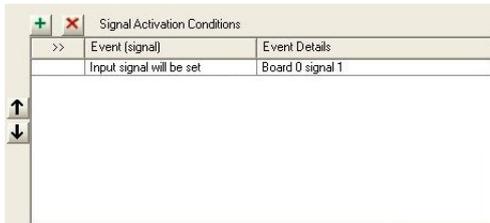
それぞれの信号に任意の数の条件を適用できます。新しいそれぞれの条件について、 ボタンを押してダイアログを再度開く必要があります。



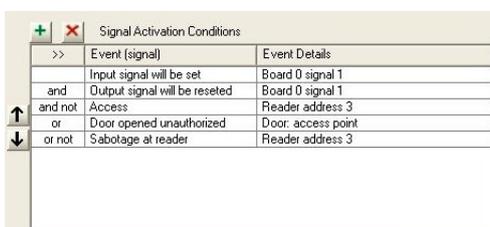
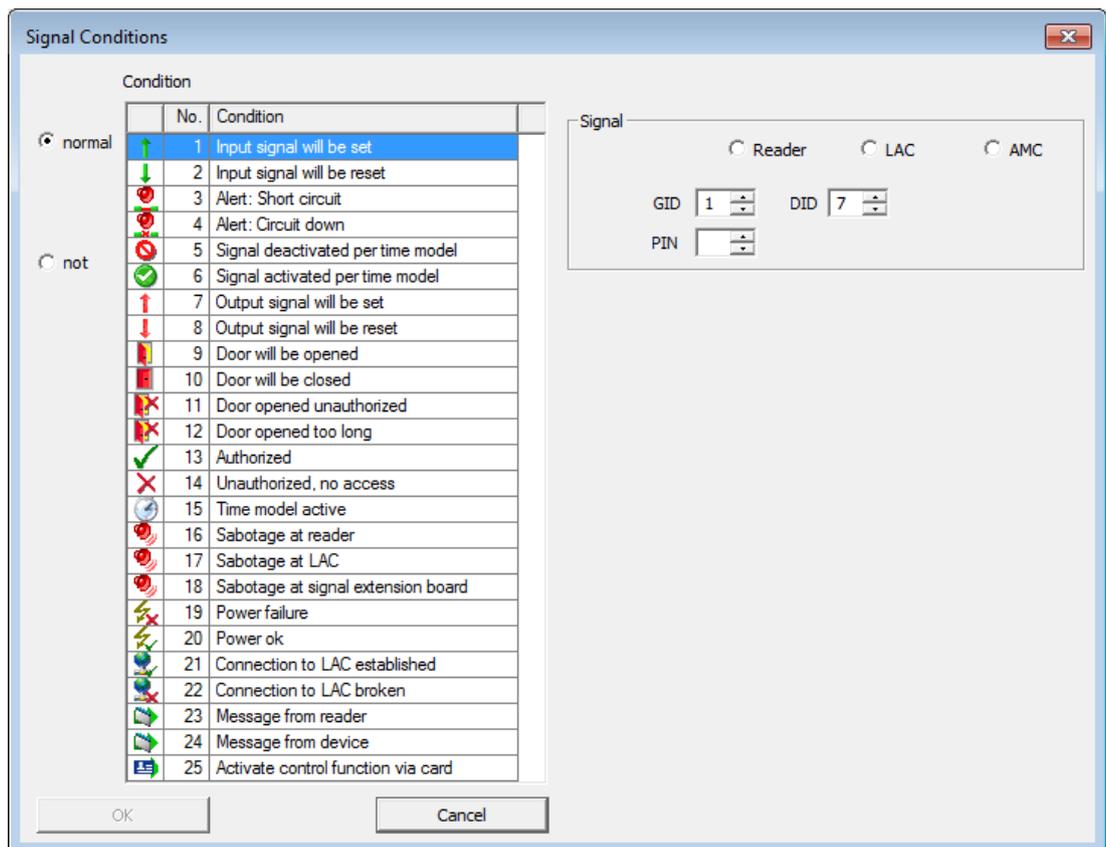
注記!

選択できる信号や設置環境（入口、リーダー、ドア）は、出力信号をパラメータ化しているコントローラに接続されているもののみです。

条件を定義する場合、**[通常]**（条件を満たす必要がある場合）および **[NOT]**（条件を満たす必要がない場合）のいずれかのモードを選択できます。

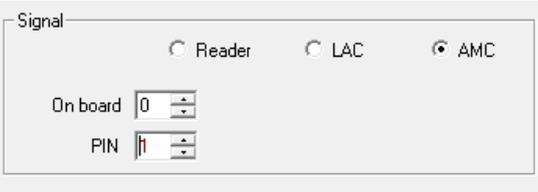
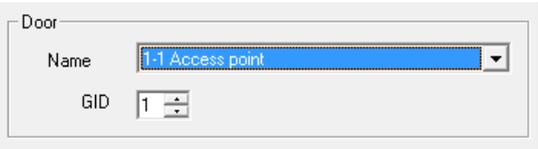
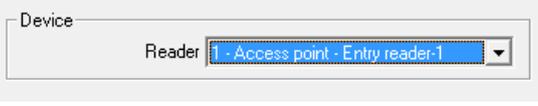
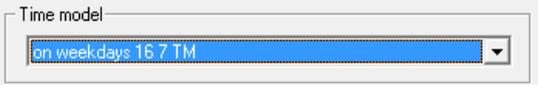
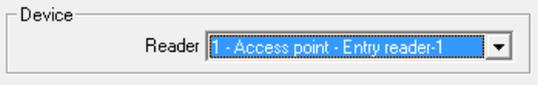


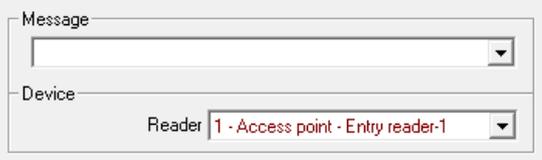
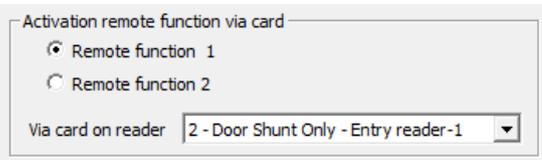
追加の条件をその最初の条件に依存するようにするには、**and**、**and not**、**or**、または **or not** 演算子のいずれかを選択します。



条件はリストされている順番に処理されます。この順番が必要な処理を反映していない場合、条件を再配置できます。リストから該当する条件を選択して、↑ または ↓ ボタンを押して再配置します。

条件に必要な補足情報が次の表に示されています。

条件	必要な追加情報
入力信号が設定されます	信号がある場所の機器タイプの情報。
入力信号の設定	ボードの選択。 接続の選択。
アラート：回線ショート	
アラート：接続が切断されました	
時刻モデルに従って信号が無効化されました	
時刻モデルに従って信号が有効化されました	
出力信号が設定されます	
出力信号がリセットされます	
ドアが開きます	入口の選択。
ドアが閉じます	GID (グループ ID) が自動的に設定されます。
ドアが不正に開けられました	
ドアの開放時間が長すぎました	
アクセス	
不正、アクセスなし	リーダの選択。
	
時刻モデルがアクティブ	時刻モデルの選択。
	
リーダでの妨害	リーダの選択。
	
LAC での妨害	追加情報は必要ありません。
信号拡張ボードでの妨害	ボードの選択。
	

条件	必要な追加情報
停電	追加情報は必要ありません。
電源 OK	
LAC への接続 -> APE の確立	
LAC への接続 -> APE の切断	
リーダーからのメッセージ	<p>事前定義されたリストからのメッセージの選択。 リーダーの選択。</p> 
機器からのメッセージ	<p>事前定義されたリストからのメッセージの選択。 ボードの選択。</p> 
カードから制御機能を有効化	<p>カード所有者に与えられた承認に基づいて出力を設定します。「カードから制御機能を有効化」の章を参照してください。</p> 

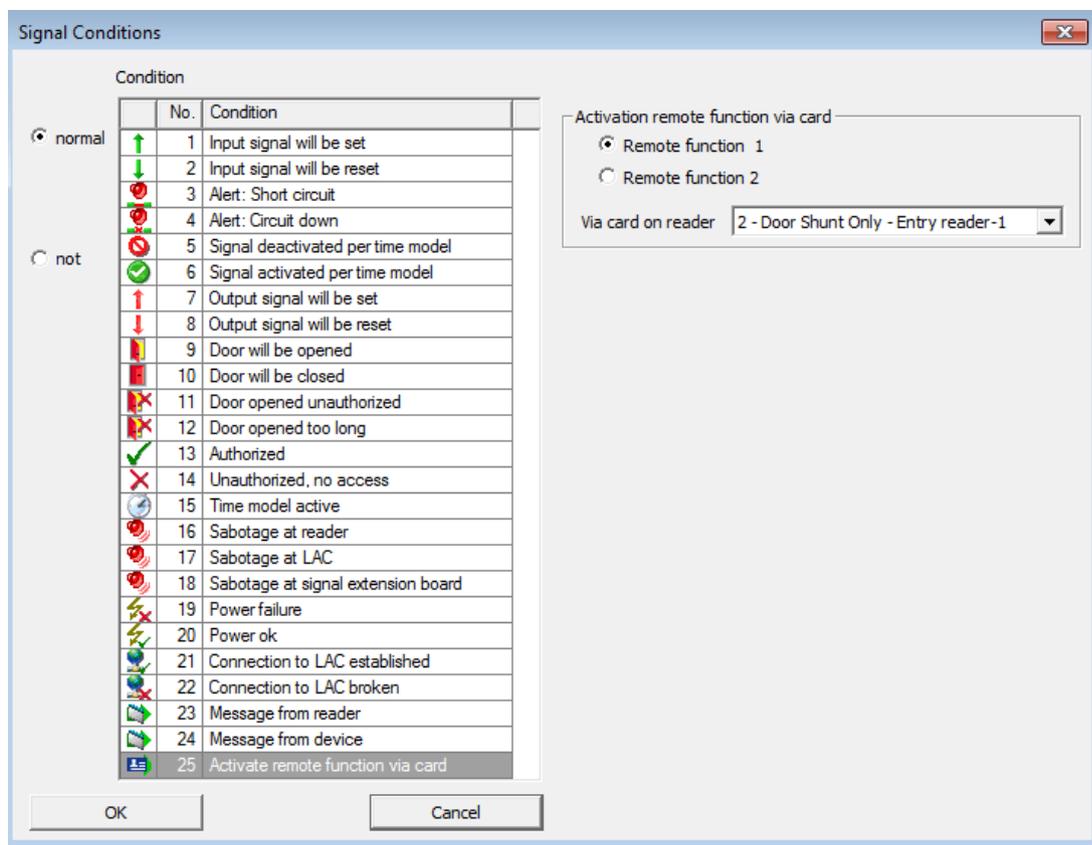
5.3.1

カードから制御機能を有効化

この制御機能を使用すると、2 種類の出力信号をトリガーできます。

このオプションを使用するには、以下の要件が満たされている必要があります。

- 制御機能を有効化する権限を持つ人物が構成されている。
- その人物のカードが有効であり、入口に入ることが許可されている。
- [Signal conditions (信号条件)] で、出力信号 [25 - Activate remote function via card (25 - カードによるリモート機能の有効化)] が選択されている。
- リモート機能が選択され、リーダーが割り当てられている。



手順：

- カードをリーダーに提示します。ユーザーの承認状況が確認されます。
- 承認済みであれば、出力信号が構成済みに設定されます。

5.4 拡張ボードの作成

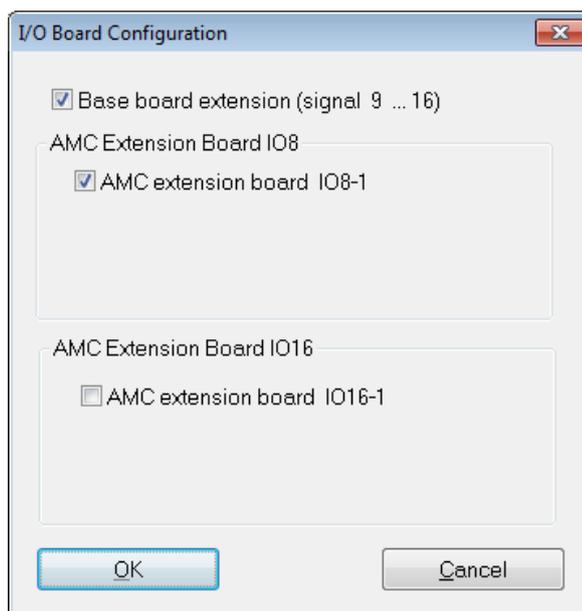
拡張ボードは、**入力信号**と**出力信号**の両方でダイアログで設定できます。1 つのダイアログで構成された設定は、他方でも有効になります。

Access PE アクセスコントロールシステムでは、3 つのタイプの拡張ボードを使用および構成できます。3 つのタイプはどれも、いずれかの信号ダイアログによって処理されます。

- **AMC2 4W-EXT** - Wiegand AMC (AMC2 4W) のインターフェイスを拡張するため
- **AMC2 8I-8O-EXT** - それぞれ 8 つの追加の信号
- **AMC2 16I-16O-EXT** - それぞれ 16 の追加の信号

リストウィンドウの上で、希望するコントローラを **[LAC]** コンボボックスから選択します。これらのコントローラは、メインボード (=0) で 8 つの信号とともに作成されます。

拡張ボードを作成するには、**[I/O ボード +/-]** とマークされているボタンをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



1 つまたは 2 つのチェックボックスをオンにすることにより、次の設定を行えます。

- **AMC メインボード** (信号 9 ~ 16)
Wiegand 拡張ボード **AMC2 4W-EXT** の作成。
このボードには、AMC2-4W コントローラ (4 Wiegand リーダーインターフェイス、8 入力信号および 8 出力信号) と同じインターフェイスがあります。ただし、独立して機能することはできず、AMC2-4W に接続されている必要があります。
この拡張は AMC2-4W としか使用できません。
AMC2 4W-EXT は 3 つの追加の IO ボードと設定できます。
拡張ボードの入力信号および出力信号のリストフィールドでは、コントローラ自体と同様に、ボード番号 0 が不要され、信号は 9 から 16 となります。
- **AMC 拡張ボード IO8**
コントローラのインターフェイスの拡張となる 8 つの入力信号と 8 つの出力信号のあるボードです。
このボードは任意の AMC2 コントローラに接続でき、AMC2-4W コントローラと共に使用すると、Wiegand 拡張ボード AMC2 4W-EXT と組み合わせることもできます
入力/出力信号のリストフィールドでは、拡張ボードはボード番号 1 で作成され、信号は 1 から 8 となります。
- **AMC 拡張ボード IO16**

コントローラ独自のインターフェイスの拡張となる 16 の入力信号と 16 の出力信号のあるボードです。

このボードは任意の AMC2 コントローラに接続でき、AMC2-4W コントローラと共に使用すると、Wiegand 拡張ボード AMC2 4W-EXT と組み合わせることもできます

入力/出力信号のリストフィールドでは、拡張ボードはボード番号 1 で作成され、信号は 1 から 16 となります。



注記!

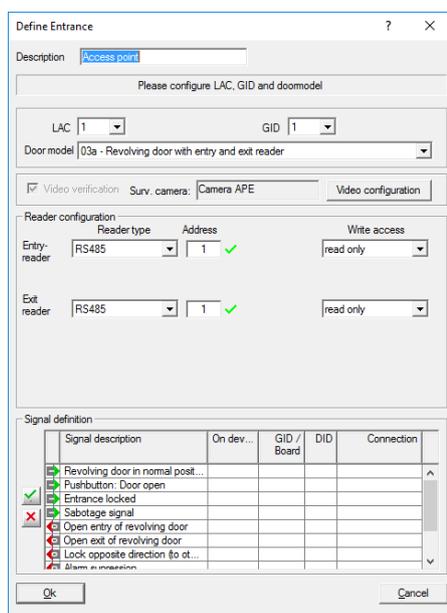
I/O ボードのためにここで行われる設定は、入力信号と出力信号にも同様に適用され、2 つのダイアログのいずれかで実行できます。

6 入口

入口に言及する場合、アクセスコントロールシステムに属する複数のコンポーネント全体を必ず指します。システムには、ドア（回転ドア、侵入防止ドア、障壁、エレベーターも含む）に加えて、1 つ以上のリーダーが含まれ、ボタンとコントロールユニット（ボルト、モーターロックなど）が含まれる可能性があります。また追加のコントロール機能として、光学または音響信号機器やカメラが含まれる場合もあります。

6.1 ドアモデルの作成と変更

新しい入口は、 ボタンまたはリスト内のコンテキストメニュー（右クリックして **[新規入口]** を選択）から定義することができます。入口の名称、ドアモデル、または選択したドアの機器アドレスは、 ボタン、ダブルクリック、またはコンテキストメニュー（右クリックして **[入口の変更]** を選択）して編集できます。



Signal description	On dev...	GID / Board	DID	Connection
Revolving door in normal posit...				
Pushbutton: Door open				
Entrance locked				
Subotage signal				
Open entry of revolving door				
Open exit of revolving door				
Lock opposite direction to ot...				
Alarm at initialization				

新しい入口を定義する場合、固有で可能な限り説明的な名前を付ける必要があります。Personnel Management で承認グループおよび個別のアクセス権を定義するために使用するからです。また、この入口が接続されているコントローラの数とグループ ID (GID) を選択する必要もあります。一般に、コントローラの数に注意する必要があります。Access PE は次の自由な GID を自動で割り当てるからです。適切なドアモデルを **[ドアモデル]** コンボボックスから選択する必要があります。事前定義されたドアモデルとその機能の表については、付録を参照してください。ドアモデルに応じて、入口および出口のリーダーのコンボボックスが表示され、リーダータイプを選択する必要があります。それぞれのリーダーは、コントローラ内で固有のアドレスを受け取る必要があります。**Wiegand** インターフェイスのリーダーの場合、**独自のコントローラのインターフェイスの数**のみ必要です。**RS485** インターフェイスのリーダーの場合、割り当てられた **DIP-アドレス**が必要です。



注記!

リーダーアドレスが、実際に設置されている機器に対応することを確認してください。タイプ **AMC-Wiegand** のリーダーは最大 4 つ、タイプ **AMC-RS485** および **LACi** のリーダーは最大 8 つ接続できます。

リーダーアドレス 9 の使用：

リーダーアドレス 9 は設定の補助として設定されており、パラメータを組み替えるときのバッファとして機能します。コントローラのすべてのリーダーアドレスを割り当てたものの、パラメータを組み替える必要がある場合、リーダーを一時的にアドレス 9 に移動して、別のアドレスを空けることができます。

例：リーダー 4 と 7 を交換したいとします。同じアドレスを 2 度使用することができないため、リーダー 4 をアドレス 9 に割り当て、リーダー 7 をアドレス 4 に移動し、最後にリーダー 9 (元はリーダー 4) をアドレス 7 に移動します。

信号定義

ドアモデルを選択すると、可能な入力信号と出力信号がすべてリストボックスに表示されます。いずれかの要素を選択して、リストの左にある  ボタンをクリックするか、リスト要素をダブルクリックすると、信号を定義するダイアログボックスが呼び出されます。



リストボックスから選択された信号は向きのために表示されます。信号の効果はパラメータ化されたコントローラのデフォルト設定で定義されますが、必要に応じてここで変更できます。

また、信号の発信元となるボード、および信号インターフェイスの数も表示されます。コントローラの信号または拡張ボードの一覧表示については、該当する機器の設置ハンドブックを参照してください。

注記!



設置を担当する技師に信号の配線図/リストを求めるなら、Access PE の信号をそれぞれパラメータ化できます。

物理的な配線への誤通信により、入口の制御および信号の正常な処理に大きな問題をもたらす可能性があります。

ダイアログボックスでは、DCU (ドアコントローラユニット)、リーダー、LAC、または AMC を選択する必要があります。DCU またはリーダーを選択した場合、機器の GID および DID を入力する必要があります。次のルールがここで適用されます。

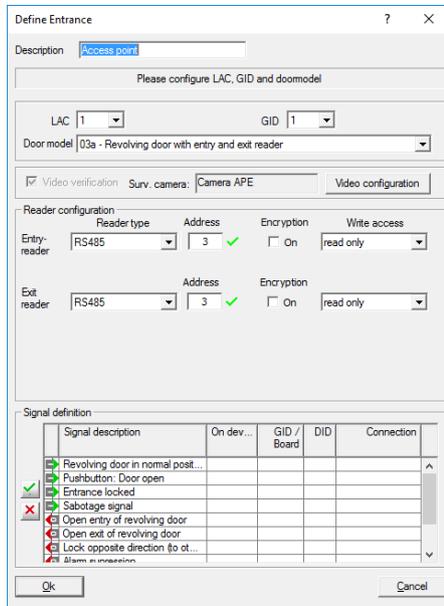
- **リーダー**
 - GID = 入口のリーダーの GID
 - DID = 1、最初の入口リーダーの場合。= 2、2 つ目の入口リーダーの場合。= 3、最初の出口リーダーの場合。= 4、2 つ目の出口リーダーの場合
 - Signal No. = リーダー 1 での信号...4
- **LAC**
 - Signal No. = LAC 1 での信号...16
- **AMC**
 - On board = ボード番号。0 または 1
 - Signal No. = AMC 1 での信号... 8 または拡張ボードの場合は 1 ... 16

リストボックスでは、パラメータ化された接続がそれぞれの列に表示されています。最初の列には、信号のステータスを示すアイコンが含まれています。

	入力信号が未設定
	入力信号が設定
	出力信号が未設定



以前に定義した信号は、**X** ボタンを使って削除できます。
 上の例は、**Wiegand** リーダーを使用したドアモデルの編集を示しています。
OSDP リーダーの場合、ダイアログは次のようになります。



標準として、**[暗号化]** オプションは選択されていません。**OSDPv2 セキュア**対応のリーダーと使用する場合、**[暗号化]** オプションを選択します。



OSDP リーダーの選択：

OSDP	OSDP 標準リーダー
OSDP Keyb	OSDP リーダー (キーボード付き)
OSDP Keyb+Disp	OSDP リーダー (キーボードとディスプレイ付き)

次の OSDP リーダーに対応しています。

OSDPv1 - セキュアでないモード	LECTUS duo 3000 C - MIFARE classic LECTUS duo 3000 CK - MIFARE classic LECTUS duo 3000 E - MIFARE Desfire EV1 LECTUS duo 3000 EK - MIFARE Desfire EV1
OSDPv2 - セキュアでないモードとセキュアなモード	LECTUS secure 2000 R0 LECTUS secure 4000 R0 LECTUS secure 5000 R0



注記!

OSDP リーダーで Bosch コードの Mifare カードを使用する場合、Bosch コードを有効化するために、カードタイプとして **[Mifare (63 ビット)]** を選択する必要があります。

異なる製品ファミリー (LECTUS duo または LECTUS secure) を 1 つの OSDP バスに接続することは許可されていません。1 つの OSDP バスでは「暗号化」または「未暗号化」のいずれかを構成し、組み合わせることはしません。

**警告!****注意! 重要なお知らせ!**

OSDP リーダーへの暗号化データ転送用にキーが生成されました。このファイル
d:\...¥BOSCH¥Access Professional Edition¥PE¥cfg¥Active.acf
を安全なローカルドライブに保存します。
このファイルは、既存のインストールを復元するために必要です。

**警告!**

OSDPv2 セキュアリーダーがセキュアモードで使用された場合、リーダーには初期マスターキーが必要です。

マスターキーが失われた場合、リーダーは新しいマスターキーに再設定することができません。

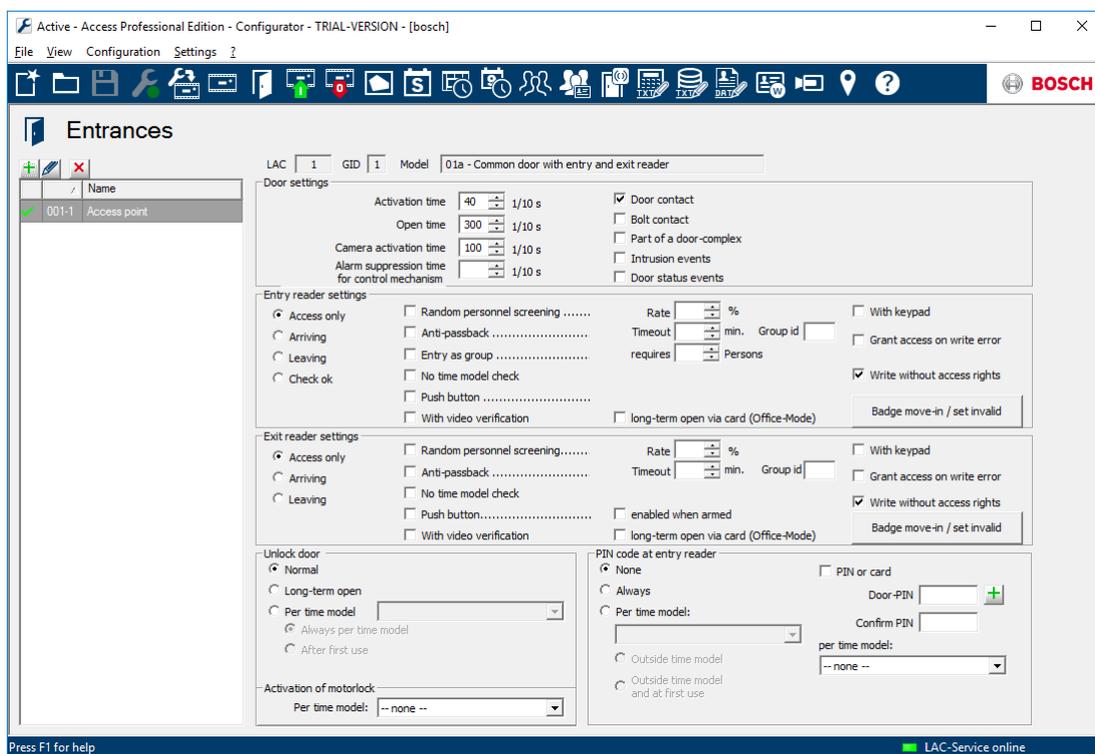
このキーが失われた場合、サポートがすべてのリーダーをデリバリストータスにリセットする必要があります。

**注記!**

OSDP リーダーの使用は UL によって評価されていません
結果

6.2 ディスプレイとパラメータ化

システムに認識されているすべての入口は、リストの左側に表示されます。リストにある入口をクリックすると、その入口のデータが右のパラメータフィールドに表示されます。



次のボタンがリストボックスの上部に表示されます。

-  入口の追加
-  入口の変更。
-  入口の削除

次の接続がパラメータフィールドの上部に表示されます。

- LAC** この入口に割り当てられているコントローラの通し番号。
- GID** ドアとリーダーを含むこの入口のグループ番号
- モデル** ドアモデルと説明。

これらのエントリは、 ボタンをクリックするか、リストの入口をダブルクリックすることによって変更できます。

次のドアパラメータを設定できます。

ドアパラメータ	説明
アクティベーション時間 (1/10 秒単位)	ドアフレームコンタクトが構成されていない場合、ここで設定された期間だけドア開閉装置は有効です。ドアが開いていることをフレームコンタクトが認識すると、ドア開閉装置の有効が解除されます。 デフォルト値 = 40
開放時間 (1/10 秒単位)	「ドアの開放時間が長すぎました」の信号が送信されるまでのドア開放の最大時間。 デフォルト値 = 300
カメラのアクティベーション時間 (1/10 秒単位)	入口に CCTV カメラが設置されている場合、ここで設定された期間だけドア開閉装置は有効です。 デフォルト値 = 100
制御メカニズムのためのアラーム抑止時刻 (1/10 秒単位)	ドア開閉装置が有効になるまでのアラーム抑止 (シャント) の期間。アラーム抑止時刻は、設定された時刻が 0 より大きい場合にのみ有効です。 デフォルト値 = 0
ドアコンタクト	ドアにフレームコンタクトがある場合、これをパラメータ化して、人の出入りの監視を容易にできます。同時に、ドアが開いていることをドアコンタクトが示している場合、ドア開閉装置は無効にされます。この信号は、 アラーム抑止時間 を制御するためにも使用されます。
ボルトコンタクト	ドアにボルトコンタクトセンサーがある場合、これをパラメータ化して、ドアが実際に閉まっていることを示せます。
複合ドアのパーツ	このパラメータは、ドアが複合ドア（「侵入防止ドア」、エアロックなど）の一部であるかどうかを示します。この場合、複合ドアの信号により、両方のドアが同時に開かないようにできます。複合ドアの一部としてドアが 1 つしか定義されていない場合、同期は有効ではありません。
侵入イベント	ここでは、不正なドア開放のイベントで信号を送信するかどうかを決定できます。その前提条件となるのが、 ドアコンタクト の存在です。
ドアステータスイベント	入口に ドアコンタクト がある場合、システムでは、毎回の開閉イベントで信号を送信するようパラメータ化できます。

次のリーダー設定を入口でパラメータ化できます。

リーダー設定 入室リーダーと退室リーダー	説明
アクセスのみ	一般アクセスイベントのみがリーダーで作成されます。
到着	このカードリーダーをとおしてアクセスする場合、 出退勤管理 (TA) の予約が行われ、その人は出勤として予約されます。
退社	このカードリーダーを通すと、 出退勤管理 (TA) の予約が行われ、その人は退勤として予約されます。
<p>出退勤管理用に構成されたリーダーで作成された予約は、ディレクトリ C:\¥Bosch¥Access Professional Edition¥PE¥Data¥Export (デフォルトパス) にあるファイルに毎日記録されます。TA_<Current date YYYYMMDD>.dat という名前のファイルが作成され、編集できます。フィールドはセミコロンで区切られているため、サードパーティのスプレッドシートアプリケーションなどで編集できます。</p> <p>各予約記録には次のデータが含まれます。</p> <p>姓、名前、会社、人事番号、カード番号、追加のフィールド 1 - 10 (パラメータ化されている場合)、入口の名前、日付 (yyyymmdd)、時刻 (hhmmss プラス夏時間を示す場合は「s」)、数字で示された通過の方向 (1 = 到着、2 = 出発)、テキストストリングとしての方向 (ENTER、LEAVE)</p>	
チェック OK	<p>入室リーダーのみ。</p> <p>このパラメータでは、リーダーを解除リーダーとして設定して、ランダムスクリーニング用に選択された従業員のカードをブロック解除できます。</p> <p>解除リーダーを、スクリーニング用に従業員をランダムに選択するスクリーニングリーダーとして同時に構成しないことが重要です。</p>

リーダー設定 入室リーダーと退室リーダー	説明
ランダムな人事スクリーニング - 割合 -%	<p>このパラメータでは、リーダーをスクリーニングリーダーとして設定して、人事スクリーニング用にカードをランダムに選択します。</p> <p>チェックボックスをオンにすることに加えて、ランダムスクリーニングの割合 (1 ~ 99) を入力する必要があります。入力がない場合、すべてのカードが選択されます (100% スクリーニング)。</p> <p>スクリーニングリーダーを、スクリーニングリーダーによってブロックされたカードのブロックを解除する解除リーダーとして同時に構成しないことが重要です。</p>
アンチパスバック - タイムアウト - グループ ID	<p>このオプションでは、入場したばかりのカードで、退場が記録されていない場合、特定のタイムアウト時間のあいだ再入場をブロックします。これは、回転ドアでカードを後ろに戻すなどの不正を防止するためです。</p> <p>タイムアウト (分単位で 1 ~ 480)。</p> <p>グループに複数のリーダーを組み込むことができます。アンチパスバックは、同じグループ IDを持つそれぞれのリーダーに対して有効です。使用可能な値 : 0 - 9 および/または A - Z の 1 ~ 2 文字</p>
グループでの入場 - 必要な人数	<p>入室リーダーのみ。</p> <p>このオプションでは、ここに示されている最低人数によって構成されるグループがカードを提示した場合にのみ入場を許可します。</p> <p>利用可能な値 2 - 6。</p>
キーパッドあり	<p>ドアリーダーにキーパッドがある場合にこのチェックボックスをオンにします</p>
時刻モデルのチェックなし	<p>デフォルトで、アクセスは時刻モデルに対してチェックされます。この行動は、このパラメータを設定することにより回避できます。</p>
車の進入	<p>このオプションは、リーダーにカードフィーダーがある場合に有効にします。</p>

リーダー設定 入室リーダーと退室リーダー	説明
押しボタン - 必ず有効	このパラメータでは、ドアを開放するための信号の認識を可能にします。この信号は、リーダーがない場合、押しボタンまたは電話から来ることができます。 常に有効 ：通常の設定が構成されている場合、セキュリティシステムを有効にすると押しボタンは機能しません。つまり、監視エリアを退室することはできません。このオプションでは、アラームシステムが装備されている場合でも、押しボタンが機能します。押しボタンを有効にすると、この機能には退室リーダーも含まれます。
ビデオ確認あり	ビデオ確認を有効にする場合はこのチェックボックスをオンにします。
カード（オフィスモード）による長時間開放	このオプションを使用すると、営業時間中に入口でのアクセスコントロールが中断されます。この期間中、入口は施錠されず、だれでも妨げられずに中に入ることができます（「オフィスモード」の章を参照）。

注記!

承認および時刻モデルの基本的な検証（アクセスシーケンスチェック、アンチパスマックチェック、ランダムスクリーニングなど）を超えて、LAC サブシステムプロセスによって実行されるチェックです。この機能を提供するには、Access PE サーバーは常時稼動している必要があります（365 日 24 時間）。

入口のロック解除は次のパラメータで構成できます。

ドアの解錠タイプ	説明
正常	ドアが施錠され、リーダーに有効なカードが提示された場合にのみ開放されます。
長時間	ドアは、日中または受付に担当者がある間など、長時間開放されます。

ドアの解錠タイプ	説明
時刻モデルに従う	<p>長時間のドアの解錠は、さまざまな方法で時刻モデルにリンクされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 常に時刻モデルに従う：ドアは定義された勤務時間に解錠されます。 - 初回使用后：勤務時間の最初の使用后、その勤務時間が終わるまでドアは解除されたままになります。 - ダイアログによる有効化：勤務時間での長時間の開放は特別なダイアログ対応のリーダーによって制御されます。
モーター施錠の有効化	<p>このパラメータは、入口のモーターロックの有効化を制御する時刻モデルを指定します。 (通常は普通の営業時間外)。</p>

リーダーの PIN コードの入力は次の方法でパラメータ化できます。

PIN コード	説明
なし	PIN コードは必要ありません。
常時	PIN コードは常に必要です。
時刻モデルに従う	<p>PIN コードの入力は、次のいずれかに条件に応じて、時刻モデルに依存します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 通常時間外：時刻モデルの時間外では PIN 入力が必要です。 - 通常時間外で初回使用：時刻モデルの時間外で入口を初めて通過する場合、PIN の入力が必要です。
PIN またはカード	機能が有効の場合、ドア PIN を入力するかカードを使用して、アクセスできます。
ドア PIN	ドア PIN を入力するオプション - 4 ~ 8 桁 (パラメータ設定 - 一般システム設定)
確認	ドア PIN の再入力
時刻モデルに従う	代替 PIN 入力のオプションは、時刻モデルに応じて特定の曜日または時間に制限できます。



注記!

識別 PIN およびドア PIN の類は、セキュリティシステムが作動しているドアモデルで使用することはできません (DM 10 および 14)。



注記!

リーダーでキーボードによって構成されたグループアクセスは、PinOrCard 機能と一緒に動作しません。

6.3 オフィスモード

オフィスモードでは、営業時間中に入口でのアクセスコントロールが中断されます。この期間中、入口は施錠されず、だれでも妨げられずに中に入ることができます。営業時間外では、通常モードと同じように、有効な認証情報をリーダーに提示した人物だけが中に入ることができます。

オフィスモードが動作するには、以下の要件が満たされている必要があります。

- 1 つ以上の入口が、施錠されない期間を延長できるように構成されている。
- 少なくとも 1 つのキーパッドリーダーが入口で使用されている。
- 1 人以上のカード所有者が、入口をオフィスモードに設定および設定解除できるように承認されている。
- その人物のカードが有効であり、営業時間外に入口に入ることが許可されている。

手順：

- リーダーのキーパッドで 3 を押します。
- カードを提示します。ユーザーの承認状況が確認されます。
- 承認状況が適切であれば、ドアの状態が「常時開」に変化します。
- ドアの状態は、上記の手順を実行するたびに切り替わります。



注記！

オフィスモードでは、施錠されたドアが開くことはありません。

特定のドアでオフィスモードを構成した場合、そのドアについて時刻モデルを構成する必要はありません。

6.4 特定の設定のドアモデル

特定の設定のドアモデル

一部のドアモデルでは、セットアップに特別な情報、または使用に特別なモードが必要です。

ドアモデル 07：エレベーター

このドアモデルを選択した場合、いくつかのフィールドによってダイアログが拡張され、フロアのセットアップが含まれます。

Floors served by elevator

AMC 1/0

LAC signal	Floor description	Input at reader
0 - 1	1st floor	<input type="checkbox"/>
0 - 2	2nd floor	<input type="checkbox"/>
0 - 3	3rd floor	<input type="checkbox"/>
0 - 4	4th floor	<input type="checkbox"/>
0 - 5	Cafeteria	<input type="checkbox"/>
0 - 6	Server Room	<input type="checkbox"/>
0 - 7		<input type="checkbox"/>
0 - 8		<input type="checkbox"/>

基準として、1 つの AMC2 を 8 つのフロアで使用できます。この数字は、次の前提条件で増やすことができます。

- Wiegand (AMC2 4W + AMC2 4W-EXT + 3 AMC2 16I-160-EXT) を使用する場合は 64 フロア
- RS 485 (AMC2 4R4 + 3 AMC2 16I-160-EXT) を使用する場合は 56 フロア

これらのフロアはアクセス承認として割り当てられます。

ドアモデル 14 : IDS 再作動のドア

このドアモデルの設定は、他のすべてに対応しますが、この入口のアクセス承認に加えて、セキュリティシステム (IDS) の作動と作動解除の承認自体も割り当てられます。これらの承認は通常は個別に割り当てられます。

6.5 入口にビデオ機器を割り当てる

入口作成ダイアログには、カメラをこの入口用にセットアップするためのオプションも備わっています。

ビデオ確認用のオプションを有効にして設定するには、[ビデオ設定] ボタンを押したときに開く特別なダイアログで変更を行ったりその他の設定を構成したりできます。手順は次のとおりです。

- 入口に割り当てられたリーダー用に [ビデオ確認] チェックボックスを有効にします。

-  をクリックするか、[入口] の下で選択した LAC をダブルクリックします。

次の画面が表示されます。

Define Entrance ? X

Description: Access point

Please configure LAC, GID and doormodel

LAC: 1 GID: 1

Door model: 03a - Revolving door with entry and exit reader

Video verification Surv. camera: Camera APE Video configuration

Reader configuration

	Reader type	Address	Write access
Entry reader	RS485	1 ✓	read only
Exit reader	RS485	1 ✓	read only

Signal definition

Signal description	On dev...	GID / Board	DID	Connection
Revolving door in normal posit...				
Pushbutton: Door open				
Entrance locked				
Sabotage signal				
Open entry of revolving door				
Open exit of revolving door				
Lock opposite direction (to ot...				
Alarm in preparation				

OK Cancel

[ビデオ設定] ボタンをクリックして [設定] 画面を開始します。

Video verification and video surveillance X

Entrance with video verification Not active

Password required Active

Active time model []

Select camera for alarm and log book

Front Identification camera: 172.18.1.38 (1)

Back Identification camera: 172.18.1.38 (1)

Back surveillance

Camera 1: - n/a -

Camera 2: - n/a -

Front surveillance

Camera 1: - n/a -

Camera 2: - n/a -

No surveillance Disable video preview

OK Cancel



7 エリア

エリアの設定により、システムは人物を特定し、正しいアクセスシーケンスを強制できます。これにより、だれかが不正なルートで特定のエリアに侵入するのを防げます。一般に、この機能は高セキュリティの設置環境でのみ使用されます。

The screenshot shows the 'Areas configuration' window. On the left, there is a table with the following data:

Area source	Area destination
00-00	-- outside --
00-01	inside
01-01	inside
01-02	Server Room

Below the table are three icons: a green plus sign for adding, a pencil for editing, and a red X for deleting. To the right, the 'Entrances' section includes a 'Hard antipassback' section with buttons for 'in +', 'in -', 'out +', and 'out -'. Below this is a table for 'Entries to area' with columns for 'AM Entry' and 'AM Exit'. At the bottom of the 'Entrances' section are four arrow buttons (up, down, left, right). Below the 'Entrances' section is a 'Not assigned entries' section with a list of empty rows. At the bottom of the window is the 'Area behaviour' section with the following settings:

- Enable area size limitation
- Generate area Full/Empty messages
- Enable automatic arming when area empty

There is also a dropdown menu for 'Select area arming output'.

左側には、既に定義されたエリアが表示されます。
次のボタンがリストボックスの上部に表示されます。



エリアの追加



エリアの変更



エリアの削除

デフォルトで、設置プロセスは**外部**のエリアを作成します。このエリアでは入口を定義することはできません。監視されていない領域を示しているからです。

この事前設置されたエリアから、さらなるエリアを定義できます。これらは純粋に仮想の構成であり、現実世界のエリアに対応する必要はありません。エリアは、1 つまたは複数の建物（例：Area Company ACME Inc.）または個別のフロアや単独の部屋で構成することができます。

未割当の入口リストの入口を使用できます。これらは、どのエリアにもまだ割り当てられていません。希望する入口をダブルクリックするか、 ボタンをダブルクリックすると、その入口は左側のリストで現在選択されているエリアに割り当てられます。 ボタンは、下部のリストにあるすべての入口を上部に移動します。

逆に、上部リストをダブルクリックするか、 ボタンを使用すると、選択されたエリアの割り当てを取り消すことができます。 ボタンをクリックすると、すべての割り当てが取り消されます。

Areas configuration

Area source	Area destination
00-00	-- outside --
00-01	-- outside --
01-01	inside
01-02	inside
	Server Room

Entrances

Hard antipassback: in + in - out + out -

Entries to area	AM Entry	AM Exit
<input checked="" type="checkbox"/> Building A		
<input checked="" type="checkbox"/> Elevator - Building A - First floor		
<input checked="" type="checkbox"/> Elevator - Building A - Computer room		

Not assigned entries

- Main entrance
- Elevator - Building A - Second floor
- Elevator - Building A - Third floor
- Elevator - Building A - Fourth floor
- Elevator - Building A - Cafeteria
- Parking area - 1 - Employee company XXX
- Parking area - 1 - Employee company YYY
- Parking area - 1 - Visitors
- Parking area - 1 - VIPs
- Building B
- Building C

Area behaviour

Enable area size limitation

Generate area Full/Empty messages

Enable automatic arming when area empty

--Select area arming output--



注記!

入口は 1 つのエリアにしか割り当てることができません。
特定の入口をエリアに割り当て済みの場合、その入口は**未割当の入口**リストには表示されません。

[AM 入室] 列と [AM 退室] 列はアクセス監視を示しています。アクセス監視にシステムを使用する場合、入室と退室のリーダーはそれぞれパラメータ化する必要があります。

- [エリアへの入室] リストでパラメータ化する入口を選択し、 をクリックして入口として設定するか、 をクリックして出口として設定し、アクセス監視を有効化します。 と  ボタンを使用すれば、これらの設定を解除できます。

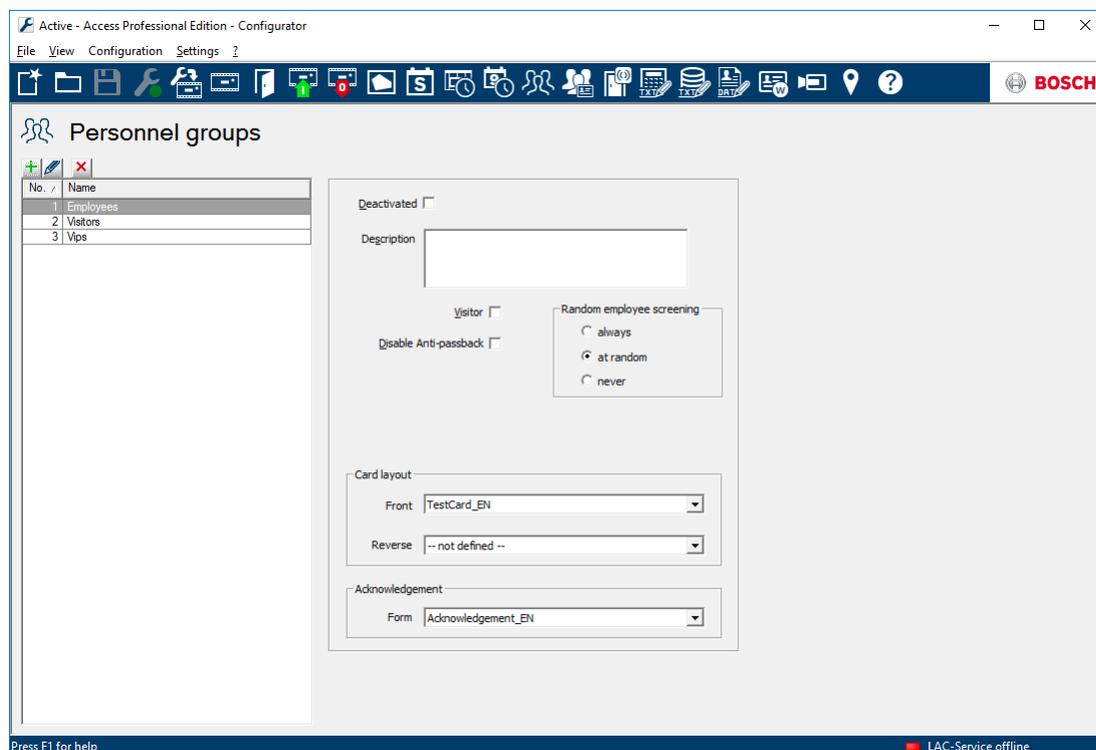
同じ機能がコンテキストメニューからでも使用できます（リストから入口を右クリック）

**注記!**

承認および時刻モデルの基本的な検証（アクセスシーケンスチェック、アンチパスバックチェック、ランダムスクリーニングなど）を超えて、LAC サブシステムプロセスによって実行されるチェックです。この機能を提供するには、Access PE サーバーは常時稼動している必要があります（365 日 24 時間）。

8 人事グループ

人事グループでは、企業のスタッフの論理的な構成を可能にします。たとえば、システムで新たに作成された人は、事前定義された人事グループの標準ユーザー権限セットを継承することができます。



以前に定義されたすべての人事グループのリストが左側に表示されます。次のボタンがリストボックスの上部に表示されます。



新しい人事グループの追加



選択した人事グループの変更



選択した人事グループの削除

デフォルトで 2 つの人事グループが事前定義されています：**従業員**と**訪問者**です。これらのグループは、Access PE の **Personnel Management** アプリケーションのデフォルトフィルターに対応します。



これにより、異なる種類の従業員（ホワイトカラー、ブルーカラー、清掃スタッフなど）を区別し、**[承認グループ]** ダイアログでそれぞれの人事グループに標準ユーザー権限セットを割り当てることができます。新しい人事グループに新しい従業員が割り当てられると、該当するグループの権限を自動的に受け取ることができます。

The screenshot shows a configuration window with the following elements:

- Deactivated**: A checkbox that is currently unchecked.
- Description**: A text input field.
- Visitor**: A checkbox that is currently unchecked.
- Disable Anti-passback**: A checkbox that is currently unchecked.
- Random employee screening**: A group box containing three radio buttons:
 - always
 - at random
 - never
- Card layout**: A section with two dropdown menus:
 - Front**: Set to 'TestCard_EN'.
 - Reverse**: Set to '-- not defined --'.
- Acknowledgement**: A section with one dropdown menu:
 - Form**: Set to 'Acknowledgement_EN'.

ダイアログボックスの右側にある次のパラメータは、選択した人事グループで定義することができます。

設定	説明
無効化済み	無効化は、削除のための準備フェーズです。グループに新しい人を追加することはできませんが、グループは引き続き存在します。 人事グループは、すべてのメンバーが削除されるまで、削除しないようにします。
説明	それぞれの人事グループに詳細な説明を保存することができます。
訪問者	グループは「訪問者」タイプとして分類することができます。 Personnel Management アプリケーションは、カテゴリー [すべての人物]、[従業員]、[訪問者] に基いて人物のリストをフィルターできます。ですから、タイプ [訪問者] の人事グループは、タイプ [従業員] のグループとは区別して表示することができます。
アンチパスバックの無効化	特定のグループの人 (VIP など) をアンチパスバックから除外することができます

設定	説明
従業員のスクリーニング： 常時 ランダム なし	ランダムな人事スクリーニング用のスクリーニングリーダーとして設定されたリーダーにのみ適用されます。 3つのオプションは次のように定義されません。 = スクリーニングの割合は 100% = このグループは定義された割合でランダムにスクリーニングされます。 = このグループはスクリーニングされません
バッジレイアウト 前面 後面	カードを作成するには、少なくとも1つのレイアウトを定義する必要があります。 レイアウトは人事グループごとに定義できます。 カードの反対側のレイアウトはオプションです。
確認フォーム	カードは、必要な場合に、フォームに署名することを条件に手渡すことができます。 これらのフォームは、人事グループ固有のものとしてデザインできます。

8.1 キーボードリーダーでのグループアクセス

設定ブラウザのオンラインヘルプで説明されているとおり、各カードリーダーは特定数の承認済みのカードがリーダーに提示された後にのみ、アクセスを許可するように構成できます。この機能は「グループアクセス」と呼ばれます。

グループアクセスの手順は、カードリーダーの種類によって若干異なります。基本的には、キーボードリーダーは構成されたグループメンバーの数より多く許可しますが、グループが完全かを確定するために追加のキー入力が必要されます。

キーボードがないリーダー：

- 構成された正確な数の承認済みのカードをリーダーで提示
- アクセスが許可されました

キーボードがあるリーダー（IBPR を除く）：

- 構成された正確な数以上の承認済みのカードをリーダーで提示
- オプションとしてより多くのカードを提示
- リーダーで Enter または “#” キーを押します
- アクセスが許可されました

キーボードがある IBPR リーダー：

- 構成された正確な数以上の承認済みのカードをリーダーで提示
- オプションとしてより多くのカードを提示
- リーダーで “0” キーを押します
- リーダーで Enter または “#” キーを押します
- アクセスが許可されました

8.2 グループアクセスの制限

- グループアクセスはドアモデル 1+3 でしか構成できません。

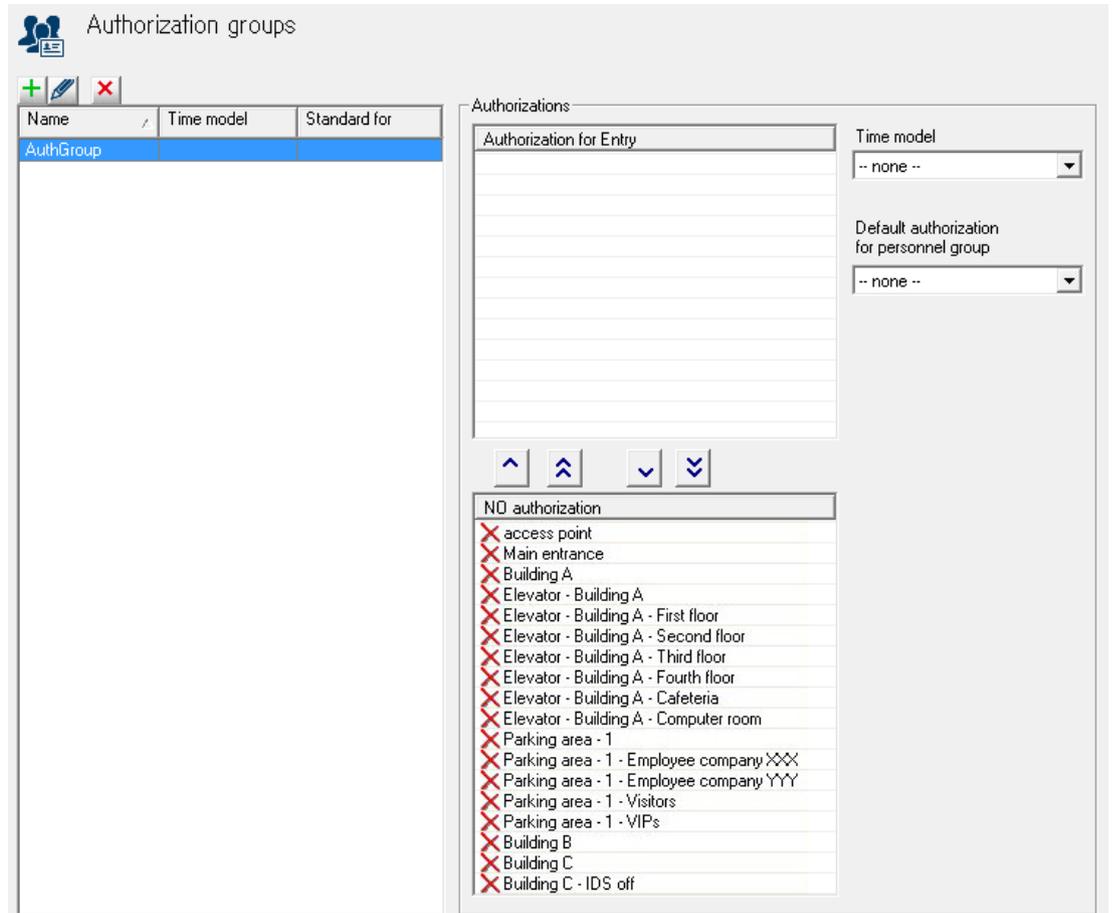
- グループアクセスおよび人物のエリア制限は、許可された以上の人物がエリア内にいることにつながり、エリアカウントはグループ全体がエリアに入った後にチェックされます。
- グループアクセスと複数のカードは、カウントカードと共に使用されますが、入場する人物ではない可能性があります。
- リーダーでキーボードによって構成されたグループアクセスは、PinOrCard 機能と一緒に動作しません（各構成は同じ確認が必要です）。

9 アクセス承認

アクセス承認グループは、類似したアクセス要件（人々のグループ、時間制限など）を持つ複数の個別の入口、場所的に近い/隣接する入口をグループ化することにより、システム管理者とオペレーターの管理タスクをシンプル化します。これらのグループは 1 つのステップで人々に割り当てることができます。

9.1 作成と割り当て

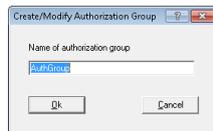
承認グループは入口の論理グループです。Personnel Management アプリケーションにおける人物のアクセス権限には、そのような承認グループを 1 つまたは複数構成できます。



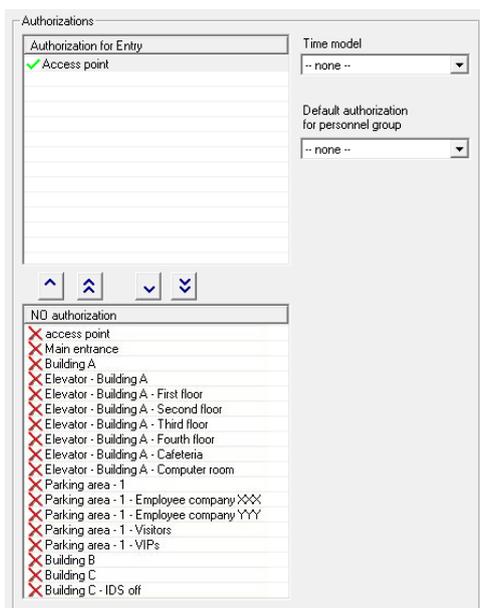
左のリストボックスには、これまでに定義された承認グループがすべて表示されます。次のボタンがリストボックスの上部に表示されます。

-  承認グループの追加
-  選択した承認グループの変更
-  選択した承認グループの削除

 ボタンを使うと、新しい承認グループの名前を付けるためのダイアログが開きます



右側のリストボックスは、選択した承認グループの入口を割り当てるのに使用できます。



承認なしリストの入口を使用できます。これらは、どの承認グループにもまだ割り当てられていません。希望する入口をダブルクリックするか、 ボタンをダブルクリックすると、その入口は左側のリストで現在選択されている承認グループに割り当てられます。 ボタンは、下部のリストにあるすべての入口を上部に移動します。逆に、上部リストをダブルクリックするか、 または  ボタンを使用すると、割り当てを取り消すことができます。



注意!

入口および時刻モデルの割り当てに関する今後の変更は、人物に既に割り当てられている権限に影響します。

どの承認グループにも、ユーザー権限を制限する**時刻モデル**を割り当てることができます。Access PEの**時刻モデルの使用**（時刻モデル、ページ 71）を参照してください。



注記!

時刻モデルに依存する承認グループの名前をマークします。たとえば、接頭辞または接尾辞に **DM** を使用します。これは、これらのグループを **Personnel Management** で割り当てて、無制限の権限パッケージと区別するのに役立ちます。

加えて、承認グループを**人事グループ**の**デフォルト承認**として割り当てすることもできます（従業員または訪問者など）。それで、**Personnel Management** で新しい人を作成する場合、適切な承認はその人の人事グループに応じて割り当てられます。

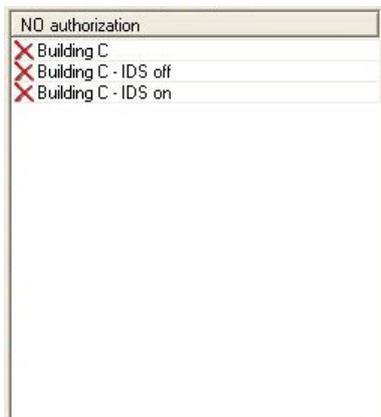
9.2

特別な権限

ドアモデル 07 と 14 では、**設定**（特定の設定のドアモデル、ページ 50）に追加の情報が必要です。ただし、割り当てと使用に関しても他のドアモデルとは異なります。

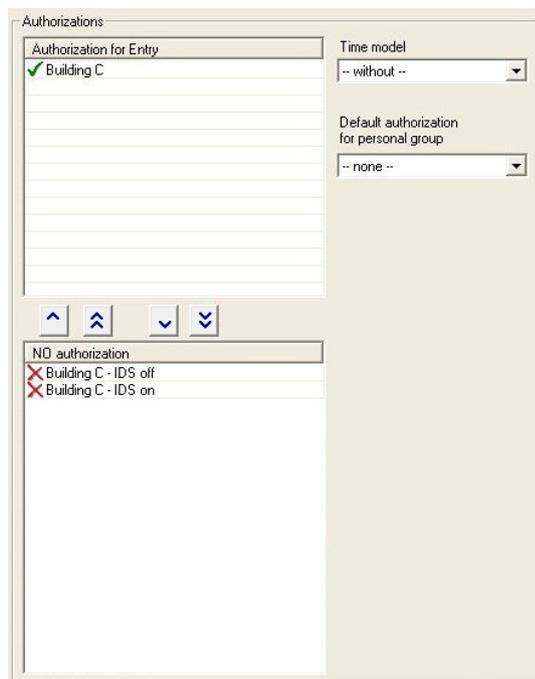
ドアモデル 07 : エレベーター

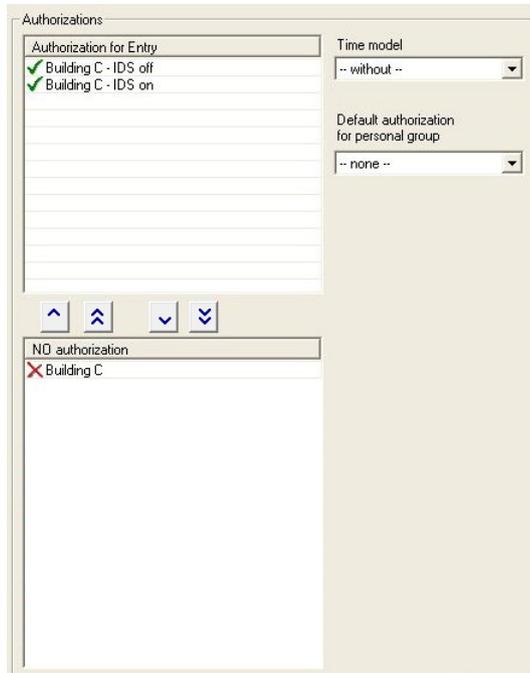
利用可能な権限のリストには、エレベーターおよび各フロアの個別の要素が含まれます。



これらの 2 つの種類は、互いに独立して割り当てられます。カード所有者が特定の入口に対するアクセス権限しか持っていない場合、そこから IDS（侵入検知システム）を作動または作動解除することはできません。

逆に、カード所有者が特定の入口に対する作動/作動解除の権限しかない場合、入口を通過することはできません。





10 特別な日

このダイアログで定義された特別な日は、通常の曜日とは別の制限を持ちます。休日と特別な日の時刻モデルは、通常の曜日のものを上書きします。

特別な日の事前定義されたリストは、必要に応じて変更、減少、拡大できます。必要でない休日は、無効にするか削除できます。この場合、通常の曜日の時刻モデルが再び優先されます。存在しない、または顧客固有の日を任意に定義または追加することができます。

これにより、カレンダーを小さくまとめることができます。繰り返される休日は毎年適用され、例外や非正規のイベントだけを特定の年に定義する必要があります。

10.1 作成と変更

Access PE では、複数の一般的な休日が定義されています。地域に応じて、変更、追加、または無効にする必要があります。

S

Special days

+
✎
✖

Name	Date
New Year's Day	01.01.*
Epiphany	06.01.*
Good Friday	@easter-2
Easter Sunday	@easter
Easter Monday	@easter+1
1st Mai	01.05.*
Whit Sunday	@easter+49
Whit Monday	@easter+50
1st Sunday in Advent	@advent1
2nd Sunday in Advent	@advent2
3rd Sunday in Advent	@advent3
4th Sunday in Advent	@advent4
Christmas Eve	24.12.*
Christmas Day	25.12.*
Boxing Day	26.12.*
New Year's Eve	31.12.*
Ulis Special	21.09.2016

Deactivated

Categorie Holiday

Priority higher than weekend

Date

01.01.*

active for offline locking system



注記!

Offline Locking System の項目数は ## に制限されます。

次のボタンがリストボックスの上部に表示されます。



休日/特別な日の**作成**



休日/特別な日の**変更**

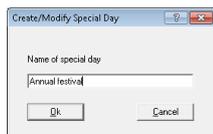


休日/特別な日の**削除**

**注記!**

可変日付（イースターなど）の事前定義された休日や特別な日は、使用しない場合、削除するのではなく無効にすることが勧められています。可変日付の休日や特別な日は、後にダイアログから再度追加することはできません。

休日の追加または変更には  または  ボタンを使用する場合、新しい名前を付けるよう次のプロンプトが表示されます。



[OK] ボタンで確認することにより、リストに新しい名前または変更された名前が追加されます。リストボックスの右側で、選択したリスト要素のパラメータを定義できます。

- | | |
|--------|--|
| 無効化済み | 休日/特別な日が使用中かどうかを決定します。 |
| カテゴリ | 有効な休日/特別な日を 11 のカテゴリ（休日と特別な日のタイプ 1..10）に分類し、時刻モデルを定義するときに各カテゴリに特別な日のモデルを割り当てられます。 |
| 週末より優先 | 毎年繰り返される休日が土曜日または日曜日と重なった場合、どちらのオプションが優先されるかを指定します。チェックボックスがオンの場合、休日の勤務モデルが優先され、オフの場合は週末の時刻モデルが優先されます。 |
| 日付 | 特別な日が同じ日付で毎年繰り返される場合、明示的な年を入力する代わりに、アスタリスク（*）を使用します。一部の休日（クリスマスなど）は必ず同じ日付になっています。 |

11 日付モデル

日付モデルは抽象的な日々のスケジュールを説明します。週の曜日に関係なく、日付モデルは曜日のどの時間にアクセスを許可または拒否するかを定義できます。

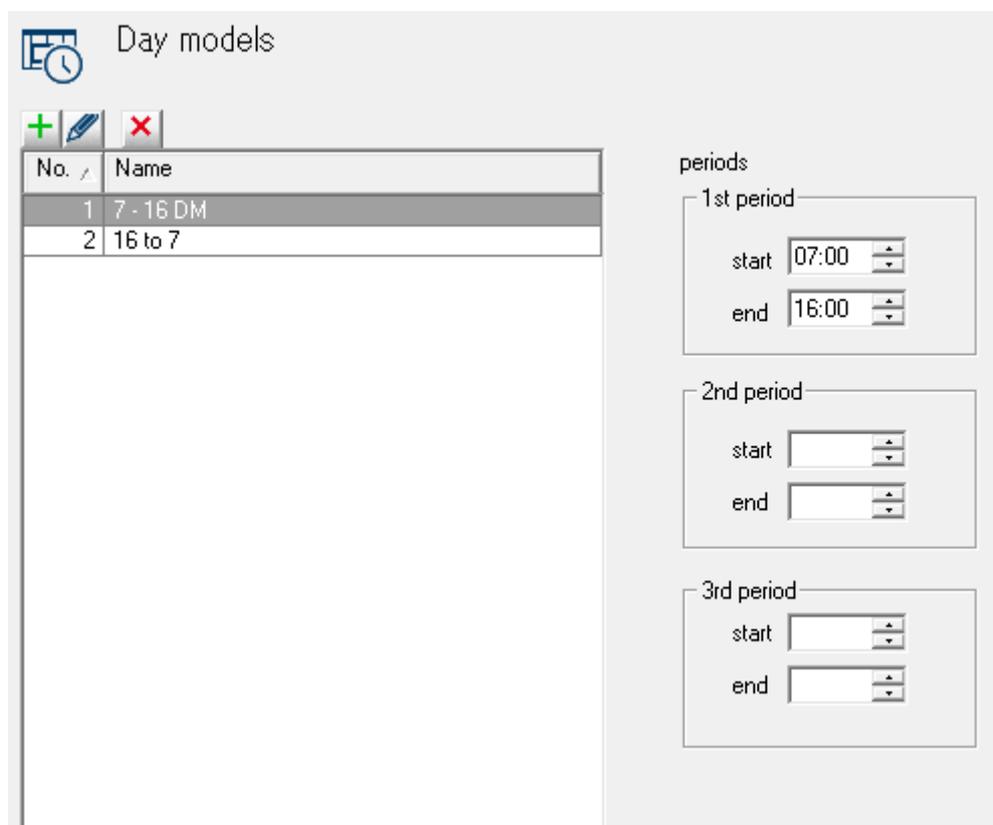
異なる日々のスケジュールごとに個別の日付モデルが必要です。

日付モデルでは、最初と最後の時刻を定めた最大 3つの期間で構成できます。

時刻モデルで日付モデルを使うことにより、日付モデルを特定のカレンダーの日付と関連付けることができます。

11.1 作成と変更

このダイアログボックスは、日付モデルの作成と変更で使用され、時刻モデルにも使用されます。



このリストボックスには、これまでに定義された日付モデルが表示されます。次のボタンがリストボックスの上部に表示されます。



日付モデルの**作成**



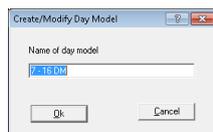
選択した日付モデルの**変更**



選択した日付モデルの**削除**



ボタンを使って日付モデルを追加、または  ボタンを使って日付モデルを変更できます。



[OK] ボタンで確認することにより、リストに新しい名前または変更された名前が追加されます。リストボックスの右側で、選択した日付モデルを構成する期間を定義できます。日付モデルでは、最大3つの期間で構成できます。

それぞれの期間の開始は、終了よりも小さい数字にする必要があります。ですから、深夜をまたぐ日付モデルの場合、2つの期間を定義する必要があります。

1. 期間 : ... から 24:00
2. 期間 : 00:00 から ...

12 時刻モデル

時刻モデルでは、1 日の特定の時間帯で、割り当てられた入口にアクセスを制限します。これにより、たとえば夜間にアクセスを拒否する、または週末のアクセスで追加の制限を設けることもできます。

Access PE は、次のような組み合わせを含む幾つかの方法で時刻モデルを使用します。

– 承認グループ :

時刻モデルはアクセス権限に関連付けて、特定の日の特定の時間のみアクセス権限を適用することができます。同時に、時間の制限を設けないことも可能です。

– 人物 :

人物に割り当てられた時刻モデルでは、定義された日付と時間帯にカードに一般的な使用を制限します。

– コントローラと拡張ボード :

コントローラおよび拡張ボードが生成する入力および出力信号は、時刻モデルで制限することもできます。

– ドア :

ドアの開放時間は、時刻モデルで制御できます。

– PIN コード :

PIN コードの入力は、時刻モデルで定義された時間外に設けられる追加のセキュリティ措置の一例です。

– モーター施錠の有効化 :

モーター施錠は、特定の時刻モデル内でのみ有効になるようパラメータ化できます。

時刻モデルは、その使用方法に応じて作成されます。

例 :

時刻モデルの使用法として、週中の 07:00 ~ 19:00 および週末の 09:00 ~ 15:00 まで人のアクセスを制限するとします。2 つの日付モデルが必要です。

1. 07:00 ~ 19:00 の期間
2. 09:00 ~ 15:00 の期間

同時に、これらの時間外にモーター施錠を有効にする場合、施錠の時刻モデルが使用する 2 つの日付モデルは次のように定義する必要があります。

1. 00:00 ~ 07:00 と 19:00 ~ 24:00 の 2 つの期間。
2. 00:00 ~ 09:00 と 15:00 ~ 24:00 の 2 つの期間。

時刻モデルの用途

人事データに関連付けられた時刻モデルが有効になるのは、リーダーのデフォルト設定が変更されていないため、**[時刻モデルのチェックなし]** (ディスプレイとパラメータ化, ページ 44) がチェックされていない場合だけです。

時刻モデルは多くの方法で使用することができます。それで、システムによる複数の割り当ての処理方法を理解できるように、次の競合解決ルールに留意してください。

- ある人物が時刻モデル経由で特定の入口にアクセスできる場合、およびその人物が時刻モデルなしで同じ入口にアクセスできる場合、**緩い方**の制限が優先されます。つまり、この場合は時刻モデルは適用されません。

例 :

ある人物に、以下のアクセス権が付与されています。

- 毎日 09:00 ~ 17:00 の時刻モデル内での、入口 A、B、C、D へのアクセス。
- 時刻モデルなしでの入口 B および D への個々のアクセス権。

現在、この人物は、入口 A および C には毎日 09:00 ~ 17:00 のアクセス権、入口 B および D には制限なしのアクセス権を持っています。

- ある人物が同じ入口を網羅する異なるアクセス権を与えられるものの、異なる時刻モデルによって管理されている場合、その時刻モデルの**和集合**が適用されます。

例：

ある人物に、以下のアクセス権が付与されています。

- 毎日 07:00 ~ 13:00 の時刻モデル内での、入口 A、B、C、D へのアクセス。
- 毎日 09:00 ~ 17:00 の時刻モデル内での、入口 B、D、E へのアクセス。

現在、この人物は、入口 A および C には毎日 07:00 ~ 13:00 のアクセス権、入口 E および F には 09:00 ~ 17:00 のアクセス権を持っています。

- ある人物が時刻モデルを含む承認グループに割り当てられ、その同じ人物にカードの使用に関して時刻モデルが与えられている場合、定義された期間の**積集合**が適用されます。

例：

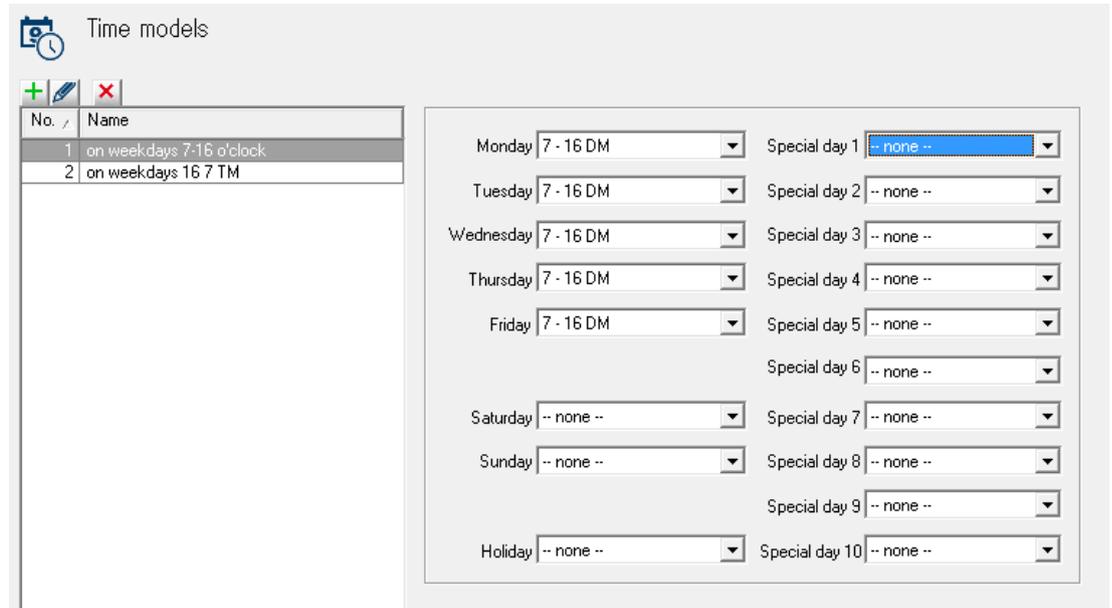
ある人物に、以下のアクセス権が付与されています。

- 入口 A、B、C、D へのアクセス権および毎日 07:00 ~ 13:00 の時刻モデルを含む承認グループ。
- 入口 B、D、E、F へのアクセス権および毎日 09:00 ~ 17:00 の時刻モデルを含む承認グループ。
- さらに、毎日 11:00 ~ 19:00 の勤務モデル

現在、この人物は、入口 A および C には毎日 11:00 ~ 13:00 のアクセス権、入口 B、D、E、F には 11:00 ~ 17:00 のアクセス権を持っています。

12.1 作成と変更

このダイアログボックスは、時刻モデルの作成と変更で使用され、その使用に応じて特定のシステム要素を有効化します。



このリストボックスには、これまでに定義された時刻モデルが表示されます。次のボタンがリストボックスの上部に表示されます。



時刻モデルの**作成**

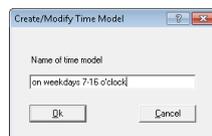


選択した時刻モデルの**変更**



選択した時刻モデルの**削除**

時刻モデルの追加または変更には  または  ボタンを使用する場合、新しい名前を付けるよう次のプロンプトが表示されます。



[OK] ボタンで確認することにより、リストに新しい名前または変更された名前が追加されます。リストボックスの右で、曜日と休日と特別な日 (1..10) の日付モデルを、選択した時刻モデルに割り当てるできるようになりました。

時刻モデルは、1 週間の繰り返し期間と定義されます。週中の各曜日の予定は、日付モデルを割り当てることによって定義されます。加えて、これら通常の週中の曜日の日付モデルは、それらの日と重なる休日または特別な日の日付モデルに上書きされる場合もあります。



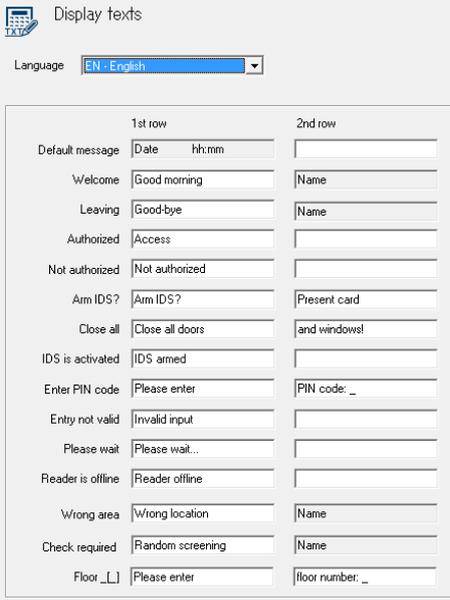
注記!

時刻モデルを定義する際、特定の週中の曜日または特別な日に日付モードがない場合（デフォルト設定である <なし> のままの場合）、それらの日は期間のない日付モデルが設定されているとみなされます。つまり、その日には日付モデルによって**アクセスは許可されません**。

13 テキスト

インストール時に選択した各アプリケーション言語には、ディスプレイリーダー用のディスプレイテキストやログブックメッセージ用に独自のリストがあります。該当する言語リストのテキストは Logviewer で使用されます。たとえば、アプリケーション言語が選択されると作成されるログブックメッセージ内などです。

13.1 表示テキスト



	1st row	2nd row
Default message	Date hh:mm	
Welcome	Good morning	Name
Leaving	Good-bye	Name
Authorized	Access	
Not authorized	Not authorized	
Arm IDS?	Arm IDS?	Present card
Close all	Close all doors	and windows!
IDS is activated	IDS armed	
Enter PIN code	Please enter	PIN code: _
Entry not valid	Invalid input	
Please wait	Please wait...	
Reader is offline	Reader offline	
Wrong area	Wrong location	Name
Check required	Random screening	Name
Floor_[_]	Please enter	floor number: _



注記!

「フロア」については、フロア数が 1 ~ 9 の場合は 1 桁、10 以上の場合は 2 桁を入力します。

カードリーダーで表示されるテキストの一部はこのダイアログで変更できます。リーダーのディスプレイには、それぞれ 20 文字の行が 2 行含まれます。



注意!

「[PIN コードを入力してください]」のテキストでは、下線「_」の文字は削除しないでください。PIN コードの読み取りをトリガーするからです。

このテキストはユーザー定義で、言語を切り替えてもアプリケーションによって自動で翻訳されません。ただし、**【言語】** コンボボックス（リストボックスの上）で異なる言語を選択して、テキストを再入力することにより、Access PE にインストールされたすべての言語バリエーションで同等の内容を定義することができます。これにより、これらのデータは異なるユーザーが自分の言語で表示することができます。

13.2 イベントログのメッセージ

このダイアログでは、ログメッセージのテキストだけでなく、カテゴリも変更できます。

Event log messages

Language: EN - English

	!	Category	No. /	Log text
		Information	1	Cold start (Boot)
		Information	2	Program start
		Alarm	3	Sabotage contact opened
		Message	4	Sabotage contact closed
		Error	5	Power fail
		Message	6	Power ok
		Error	7	Hardware error: @@@@
		Message	8	LAC online
		Error	9	LAC offline
		OK	10	online (ready)
		Malfunction	11	offline (out of order)
		Information	12	New program loaded
		Information	13	Reader initialized
		Information	14	New address assigned
		Error	15	Address not assigned
		Information	16	Personnel data initialized
		Error	17	Invalid parameter received
		Information	18	Program download OK
		Error	19	Error on program download
		Arriving	20	Access
		No access	21	Authorized but no entry
		No authorization	22	Not authorized
		No authorization	23	Card unknown, V:@@ Cor:@@ Cur:@@@@ No:@@@@
		No authorization	24	Access denied, card invalid
		No authorization	25	Access denied, person locked
		No authorization	26	Access denied, card on black list
		No authorization	27	Access denied, locked: invalid PIN entered too often
		No authorization	28	Access denied, time model invalid

希望するカテゴリを選択するためのプルダウンリストを表示するには、変更する行にある [カテゴリ] をダブルクリックします。

	!	Category	No. /	Log text
		Information	1	Cold start (Boot)
		Information	2	Program start
		Alarm	3	Sabotage contact opened
		Message	4	Sabotage contact closed
		Error	5	Power fail
		Message	6	Power ok
		Error	7	Hardware error: @@@@
		Message	8	LAC online
		Error	9	LAC offline
		OK	10	online (ready)
		No access	11	offline (out of order)
		No authorization	12	New program loaded
		Malfunction	13	Reader initialized
		IDS armed	14	New address assigned
		IDS not armed	15	Address not assigned
		Program Startup	16	Personnel data initialized
		Program Shutdown	17	Invalid parameter received
		Operator action	18	Program download OK
		Error	19	Error on program download
		Arriving	20	Access
		No access	21	Authorized but no entry

それぞれのカテゴリは最初の列で固有の記号によって表されます。これらの記号は、イベントログにある受信メッセージによって分類するためにも使用されます。次の記号およびカテゴリを使用できます。

-  イベントログを使用できません
-  情報
-  メッセージ
-  エラー
-  アラーム
-  到着
-  退社
-  アクセスなし
-  承認なし
-  誤動作
-  OK
-  IDS 作動済み
-  IDS が装備されていません
-  プログラムスタートアップ
-  プログラムシャットダウン
-  オペレーターの操作

2 列目（先頭に !）では、**[アラーム管理]** ダイアログで特別なアラームメッセージとして機能するメッセージを選択します。対応するセルをダブルクリックすると、アラーム記号  を設定または削除できます。インストール手順では、**[アラーム]** および **[エラー]** カテゴリのメッセージをデフォルトでアラームメッセージとして定義します。

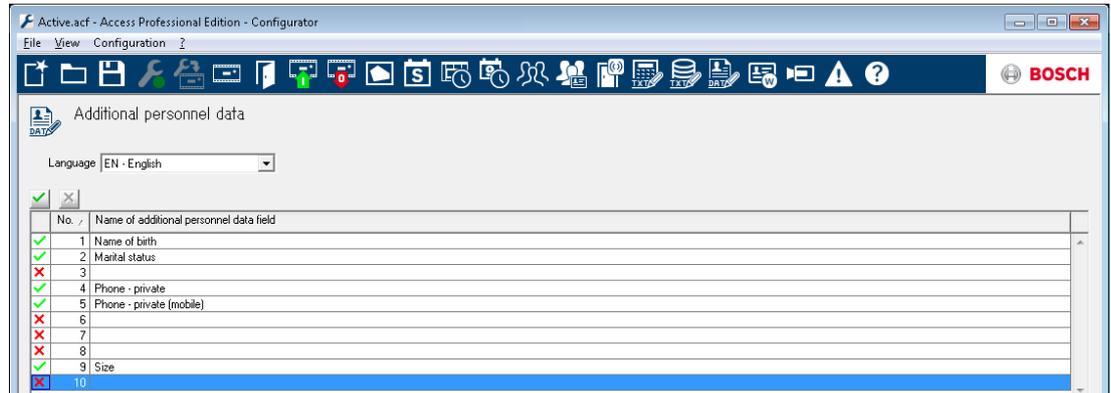
希望するテキストを変更するには、変更する行にある **[ログテキスト]** をダブルクリックします。

	!	Category	No.	Log text
		Information	1	Cold start (Boot)
		Information	2	Program start
		Alarm	3	Sabotage contact opened
		Message	4	Sabotage contact closed
		Error	5	Power fail
		Message	6	Power ok
		Error	7	Hardware error: @@@@
		Message	8	LAC online
		Error	9	LAC offline
		OK	10	online (ready)
		Malfunction	11	offline (out of order)
		Information	12	New program loaded

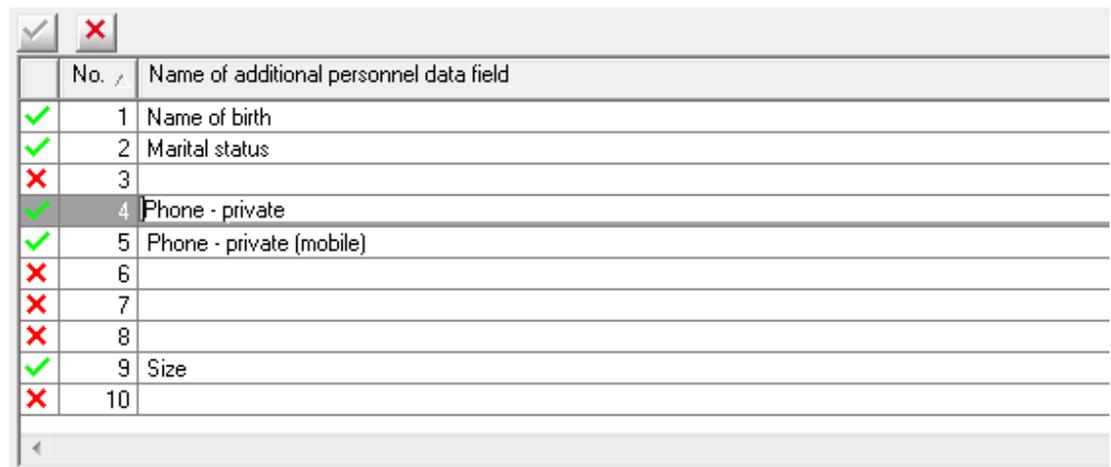
このテキストはユーザー定義で、言語を切り替えてもアプリケーションによって自動で翻訳されません。ただし、**【言語】** コンボボックス（リストボックスの上）で異なる言語を選択して、テキストを再入力することにより、Access PE にインストールされたすべての言語バリエーションで同等の内容を定義することができます。これにより、これらのデータは異なるユーザーが自分の言語で表示することができます。

14 追加の人事データ

デフォルトの人事データフィールドに加えて、自由に定義できる追加のフィールドが 10 個提供されています。



リストボックスには、使用できる 10 行が既に含まれています。[追加の人事データフィールドの名前] 列にあるフィールドをダブルクリックすることにより、フィールドを編集可能にし、名前を入力できます。



注記!

名前を入力しても、フィールドが使用のために有効になりません。有効にするには、左端の列にある  をダブルクリックするか、 ボタンをクリックします。フィールドが有効な場合、 は  に置き換えられます。

少なくとも 1 つの追加のデータフィールドが定義されると、Personnel Management アプリケーションに [追加データ] という新しいタブが表示されます（個人データと承認ダイアログ）。ギャップは無効なフィールドのために残されるため、フィールドの順序を維持する必要はありません。

各フィールドには、最大 40 文字を任意に含めることができます。



注記!

各テキスト入力フィールドにはデータベースのフィールドを割り当てられるため、レポートでデータを保存して選択し、含めることができます。とはいえ、使用中の追加データフィールドを変更すると、そこに含まれるデータがデータベースから失われることを意味します。

追加のデータフィールド;の名前はユーザー定義で、言語を切り替えてもアプリケーションによって自動で翻訳されません。【言語】コンボボックス（リストボックスの上）で異なる言語を選択して、Access PE にインストールされたすべての言語バリエーションで同等の内容を定義することができます。これにより、これらのデータは異なるユーザーが自分の言語で表示することができます。

追加のフィールドの有効化/無効化

名前を受け取ることに加えて、追加のデータを有効にする必要があります。それには、左端の列の記号をダブルクリックするか、 ボタンをクリックします。記号は から に変更されます。

少なくとも 1 つの追加のデータフィールドが有効にされない限り、**Personnel Management** アプリケーションの **【追加データ】** タブは表示されません。



注記!

名前のないフィールドも有効にできます。

有効なフィールドを無効にするには、 をダブルクリックするか、 をクリックします。その後、セキュリティポップアップメッセージが表示され、2 種類の無効化の方法が示されます。

**注記!**

フィールドを無効化すると、フィールドの説明も削除される場合にのみ該当する人事データが削除されます。フィールドの説明と該当する人事データを削除しますか?

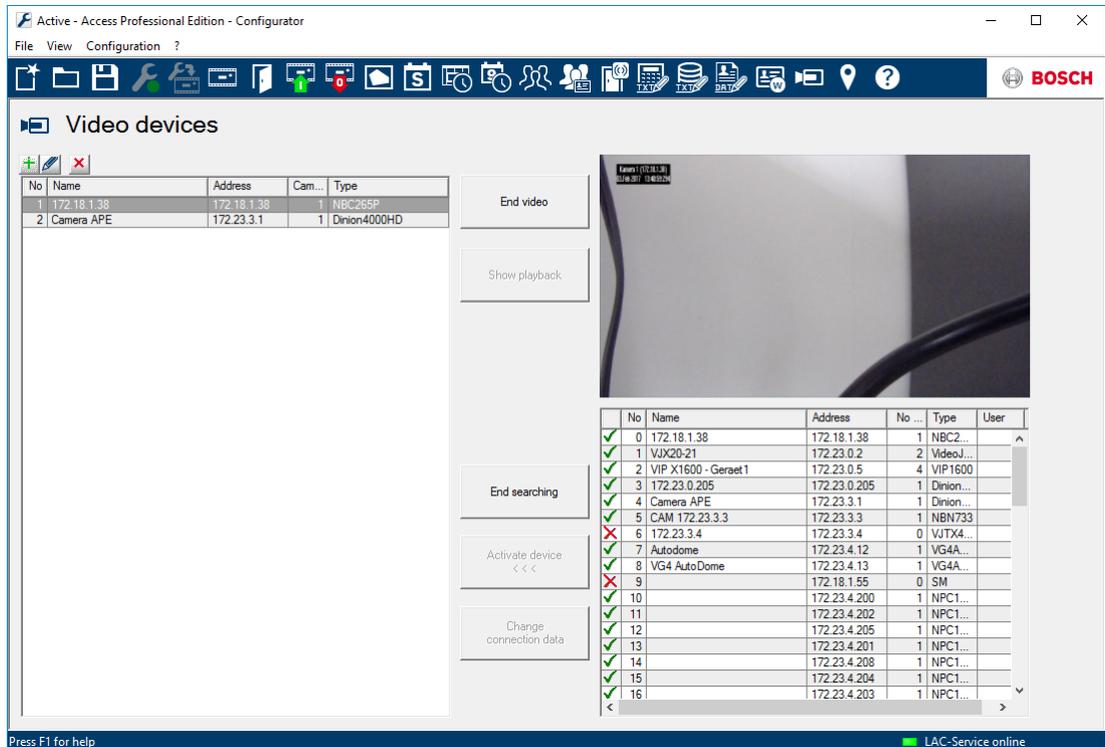
いいえ = フィールドを無効にしますが、名前とコンテンツは維持されます。

はい = フィールドを無効にし、名前とコンテンツは削除されます。

15 ビデオ機器

このダイアログを使用すると、ビデオ確認、室内監視、またはアラーム処理に使用する機器を管理できます。

ビデオ機器は、[**入口ダイアログ**] で個別の入口に割り当てられます（「6.4 章 - 入口にビデオ機器を割り当てる」を参照）。



このダイアログには 3 つのセクションがあり、次の機能に使用します。

1. 右下のリストフィールド

このリストフィールドの左にあるボタンを使用すると、ネットワーク内のビデオ機器を検索してアクセスコントロールシステム用に選択できます。

2. [新規機器を参照] ボタン

このボタンを押すと、ネットワーク上に Bosch Video SDK (ソフトウェア開発キット) でサポートされる新規機器がないかが検索されます。これを行う前に、すべてのビデオ機器を設置し、提供されている指示に従って構成する必要があります。

構成が重複するリスクを避けるため、有効化済みの機器が再び表示されることはありません。

検索中はボタン名が [**検索の終了**] に変わり、必要に応じて検索をキャンセルできます。

新しく見つかった機器は隣のリストフィールドに表示されます。

このリスト内のエントリはエンコーダ機器に対応し、カメラ自体には対応しません。[**カメラ数**] 列は、インターフェイスに従って使用可能なエンド機器の数を示します。

[**機器の有効化 <<<**] ボタンを押すと、選択したリストエントリを左側のリストフィールドに転送できます。それらの機器はアクセスコントロールシステムで使用可能になります。

ロード可能なのはオペレータがアクセスできる機器だけです (✓ のマークが付いています)。

✗ のマークが付いたリストエントリは、まず [**接続データの変更**] ボタンを押してアクセス可能にする必要があります。

注: ロード可能な機器の数はライセンスによって制限されている場合があります。その場合、機器はチャンネル番号シーケンスに従ってロードされます。

[**接続データの変更**] ボタンを押すと、パスワード保護された機器 (✗ のマークが付いている) をロードできます。

開いたダイアログで、ユーザー名とパスワードを入力してください。許可されるユーザーアカウントは、ビデオ機器の構成時にセットアップできます。ここではそれらのアカウントだけを使用できます。

**注記!**

【**接続データの変更**】ボタンが有効になるのは、機器の検索が完了していない場合だけです。

3. 左側のリストフィールド

機器を左側のリストフィールドに転送するとき（【**機器の有効化 <<<**】を使用する）、ビデオチャンネルごとに 1 つのリストエントリが作成されます。検索リストで【**カメラ数**】の下にあるエントリは、ロードされたエントリの数を示します。

個々の機器を識別しやすくするため、カメラにはエンコーダ機器エントリ（[名前]、[IP アドレス]、[タイプ]）の横で番号が付けられます。

Access PE のダイアログで選択しやすくするため、カメラはリストで示され、接続された機器の IP アドレスおよびカッコで囲まれた番号（たとえば、168.154.1.252 (2)）とともに表示されます。

ビデオ機器へのアクセスを制限するには、ユーザー名とパスワードによって保護することができます。それらの機器を Access PE で使用できるよう、現在のアクセスデータを構成する必要があります。

これを行うには、エントリを選択してから【**接続データの変更**】ボタンを押して編集ダイアログを開きます。同様に、ここでは当該のビデオ機器に認識されているユーザーデータだけを入力できます。（ビデオ機器のアクセスデータは、その機器独自のソフトウェアによってのみ変更できます。）

ユーザーデータの入力と変更のほか、このダイアログを使用すると、カメラを 3 つの**カテゴリ**のいずれかに割り当てることもできます。個別のユーザー権限をこれらの各カテゴリに割り当て、選択したユーザーだけが特定のカメラを操作できるようにすることができます。

機器の手動入力

特定のネットワーク構成または設定が原因で、設置した機器を自動検索機能で見つけることができない場合は、それらの機器のエントリを手動で作成できます。リストフィールドの上にあるボタンを使用して「ビデオ機器の変更」ダイアログにアクセスし、空のフィールドに必要な接続データを入力することもできます。

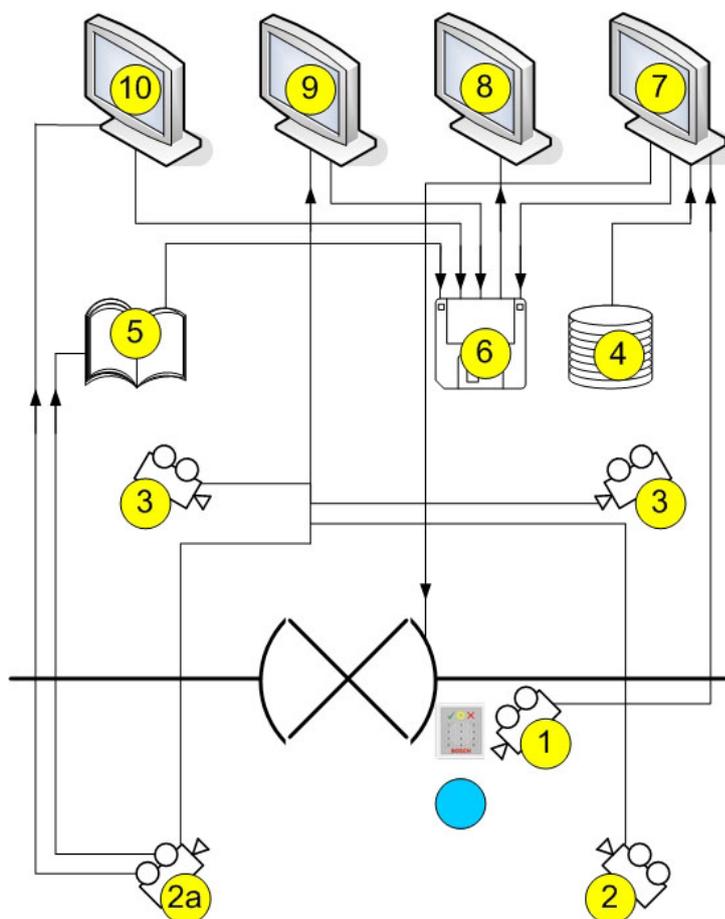
4. 右上のビデオパネル
適切なカメラを見つけやすくするため、選択したリストエントリ（左側のリスト）からライブ画像（「ビデオの表示」ボタンを使用）またはアーカイブ記録（「再生の表示」ボタンを使用）に切り替えることができます。記録を再生するには、まず開始する時刻を定義する必要があります。

注記!

記録を再生できるのは、ビデオシステムが当該のカメラ用に適切に構成されている場合だけです。ビデオデータは、ディスク容量の限界に達したときに最も古い記録から上書きされる循環バッファに保存されます。そのため、記録できる期間の長さはこのカメラ用に使用できる保存スペースによって決まります。

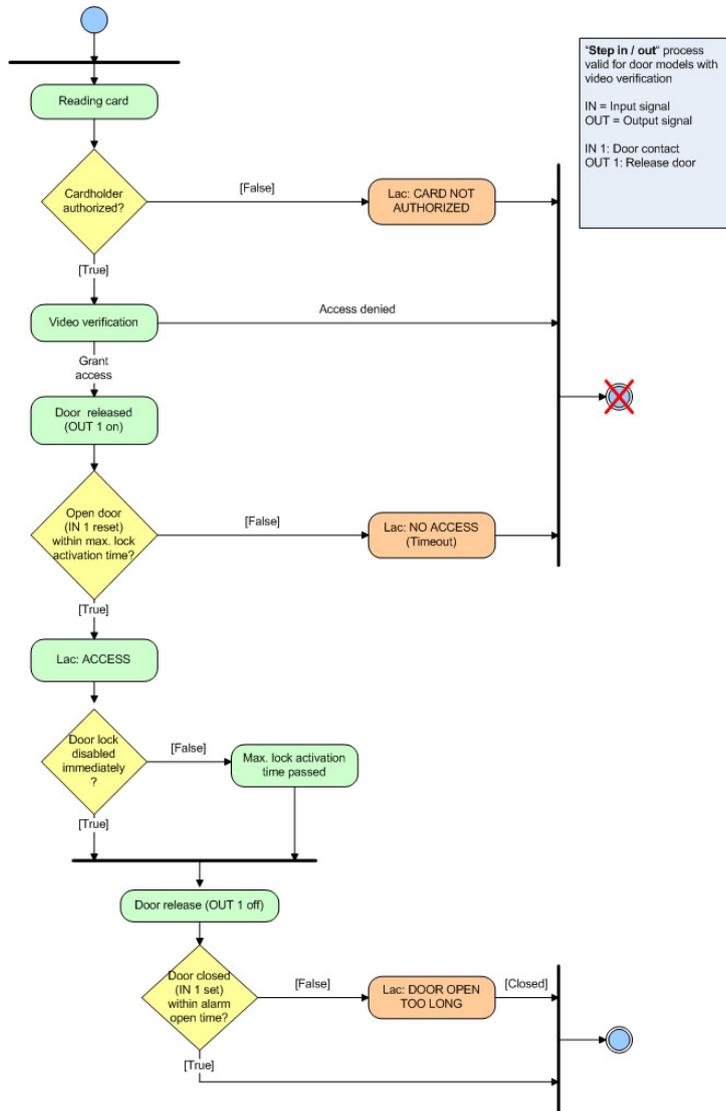


15.1 表示と処理



1 =	識別カメラ アクセス要求を受信すると、このカメラからの画像が [ビデオ確認] ダイアログ (7) に表示されます。
2 =	監視カメラ - 背面エリア
2a =	アラームおよびログブックカメラ カメラ 1、2 または 3 のいずれかを選択
3 =	監視カメラ- 前面エリア
4 =	データベース ビデオ確認 (7) では、識別カメラ (1) のライブ画像の反対側に比較用のデータベース画像が表示されます。
5 =	ログブック アラームおよびログブックカメラ (2a) を構成した場合、アラームに関連する画像が保存されます。
6 =	ローカルハードディスク / 保存メディア ローカルファイルは、ビデオ確認 (7) 、ビデオパネル (9) および [アラーム管理] (10) ダイアログのほか、ログブックメッセージ (5) の画像からも保存できます。ビデオ記録 (.vxx 形式) のファイルは、Bosch Video Player (8) で表示できます。

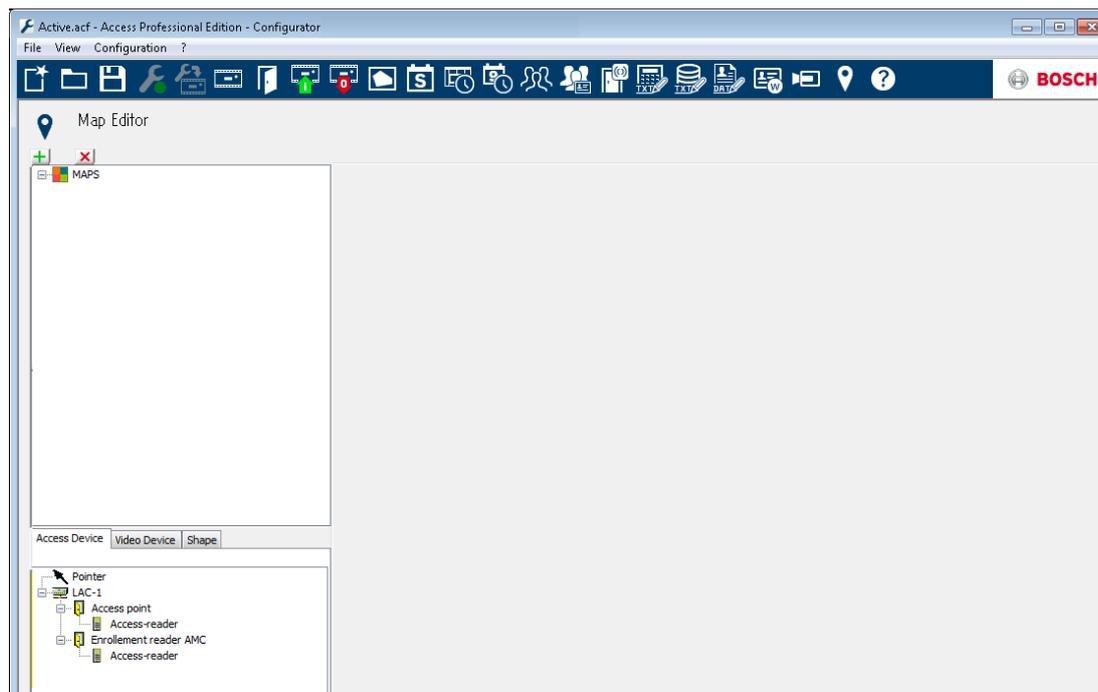
7 =	ビデオ確認 - 識別カメラ (1) からのライブ画像とデータベース画像 (4) の画像比較。 - ダイアログ内のボタンによるドアの解錠 / 施錠。 - 表示された画像のローカル保存 (6) 。
8 =	Bosch Video Player ローカルに保存した .vxx 記録 (6) はこのダイアログで表示できます。
9 =	ビデオパネル - このビューでは最大 4 台のカメラからの画像を同時に表示できます。 - 各カメラについてローカル記録 (6) が可能です。
10 =	アラーム管理 アラームおよびログブックカメラ (2a) を構成した場合は、関連する入口からのアラームメッセージに関するビデオ画像も表示できます。これらの画像のローカルコピー (6) を作成し、ビデオプレーヤー (8) で表示できます。



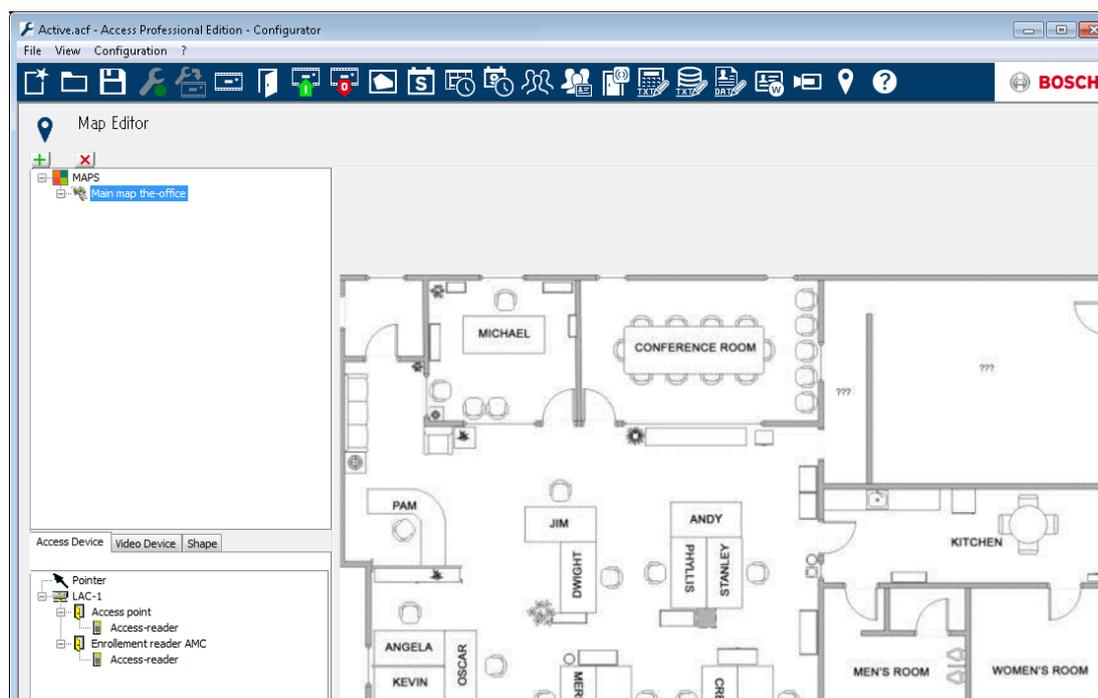
16

マップの構成

Map Editor の開始

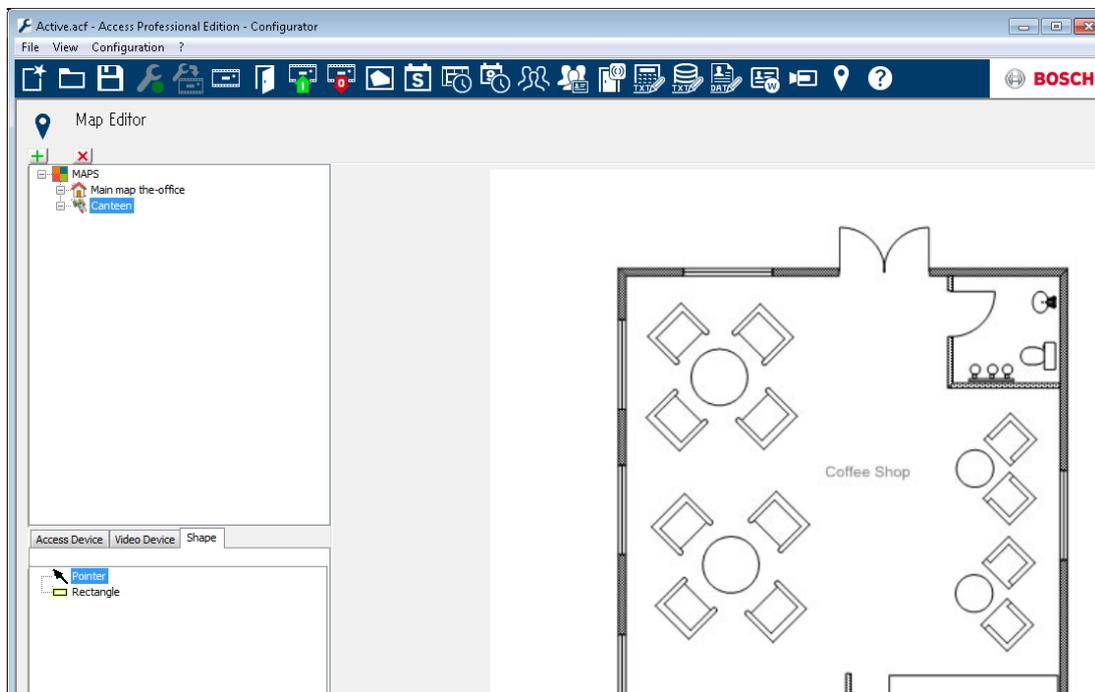


+ ボタンをクリックしてマップを追加します。

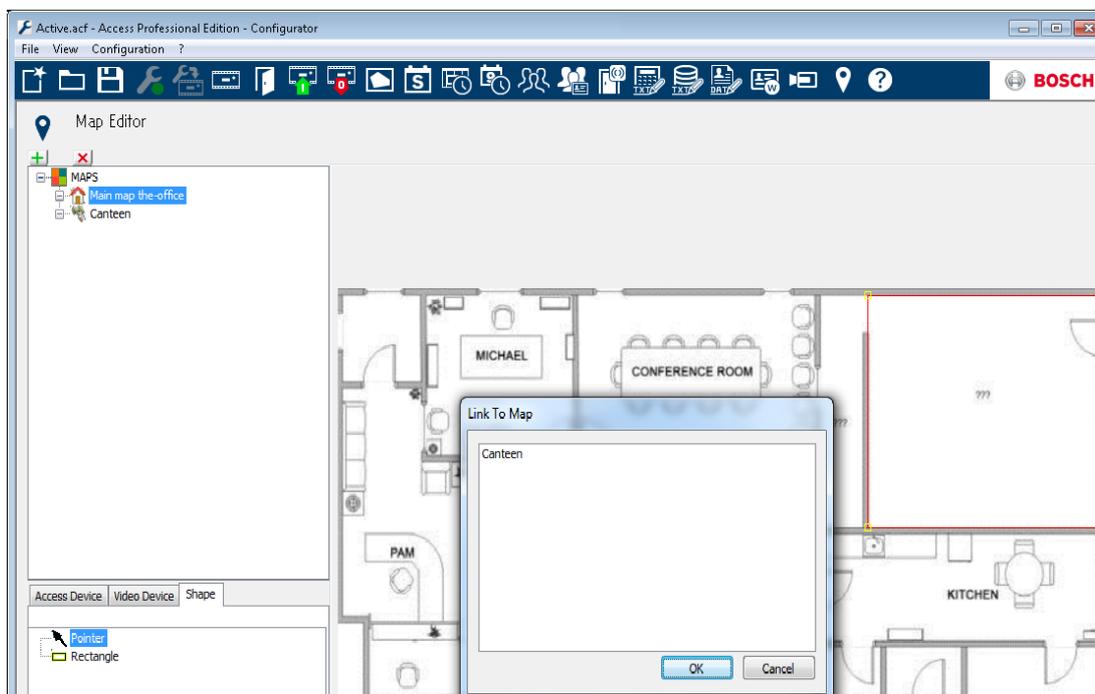


マップがダイアログに表示されます。

- オプションとして、このマップをホームマップとして設定します。
- マップツリーに食堂などの詳細ビューを追加します。



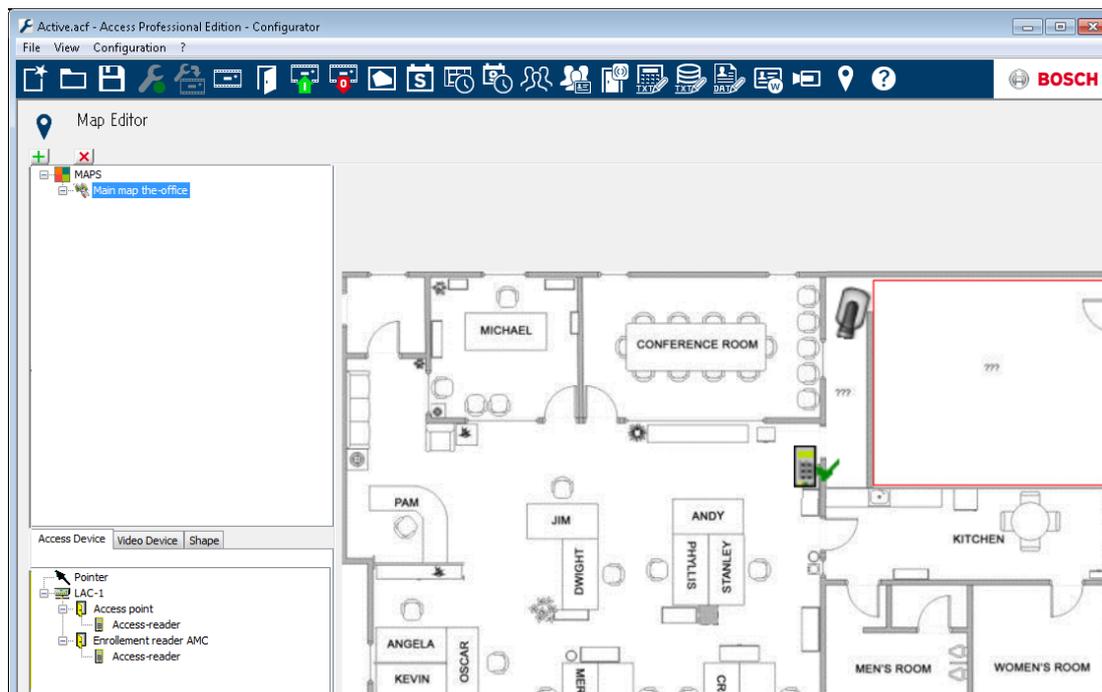
- 新しい【食堂マップ】をメインマップに関連付けるには、【シェイプ】タブで【長方形】を選択します。
- 詳細ビューとして表示するメインマップの部分に長方形を置きます（下の例では赤い長方形として表示）。
- 【マップにリンク】ディスプレイで、それぞれの詳細ビューを選択します。この例では「食堂」です。



17 マップへの機器の追加

[機器] タブを選択して、機器をマウスでドラッグしてマップに追加します。下の例では、次の機器が追加されています。

- 1 つのアクセスポイント
- 1 つのリーダー
- 2 つのカメラ



- マップの機器をクリックして、マウスボタンを押したままにすることでリサイズできます。
- デバイスをクリックして、マウスのスクロールホイールを使用して回転できます。

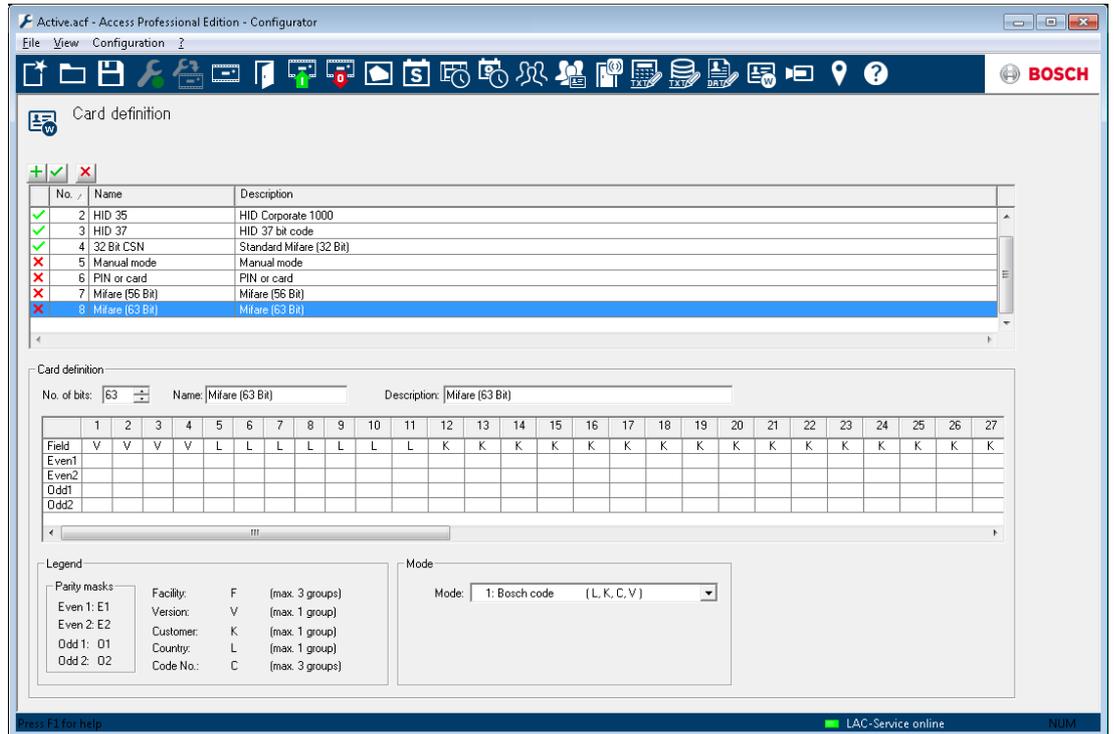
機器タイプ	コントロール要素
	ドア
	リーダー
	カメラ

機器タイプ	アラーム
アクセスポイント (入口)	
	ドアが承認なしで開けられました
	ドアの開放時間が長すぎました
	(すべてのリーダーアラームも入口アラームとして反映されます*)
リーダー	リーダーエラー
	
カメラ	なし

*) これらのアラームイベントはユーザーによってカスタマイズできます。つまり、ユーザーは [AcConfig] > [イベントログ] メッセージを使って任意のイベントをアラームイベントにできます (2 列目をダブルクリックするとアラームが発生します)。

18 カード定義

このダイアログは、後日にシステムに新しいカード定義を入力できるように、リーダーが送信するデータを定義します。



リストコントロールには既存のカードの定義が含まれます。デフォルトのシステム設定には 6 つの標準エントリが含まれ、そのうち最初の 4 つはアクティブです（最初の列に緑のチェックマークがあります）。【入力モード】の設定以外、すべての設定は書き込み保護されており、変更または削除ができません。



注記!

Wiegand コントローラおよびリーダーを使用する場合は、識別 PIN、アーミング PIN、またはドア PIN を使用するには、Wiegand カード定義 **[PIN またはカード]** (6 番) を有効にする必要があります。



注記!

有効なカードタイプの最大数は 4 であるため、有効にするカードタイプは 4 つのみにしてください。

新しいエントリを開始するには、 をクリックします。メーカーの情報に応じて、**ビット数**とそのエンコードが選択および表示されます。



注記!

すべての定義で最大ビット数は 64 に制限されています。任意のコード部分（ファシリティ、バージョン、顧客、国、コード番号）の最大数は 32 ビットです。

新しいカード定義と他のものとは区別するために、固有の名前と説明を入力します。

【ビット数】フィールドで値を入力することにより、下にあるリストボックスの列の数が変更されます。5 つの行が表示され、結果のマトリックスでは、必要に応じて個別のビットを有効/無効にできます。

コードの解釈は、【フィールド】行のセルに次の可能な値を入力することで指定できます。

- F ファシリティ：ファシリティのエンコード用にビットに目印が付けられます。
- V バージョン：バージョンバリエーションのエンコード用にビットに目印が付けられます。
- K 顧客のエンコード用にビットに目印が付けられます。
- L 土地：国コードのエンコード用に目印が付けられます。
- C コード番号：カード番号のエンコード用にビットに目印が付けられます。
- E1 偶数 1：最初の偶数パリティマスク用にビットをキャンセルします いくつかのフィールドに値を入力すると、対応する行のチェックボックスがオンになります。
- E2 偶数 2：2 つ目の偶数パリティマスク用にビットをキャンセルします
- O1 奇数 1：最初の奇数パリティマスク用にビットをキャンセルします
- O2 奇数 2：2 つ目の奇数パリティマスク用にビットをキャンセルします
- 1 コード自体を構成するビット値
- 0

マニュアルモードを定義する、または新しい例のを作成する場合、コードを読み取るためのモードを指定できます。たとえば、【PIN またはカード】モードを選択すると、コード番号つまり C とマークされている部分だけが読み取られます。次のモードバリエーションから選択できます。

シリアル番号	モード	チェックされたコード部分
0	ファシリティ番号 + コード番号	F、C
1	Bosch コード	L、K、C、V
100	手動	C
200	PIN またはカード	C

説明：

カードが提示されたリーダーから送信される「電信」は、0 と 1 の羅列です。それぞれのカード/リーダータイプに応じて、電信（ビットの数）の長さは正確に定義されています。この種類の電信には、ユーザーデータに加えて、電信タイプを識別して正しいデータ転送を確認するための制御データが含まれます。正しいデータ転送は、パリティビットによって確認されます。パリティビットは、マ

スク内の選択されたビットのチェックサムを表し、0（偶数パリティ）または 1（奇数パリティ）を表します。コントローラは、1 つまたは 2 つのチェックサムを偶数パリティで計算し、1 つまたは 2 つのチェックサムを奇数パリティで計算するよう設定できます。リストボックスでは、パリティチェックサム用に予約された行（Even1、Even2、Odd1、および Odd2）で、チェックサムに含めるビットをマークできます。

最も上の行（フィールド）で、パリティタイプに応じてチェックサムのバランスを取るのに使用する各チェックサムに 1 ビットが指定されます。パリティタイプ（Even1、Even2、Odd1、Odd2）が使用されない場合、行は空白のままです。

カードの定義の有効化/無効化

リストボックスの最初の列にある記号は、それぞれのカードの定義の有効化ステータスを表します。



有効化済み



無効化済み

記号をダブルクリックすると、有効化ステータスを切り替えることができます。安全チェックは、使用中のカード定義を削除することの結果について警告します。



注記!

カード暗号化または組み合わせが間違っていると、すべてのカードを読み取れなくなる可能性があります。選択したカード暗号化を有効化しますか？



注記!

このエンコーディングを現在使用しているすべてのカードは読み取りできなくなります。選択したカードエンコーディングを無効化しますか？

19 付録

19.1 信号

入力および出力で利用可能な記号のリスト。

入力信号	説明
ドアセンサー	
退室用ボタン	ドアを開くためのボタン
Bolt センサー	メッセージで使用されるのみ。制御機能はありません。
入口は施錠されています	放水路の反対側のドアを一時的にロックするために使用されます。ただし、恒常的にロックするためにも使用できます。
妨害	外部コントローラの妨害信号
回転ドアは正常な位置です	回転ドアが閉じられています。
通過完了	通過が正常に完了しました。これは外部コントローラのパルスです。
IDS：作動準備完了	すべての検出器が静止中で、IDS が作業準備可能な場合に IDS が設定します。
IDS：作動済み	IDS が作動済みです。
IDS：作動準備用ボタン	IDS を作動準備するためのボタンです。
ローカルオープンが有効です	ドアの取り決めが AMC の関与なくドアを開いた場合に使用されます。AMC は侵入メッセージは送信しませんが、「ドアがローカルに開けられました」

出力信号	説明
ドア開閉装置	
放水路：反対方向を施錠	放水路の反対側を施錠します。ドアが開くと設定されます。
アラーム抑止	... IDS へ。ドアが開放されている限り設定され、IDS が侵入メッセージを作成するのを防ぎます。
緑のインジケーター	インジケーターランプ：ドアが開放されている限り制御されます。
ドアの開放時間が長すぎました	3 秒のパルス。ドアの開放時間が長すぎる場合。
カメラのアクティベーション	通過の最初にカメラが有効にされます。

出力信号	説明
開いた回転ドアの着信	
開いた回転ドアの発信	
ドアが永続的に開放されています	ドアが永続的に開放されていることを示します。
IDS : 作動	IDS を作動させるためのパルスまたは永続的なコンタクト。
IDS : 作動解除	IDS を作動解除するためのパルス。

19.2 デフォルトのドアモデル

標準のドアモデル

次のドアモデルはデフォルトで利用可能です。

- 01a 入室リーダーと退室リーダー付きの通常のドア
- 01b 入室リーダーと押しボタン付きの通常のドア
- 01c 入室リーダー付きの通常のドア
- 01r 避難時などに集合場所で人物を登録する用途専用のリーダー。物理的な障壁が関係しないため、信号は生成されません。
- 03b 入室リーダーと押しボタン付きの反転可能な回転ドア
- 03c 入室リーダー付きの回転ドア
- 06c AMC による登録 - 入室コントロールなし
- 07a 最大 16 フロアのエレベーター
- 07b 最大 16 フロアのエレベーター
- 10a 入室リーダーと退室リーダーと IDS 再作動の通常のドア
- 10b 入室リーダーと押しボタンと IDS 再作動の通常のドア
- 10c 入室リーダーと IDS 再作動の通常のドア
- 10d 入室リーダーと退室リーダーと分散 IDS 再作動の通常のドア
- 10e 入室リーダーと押しボタンと分散 IDS 再作動の通常のドア
- 10f 入室リーダーと分散 IDS 再作動の通常のドア
- 14a 入室リーダーと退室リーダーと IDS 再作動の通常ドア（作動承認）
- 14b 入室リーダー、押しボタン、IDS 再作動の通常のドア（作動承認）
- 14c 入室リーダーと IDS 再作動の通常のドア
- 14d 入室リーダーと退室リーダーと分散 IDS 再作動の通常のドア

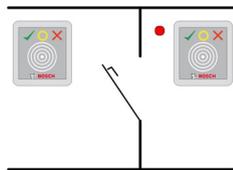
14e 入室リーダーと押しボタンと分散 IDS 再作動の通常のドア

14f 入室リーダーと分散 IDS 再作動の通常のドア

19.3

ドアモデル 01

通常のドア



信号：

入力信号	出力信号
ドアセンサー	ドア開閉装置
押しボタン：ドア開放	放水路：反対方向を施錠
Bolt センサー	アラーム抑止
入口は施錠されています	カメラのアクティベーション
妨害信号	ドアの開放時間が長すぎました
ローカルオープンが有効です	

モデルの種類：

01a 入室リーダーと退室リーダー付きの通常のドア

01b 入室リーダーと押しボタン付きの通常のドア

01c 入室リーダー付きの通常のドア

01r 避難時などに集合場所で人物を登録する用途専用のリーダー。このドアモデルでは物理的な障壁が関係しないため、信号は生成されません。

注記：

侵入防止ドアのロックは、ドアが侵入防止ドアとしてパラメータ化されている場合にのみ有効です。ドアが侵入防止ドアとして設定されていない場合、入力信号 03 はリーダーロックとして解釈されません。その場合、入力信号 03 が設定されると、リーダーはロックされます。

アラーム抑止は、ドアの開放前のアラーム抑止時刻が 0 より大きい場合にのみ有効になります。

オプションでセカンダリリーダーを接続することができます。2 つ目のドアと侵入防止ドアロックとの組み合わせにより、両方のドアを侵入防止ドアとして制御することができます。この使用法は車両の入口でも利点があり、この場合にはトラックや乗用車のセカンダリリーダーが推奨されます。

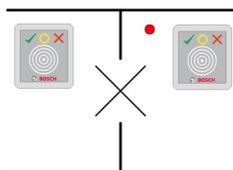


注記！

シングリング機能は DM 03 でのみパラメータ化できます。

19.4 ドアモデル 03

反転可能な回転ドア



信号：

入力信号	出力信号
回転ドアは正常な位置です	開いた回転ドアの着信
押しボタン：ドア開放	開いた回転ドアの発信
入口は施錠されています	放水路：反対方向を施錠
妨害信号	アラーム抑止
	カメラのアクティベーション
	ドアの開放時間が長すぎました

モデルの種類：

- 03a 入室リーダーと退室リーダー付きの反転可能な回転ドア
- 03b 入室リーダーと押しボタン付きの反転可能な回転ドア
- 03c 入室リーダー付きの回転ドア

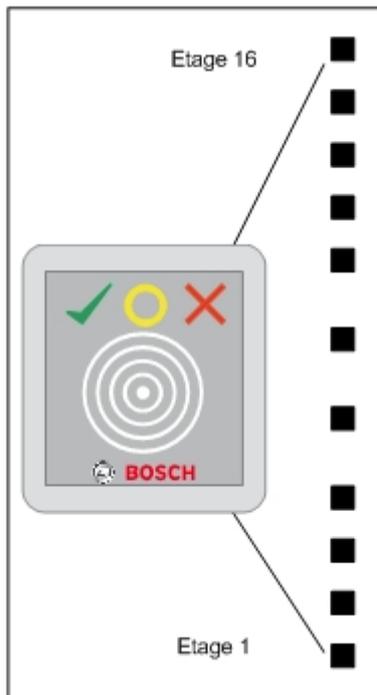
注記：

侵入防止ドアのロックは、ドアが侵入防止ドアとしてパラメータ化されている場合にのみ有効です。ドアが侵入防止ドアとして設定されていない場合、入力信号 03 はリーダーロックとして解釈されません。その場合、入力信号 03 が設定されると、リーダーはロックされます。2 つ目のドアと侵入防止ドアロックとの組み合わせにより、両方のドアを侵入防止ドアとして制御することができます。入口では、構造にもよりますが、シングリング機能を実行できます。

19.5 ドアモデル 06c

ドアモデル 06c では、AMC に接続されたリーダーを登録機器として設定します。入口を制御することはありません。

19.6 ドアモデル 07



モデルの種類 :

- 07a エレベーター
- 07b エレベーター、リーダー入力あり



注記!

基準として、1 つの AMC2 を 8 つのフロアで使用できます。次の前提条件で入口を増やすことができます。

Wiegand (AMC2 4W + AMC2 4W-EXT + 3 AMC2 16I-160-EXT) を使用した場合は 64 フロア
RS 485 (AMC2 4R4 + 3 AMC2 16I-160-EXT) を使用した場合は 56 フロア

入口モデル 07a の信号 :

入力信号	出力信号
フリー	フロア 01
フリー	フロア 02
フリー	フロア 03
フリー	フロア 04
...	...
フリー	フロア 16

手順：

まず、カード所有者がエレベーターを呼びます。これは、エレベーターの物理的なボタンを使うか、カードリーダー（ドアモデル 01c など）を使って行えます。

次に、エレベーター内に別のカードリーダー（ドアモデル 07a）があります。このリーダーは、ユーザーのカードで承認されているフロアへのアクセスを許可します。承認されたフロアがユーザーに表示されます（該当するフロアのボタンだけが点灯するなど）。その後、ユーザーは承認されたフロアのいずれかのみを選択できます。

入口モデル 07b の信号：

入力信号	出力信号
入力キー - フロア 01	フロア 01
入力キー - フロア 02	フロア 02
入力キー - フロア 03	フロア 03
入力キー - フロア 04	フロア 04
...	...
入力キー - フロア 16	フロア 16

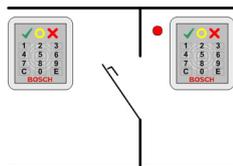
手順：

まず、カード所有者がエレベーターを呼びます。これは、エレベーターの物理的なボタンを使うか、カードリーダー（ドアモデル 01c など）を使って行えます。

次に、エレベーター内で、ユーザーは自分のカードを別のカードリーダー（ドアモデル 07b）に提示し、該当するフロアのボタンを押します。AMC は選択したフロアでユーザーが承認されているかどうかを確認し、確認が取れると、そのフロアまでユーザーを運びます。

19.7 ドアモデル 10

通常のドアで IDS（侵入検知システム）作動/作動解除



信号：

入力信号	出力信号
ドアセンサー	ドア開閉装置
押しボタン： ドア開放	IDS： 作動解除 [パルスが 1 秒のモデル d と f のみ]
IDS： 作動準備完了	カメラ/モーターロック
IDS： 作動済み	IDS： 作動 [パルスが 1 秒のモデル d と f のみ]
妨害信号	ドアの開放時間が長すぎます (侵入)
IDS： 作動中	

モデルの種類：

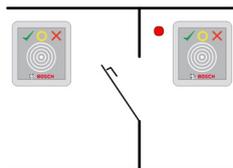
- 10a 入室リーダーと退室リーダーと IDS 再作動の通常のドア
- 10b 入室リーダーと押しボタンと IDS 再作動の通常のドア
- 10c 入室リーダーと IDS 再作動の通常のドア
- 10d 入室リーダーと退室リーダーと分散 IDS 再作動の通常のドア
- 10e 入室リーダーと押しボタンと分散 IDS 再作動の通常のドア
- 10f 入室リーダーと分散 IDS 再作動の通常のドア

注記：

入口のリーダーの **E** ボタンは IDS（侵入検知システム）を作動できます。承認済みのカードと PIN コードの入力が必要です。IDS は最初の承認済みの入室で作動解除され、ここでも PIN コードによる識別が必要です。a から c のモデルの場合、出力信号作動/作動解除 IDS によって制御されます。**d** から **f** のモデルの場合、作動と作動解除は別の 1 秒のパルスによってトリガーされます。接続されたバイステープリレーにより、複数のドアの IDS を管理できます (DCU/ドアコントロールユニット)。ここでは、信号でリレーへの論理 OR 接続が必要です。[IDS が作動済みです] と [IDS が解除されました] の信号は、すべての該当する DCU で 2 重に接続されている必要があります。

19.8 ドアモデル 14

IDS コントロール付きのドア



信号：

入力信号	出力信号
ドアセンサー	ドア開閉装置
押しボタン： ドア開放	IDS： 作動解除 [パルスが 1 秒のモデル d と f のみ]
IDS： 作動準備完了	カメラ/モーターロック
IDS： 作動済み	IDS： 作動 [パルスが 1 秒のモデル d と f のみ]
妨害信号	ドアの開放時間が長すぎます (侵入)
IDS： 作動中	

モデルの種類：

- 14a 入室リーダーと退室リーダーと IDS 作動/作動解除の通常のドア
- 14b 入室リーダーと押しボタンと IDS 作動/作動解除の通常のドア
- 14c 入室リーダーと IDS 作動/作動解除の通常のドア
- 14d 入室リーダーと退室リーダーと分散 IDS 作動/作動解除の通常のドア
- 14e 入室リーダーと押しボタンと分散 IDS 作動/作動解除の通常のドア
- 14f 入室リーダーと分散 IDS 作動/作動解除の通常のドア

注記：

ドアモデル 10 とは対照的に、ドアモデル 14 はキーパッドありなしに関係なくリーダーを使用できます。また IDS 作動権限の割り当てにも相違があります。十分な権限を持ったカード所有者だけが IDS を作動または作動解除できます。

作動/作動解除のプロセスは PIN コードの使用によってここでは統制されず、リーダーの近くにあるボタン（キーパッドありのリーダーのキー 7 と同じ機能を持つ）によって統制されます。このボタンを押すと、IDS のステータスがリーダーの色付き LED で示されます。

- 作動解除 = 緑/赤が交互に点滅
- 作動 = 赤い光が点灯

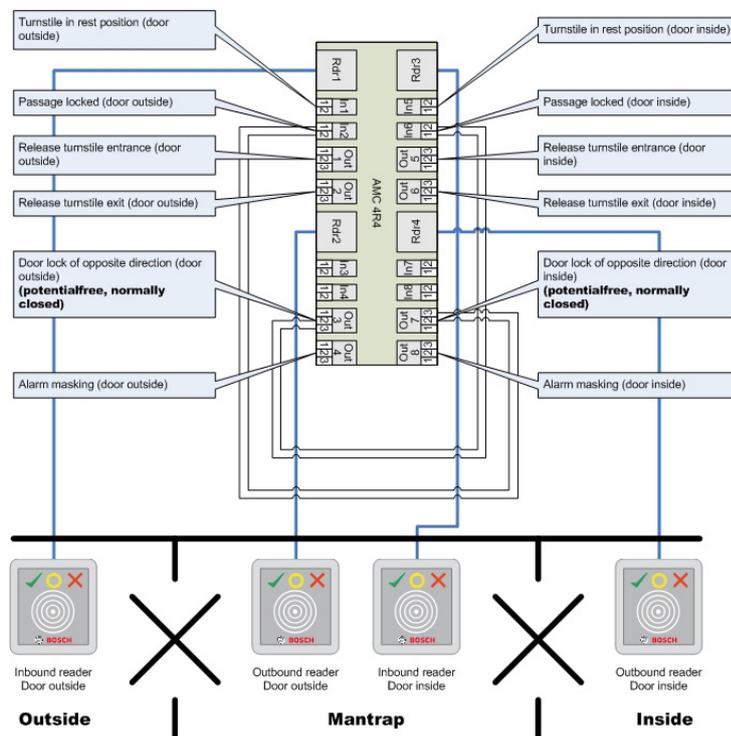
IDS は有効なカードが提示されると作動します。

作動解除は、ボタンを押して有効なカードを停止することによって行えます。
ドアはすぐにはロック解除されません。ロック解除するには、作動解除後にもう一度カードを提示します。

19.9 侵入防止ドアの設定の例

回転ドアは、カード所有者のアクセスをシングリングするための最も一般的な方法です。次の例ではドアモデル 3a を使用しています（入室リーダーと退室リーダー付きの回転ドア）。

2 つの回転ドアのある侵入防止ドアの設定 (DM 03a)



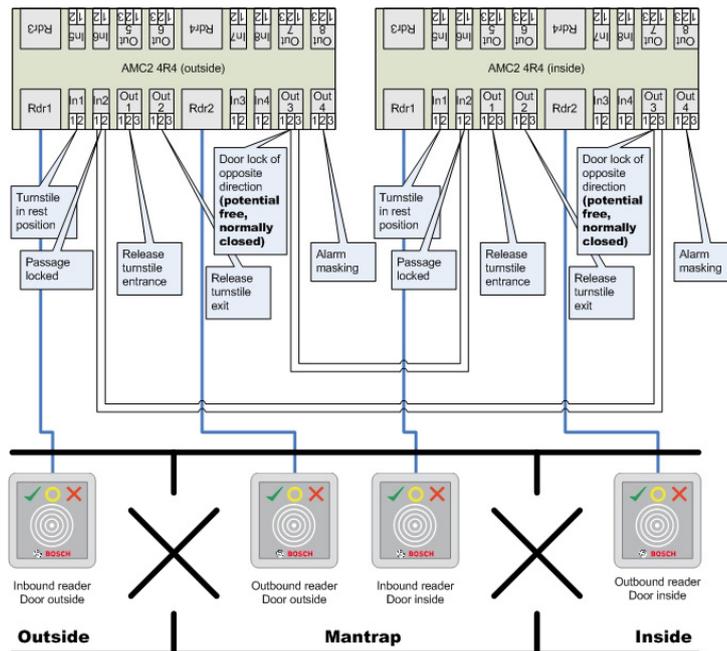
逆方向のドアロックへの接続により、1 度に 1 つの回転ドアしか開けられないことを保証します。



注記!

出力信号 (Out 3) は潜在的にフリー（ドライモード）として設定します。通電していない場合、「逆方向のドアロック」信号は閉じられる必要があります（抵抗 = 0）。「通常は閉じる」（NC）コンタクトの出力 3 と 7 を使用します。

2つのコントローラに分散される2つの回転ドア（DM 03a）付きの侵入防止ドアの設定。



逆方向のドアロックへの接続により、1度に1つの回転ドアしか開けられないことを保証します。

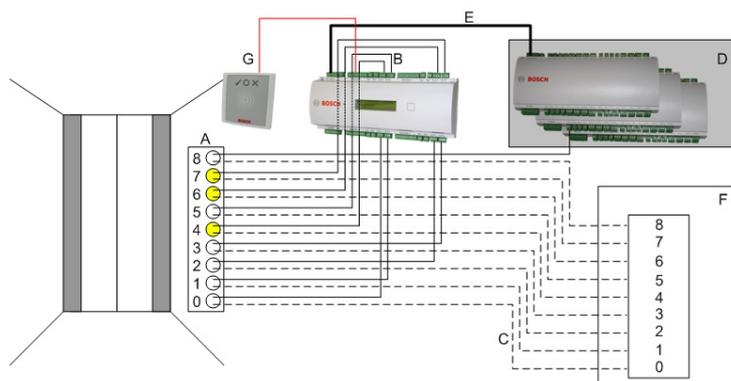


注記!

出力信号（Out 3）は潜在的にフリー（ドライモード）として設定します。通電していない場合、「逆方向のドアロック」信号は閉じられる必要があります（抵抗 = 0）。「通常は閉じる」（NC）コンタクトの出力 3 と 7 を使用します。

19.10 入口モデル 07 の設定

次の図は、ドアモデル 07a を使用したエレベーターの配線を示しています。



凡例：

A = エレベーター内のフロアボタン

B = (実線) AMC 出力信号

C = (点線) エレベーター制御への接続

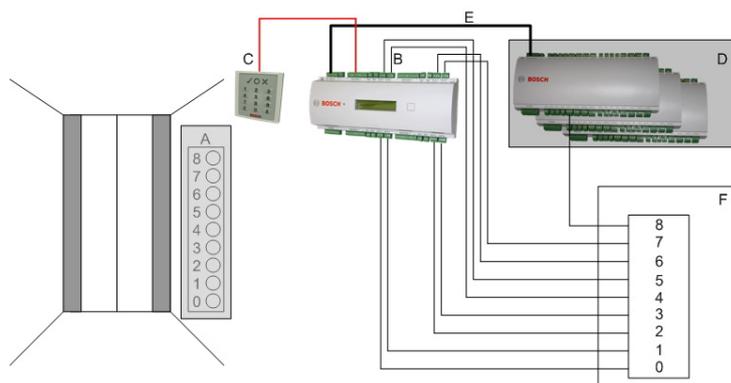
D = 1 つの I/O 拡張ボード (AMC2 8I-80-EXT、AMC2 16I-EXT、または AMC2 16I-160-EXT) を接続可能

E = AMC から I/O ボードへのデータと電源の供給

F = エレベーター制御

G = リーダー (ドアモデル 07a)

次の図は、ドアモデル 07b を使用したエレベーターの配線を示しています



凡例：

A = エレベーター内のフロアボタン

B = (実線) AMC 入力信号

C = (点線) AMC 出力信号

D = 1 つの I/O 拡張ボード (AMC2 8I-80-EXT、AMC2 16I-EXT、または AMC2 16I-160-EXT) を接続可能

E = AMC から I/O ボードへのデータと電源の供給

F = エレベーター制御

G = リーダー (ドアモデル 07b)



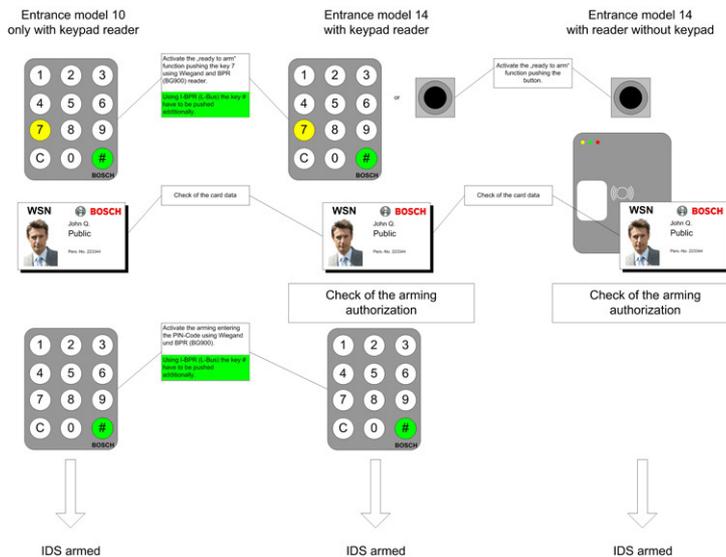
注記!

個別のフロア（最大 16）を AMC の出力に配線する場合、最初にコントローラ自体の信号を接続し、その後、存在する場合は任意の I/O 拡張ボードの最初の 8 つの出力を昇順に接続します。[Wiegand 拡張ボード（AMC2 4W-EXT）が作動している場合、AMC2 コントローラの出力の後、および任意の I/O 拡張ボードの出力の前に、それらの出力を昇順に使用します。]この理由で、エレベーター制御で使用される AMC に、その他の種類のドア、または追加のエレベーターを設定することはできません。

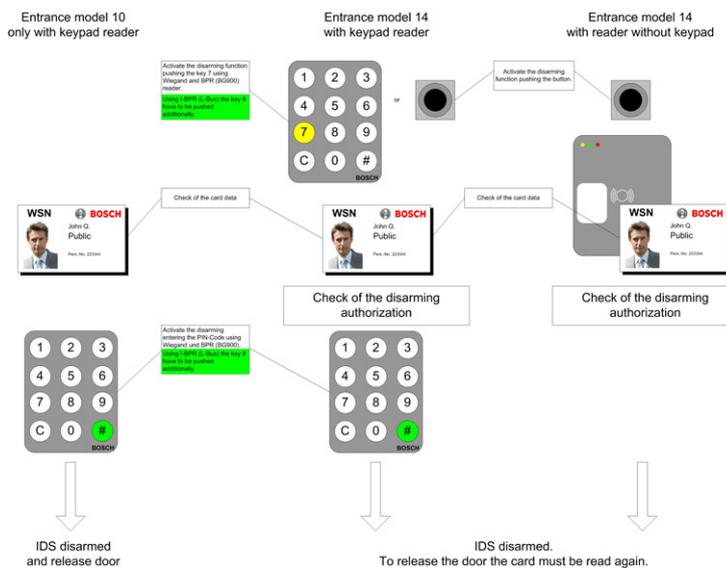
19.11

作動/作動解除の表示

入口（ドア）モデル 10 と 14 のアラームシステムを**作動**した場合の比較。



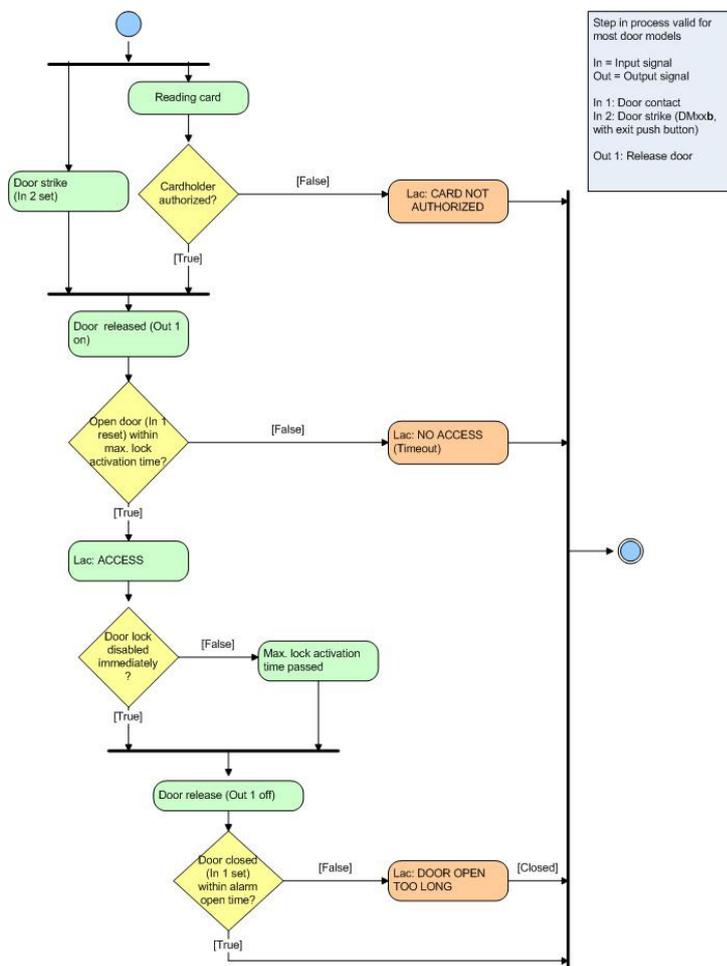
入口（ドア）モデル 10 と 14 のアラームシステムを**作動解除**した場合の比較。



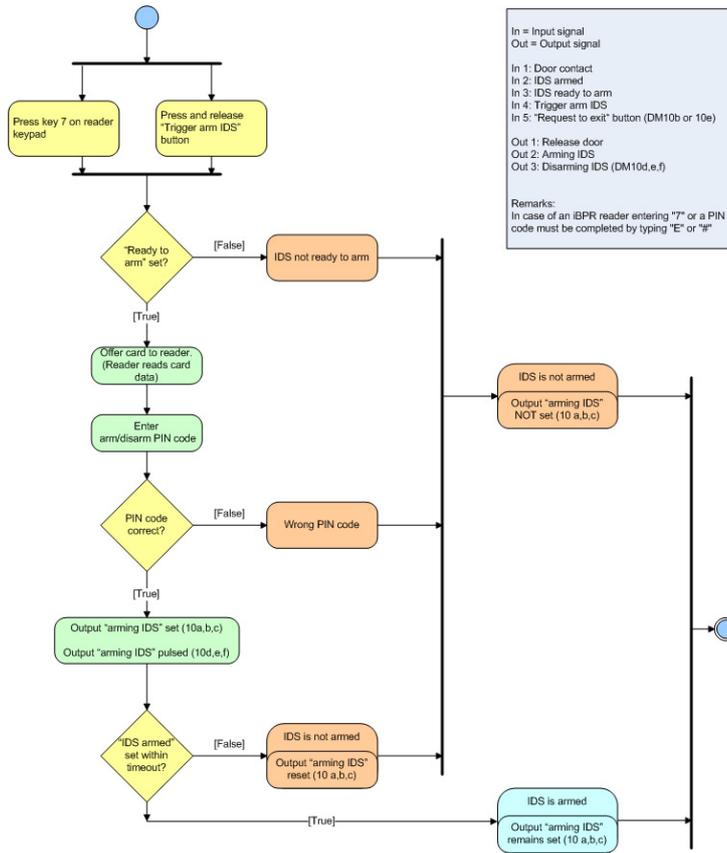
19.12 アクセス制御の手順

アクセス制御の手順のフローチャート

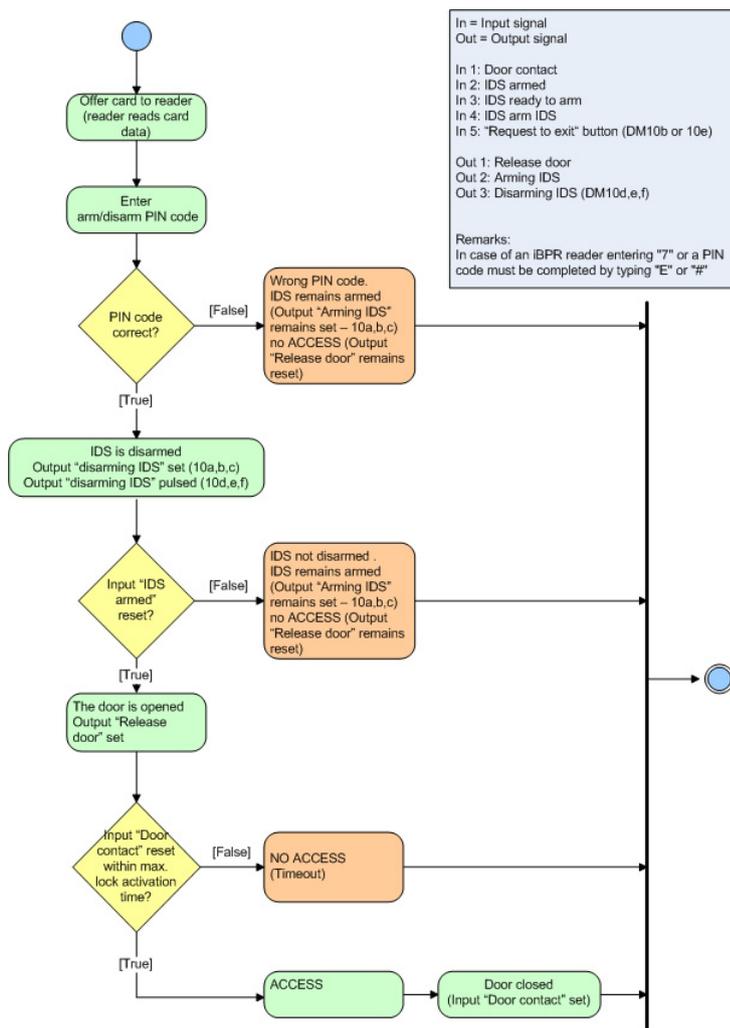
ドアモデル DM01



ドアモデル DM10 : 作動



ドアモデル DM10 : 作動解除



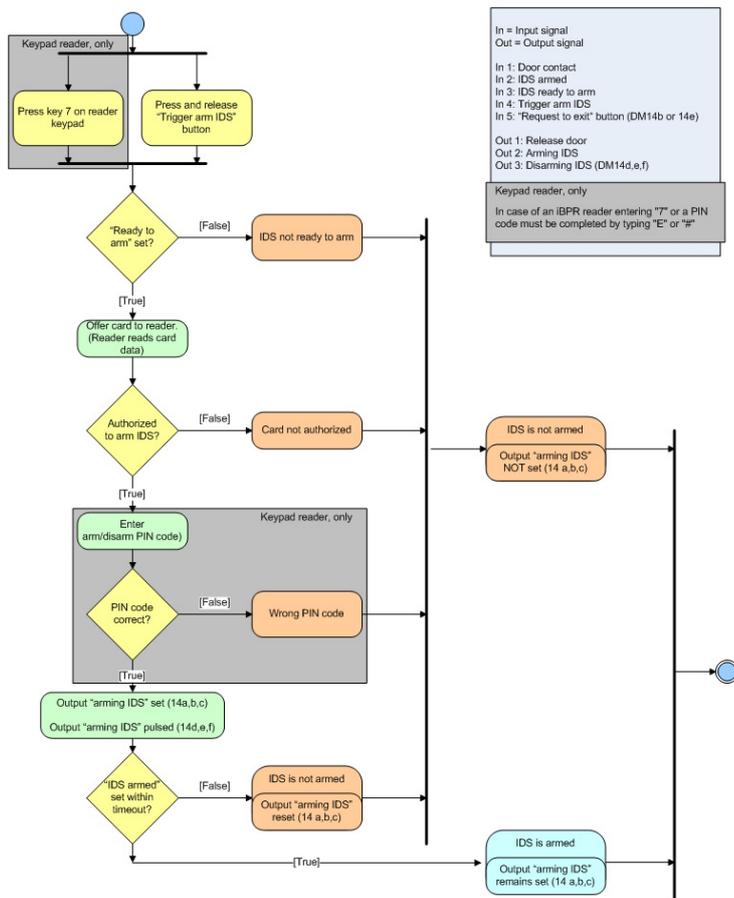
In = Input signal
Out = Output signal

In 1: Door contact
In 2: IDS armed
In 3: IDS ready to arm
In 4: IDS arm IDS
In 5: "Request to exit" button (DM10b or 10e)

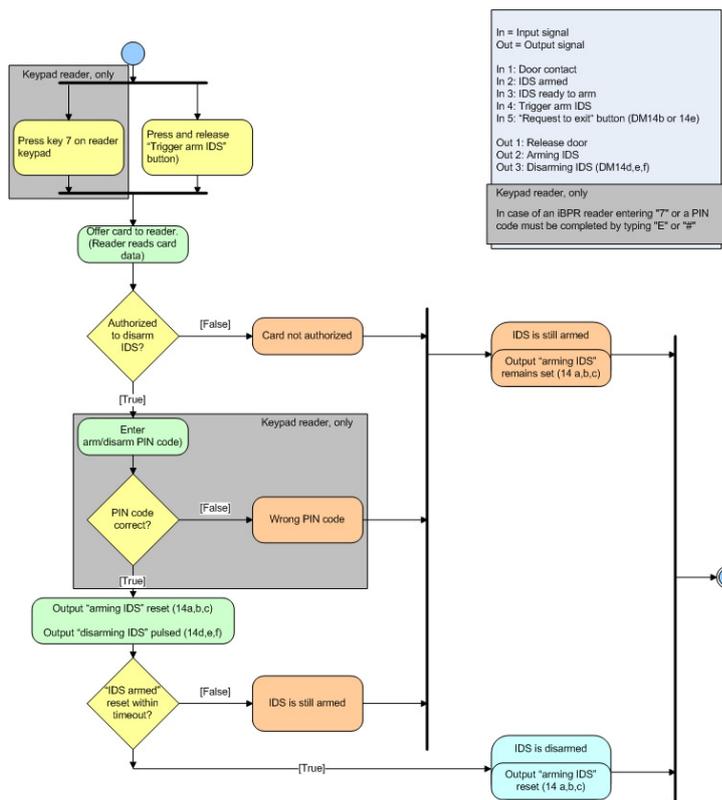
Out 1: Release door
Out 2: Arming IDS
Out 3: Disarming IDS (DM10d,e,f)

Remarks:
In case of an IBPR reader entering "7" or a PIN code must be completed by typing "E" or "#"

ドアモデル DM14 : 作動



ドアモデル DM14 : 作動解除



19.13 Access PE ポート

Access PE の個別のプロセスやアプリケーションは次のポートを使用します。

次の接続...	クライアント/ AMC	サーバー
クライアント - LacSp	未定義	43434/tcp
AcPers - CP	未定義	20005/tcp
LacSp - AMC	10001/udp	54545/udp 以上

20 PIN タイプ

Access Professional Edition では、それぞれのカード所有者に異なる目的で使用可能な最大 3 つの暗証番号 (PIN) を提供しています。

- 確認 PIN

この PIN は、特別な入口の追加のセキュリティ機能としてカード所有者が要求できます。確認 PIN は、カード所有者のために保管されたデータと比較され、提示されたカードの真の所有者であることが確認されます。

各人は、一般ルール (連続する数字や回文は不可など) に従って 4 ~ 8 桁の PIN を自分用に選択できます。[PIN の長さのパラメータは、確認、作動、ドア PIN に共通して適用されます]。確認 PIN はシステム内で固有にする必要はありません。

個別の作動 PIN が定義されていない場合 ([Configurator] > [設定] で **【個別の IDS PIN を使用する】** チェックボックスがオフの場合など)、確認 PIN は IDS の作動/作動解除で使用することもできます。

- PIN / IDS-PIN の作動

この特別の PIN はアラームシステムの作動と作動解除専用に使われます。ドアモデル 10 と 14 の場合、まず 7 のキーカードのプッシュボタンを押します。

各人は、一般ルール (連続する数字や回文は不可など) に従って 4 ~ 8 桁の PIN を自分用に選択できます。[PIN の長さのパラメータは、確認、作動、ドア PIN に共通して適用されます]。作動 PIN はシステム内で固有にする必要はありません。

カード所有者がドアを通過する際に PIN を入力する必要がある場合、確認 PIN を使用する必要があります。 **【個別の IDS PIN を使用する】** チェックボックスがオンの場合

([Configurator] > [全般設定])、確認 PIN は IDS の作動/作動解除で使用するはできません。この場合にのみ、人事ダイアログで関連する入力フィールドが表示されるようになります。



注記!

以前の Access PE バージョンとの互換性を保証するために、 **【個別の IDS PIN を使用する】** のチェックボックスはデフォルトでクリアされます。

- 識別 PIN/ID-PIN

この PIN は個人のカードを識別するため、システム内で固有なものとする必要があります。この PIN を入力すると、その人の定義済みのすべての承認に応じてアクセスが許可されます。固有なものであることを保証するために、システムは一般ルール (連続する数字や回文は不可など) に従って PIN を生成して個人に割り当てます。

物理的な認証と同様に、識別 PIN は所有者に割り当てられた制限を適用します (ブロック、時刻モデル、承認など)。

リーダープロトコルに応じて、識別 PIN と必要に応じて追加の文字をリーダーでに入力する必要があります。リーダーの場合は次の PIN を入力します: **4 # (Enter) PIN # (Enter)**。その他すべてのプロトコルでは、PIN をまず入力してから **# (Enter)** とします。

PIN の長さは 4 ~ 8 文字に設定できます。

[注記: 識別 PIN の長さは、有効な PIN を予測するのが難しくなるよう、設置環境のサイズに比例するようにします。たとえば、設置環境に 1000 人のカード所有者がいる場合、PIN は少なくとも 6 桁にして、有効な PIN の予測がほとんど不可能な状況にし、推測による入力によってアラームが生成される可能性を高くします。]

前述の PIN タイプはすべて人物に関連したもので、他の人事データと共に定義および維持されます。4 つ目のタイプはドア PIN と呼ばれます。

- ドア PIN

PIN は入口に属します（ [Configurator] > [入口] ）。使用が承認されたすべての人に知られている必要があります。そのような入口では、PIN ではなくカードを使用することもできます（PIN またはカードの機能を参照）。

この PIN も 4 ～ 8 桁にできます。ドア PIN の使用が無効になった場合（時刻モデルなどで）、アクセスはカードのみとなります。そのような場合には、識別 PIN も使用できません。

**注記!**

識別 PIN およびドア PIN のタイプは、IDS 作動のドアモデル 10 と 14 では使用できません。

21 UL 294 要件

以下の Bosch モデルカードリーダーは、UL によって Bosch の APE-SW ソフトウェアシステムとの互換性が評価されました。

- LECTUS secure 1000 WI
- LECTUS secure 4000 WI
- LECTUS secure 5000 WI

UL によって評価される機能：

- 26 ビット Wiegand フォーマットリーダー
- AMC2 コントローラ：
 - APC-AMC2-4WCF
 - API-AMC2-4WE
 - API-AMC2-8IOE
 - API-AMC2-16IOE
- APE-SW は補足監視機器

UL によって評価されない機能：

- ビデオ確認システム
- マップおよびビデオ確認を備えたマップビューアーとアラーム管理
- ビデオプレーヤー
- Badge Designer
- Delta 1200 シリーズ
- Rosslare ARD-1200EM シリーズ
- LAC コントローラ
- LACi コントローラ
- APC-AMC2-4R4CF コントローラ
 - BG 900 リーダーインターフェイスプロトコル
 - L-BUS リーダーインターフェイスプロトコル
- Security System IDS - 作動/作動解除
- エレベーター用
- テキスト
- 盗難警報機用



Bosch Access Systems GmbH

Charlottenburger Allee 50

52068 Aachen

Germany

www.boschsecurity.com

© Bosch Access Systems GmbH, 2018